

大東市埋蔵文化財調査報告第26集

鍋田川遺跡Ⅱ

—架空送電線鉄塔〔東大阪新生胸線・鉄塔 No.22〕建替えに伴う発掘調査報告書—

2008年3月

大東市教育委員会

鍋田川遺跡Ⅱ

—架空送電線鉄塔〔東大阪新生駒線・鉄塔 No.22〕建替えに伴う発掘調査報告書—

2008年3月

大東市教育委員会



1. 落込みA (北東より)



2. 落込みA遺物出土状況



1. 第Ⅵ層遺物出土状況（北半部）



2. 第Ⅵ層遺物出土状況（南半部）



1. 第VI層遺物出土状況



2. 調査区南壁断面



序 文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くに河内湾、河内湖、また江戸時代中頃までは深野池という大きな池が存在し、山や海・池などに縁取られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有してきました。

そのような環境のなかでわたしたちの先人達は個性豊かな歴史、文化を育み、その足跡として遺跡や神社仏閣、様々な美術工芸品など、いわゆる文化財が数多く残され今日に至っています。

この度、報告することになりました鍋田川遺跡は昭和33年に鍋田川の砂防堰堤工事の際に見えられて以来、その特異な出土遺物からたいへん注目されてきたなかでの第2回目の本格的な発掘調査でありまして、その内容としましては縄文～近世にいたる成果はもちろんのこと、特に古墳時代における成果はたいへん貴重なものとなり、従来から言われてきました遺跡の特異性をあらためて再確認することとなりました。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました関西電力株式会社をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできた貴重な文化財を大切に保存・活用し、そのすべてを未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

大東市教育委員会

教育長 中 口 馨

例 言

1. 本書は、大阪府大東市中垣内3丁目における鍋田川遺跡発掘調査(NBT92-1)の報告書である。
2. 調査は架空送電線鉄塔〔東大阪新生胸線・鉄塔No.22〕建替えに伴うもので、関西電力株式会社大阪北支店より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査および整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中達健一(現、生涯学習課所属)が担当した。
4. 本調査に係る費用については関西電力株式会社大阪北支店がこれを負担した。記して感謝の意を表する。
5. 調査面積は676㎡。調査期間は平成4年11月18日～平成5年3月3日である。
6. 現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。(敬称略、五十音順)
[現地調査]
大谷聡、甲斐範浩、谷崎光子、萩野登、樋口里美、村尾奈津子、森石千枝子、吉野正泰
[整理作業]
大谷聡、甲斐範浩、川崎昌美、谷崎光子、萩野登、樋口里美、宮田八重子、村尾奈津子、森石千枝子、吉野正泰
7. 本調査における基準点、水準点の設置は、ワールド航測コンサルタント株式会社(現、株式会社ワールド)に委託した。
8. 本調査で使用した座標は国土地院第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高はT.P.(東京湾平均海面値)である。尚、国土地院の数値については日本測地系での表示である。
9. 報告書作成に係る一部図面作成、遺物観察表、遺物写真撮影については、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
また、一部出土木製品の保存処理についても、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
10. 本書の執筆、編集は中達が行った。
11. 本調査に関わる出土遺物、実測図、写真、カラスライド等の各資料は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希冀する。

本文目次

序文

例言

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査の方法	5
第4章 調査成果	6
第1節 基本層序	6
第2節 第1遺構面	9
第3節 第2遺構面上面遺構	16
第4節 第2遺構面	18
第5章 まとめ	28

挿図目次

第1図 調査地位置図	1
第2図 大東市位置図	2
第3図 周辺遺跡分布図	4
第4図 調査区区割図	5
第5図 調査区西壁・北壁断面図	7
第6図 調査区東壁・南壁断面図	8
第7図 S D -105 平・断面図	10
第8図 S D -106 平・断面図	10
第9図 S D -107 平・断面図	10
第10図 S D -117 平・断面図	10
第11図 第1遺構面全体図	11~12
第12図 S K -101 平・断面図	14
第13図 S K -104 平・断面図	14
第14図 S K -106 平・断面図	14
第15図 S K -107 平・断面図	14
第16図 自然流路断面図	16
第17図 自然流路平面図	16
第18図 根株周辺遺物出土状況	17
第19図 第2遺構面全体図	19~20
第20図 S K -216 平・断・遺物出土状況図	22
第21図 S K -217 平・断・遺物出土状況図	22

第22図	S K -233 平・断面図	22
第23図	S K -234 平・断面図	22
第24図	落込みA平・断・遺物出土状況図	25
第25図	落込みB平面図	26
第26図	落込みB遺物出土状況図(1)	26
第27図	落込みB遺物出土状況図(2)	26
第28図	土器群R出土状況図	27
第29図	土器群S・T・U出土状況図	27
第30図	第1遺構面各遺構出土遺物	31
第31図	自然流路(上層)出土遺物	32
第32図	自然流路(中層)出土遺物	33
第33図	自然流路(下層)出土遺物(1)	34
第34図	自然流路(下層)出土遺物(2)	35
第35図	第2遺構面各遺構出土遺物	36
第36図	落込みA出土遺物(1)	37
第37図	落込みA出土遺物(2)	38
第38図	落込みA出土遺物(3)	39
第39図	落込みB出土遺物(1)	40
第40図	落込みB出土遺物(2)	41
第41図	第V層出土遺物(1)	42
第42図	第V層出土遺物(2)	43
第43図	第V層出土遺物(3)	44
第44図	第VI層出土遺物(1)	45
第45図	第VI層出土遺物(2)	46
第46図	第VI層出土遺物(3)	47
第47図	第VI層出土遺物(4)	48
第48図	第VI層出土遺物(5)	49
第49図	第VI層出土遺物(6)	50
第50図	第VI層出土遺物(7)	51
第51図	第VI層出土遺物(8)	52
第52図	第VI層出土遺物(9)	53
第53図	第VI層出土遺物(10)	54
第54図	第VI層出土遺物(11)	55
第55図	第VI層出土遺物(12)	56
第56図	第VI層出土遺物(13)	57
第57図	第VI層出土遺物(14)	58
第58図	第VII層出土遺物(1)	59

第59図	第VII層出土遺物(2)	60
第60図	第VII層出土遺物(3)	61
第61図	第VII層出土遺物(4)	62
第62図	第VII層出土遺物(5)	63

表 目 次

第1表	遺物一覧表	64
-----	-------	----

写真図版目次

巻頭カラー図版1

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 落込みA(北東より) | 2. 落込みA 遺物出土状況 |
|---------------|----------------|

巻頭カラー図版2

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 第VI層 遺物出土状況(北半部) | 2. 第VI層 遺物出土状況(南半部) |
|---------------------|---------------------|

巻頭カラー図版3

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 第VI層 遺物出土状況 | 2. 調査区南壁断面 |
|----------------|------------|

巻頭カラー図版4 出土遺物

図版1 遺構(1)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 第1遺構西半部(南東より) | 2. 第1遺構東半部(北西より) |
|------------------|------------------|

図版2 遺構(2)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 自然流路断面(南より) | 2. 自然木(根株?)出土状況(北東より) |
|----------------|-----------------------|

図版3 遺構(3)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 第VI層(北半部)遺物出土状況① | 2. 第VI層(北半部)遺物出土状況② |
|---------------------|---------------------|

図版4 遺構(4)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 第VI層(北半部)遺物出土状況③ | 2. 第VI層(北半部)遺物出土状況④ |
|---------------------|---------------------|

図版5 遺構(5)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 第VI層(北半部)遺物出土状況⑤ | 2. 第VI層(北半部)遺物出土状況⑥ |
|---------------------|---------------------|

図版6 遺構(6)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 第VI層(南半部)遺物出土状況 | 2. 同上(部分接写)① |
|--------------------|--------------|

図版7 遺構(7)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 同上(部分接写)② | 2. 同上(部分接写)③ |
|--------------|--------------|

図版8 遺構(8)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 同上(部分接写)④ | 2. 同上(部分接写)⑤ |
|--------------|--------------|

図版9 遺構(9)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 第VII層遺物出土状況① | 2. 第VII層遺物出土状況② |
|-----------------|-----------------|

図版10 遺構(10)

1. 第2遺構面南半部（北より）

図版 11

1. SK-216（北より）

図版 12

1. 落込みA（北東より）

図版 13

1. 同上（部分接写）①

図版 14

1. 同上（部分接写）③

図版 15

1. 落込みB（南西より）

図版 16

1. 落込みB遺物出土状況（土器②）

図版 17 出土遺物（1）

図版 18 出土遺物（2）

図版 19 出土遺物（3）

図版 20 出土遺物（4）

図版 21 出土遺物（5）

図版 22 出土遺物（6）

図版 23 出土遺物（7）

図版 24 出土遺物（8）

図版 25 出土遺物（9）

図版 26 出土遺物（10）

2. 第2遺構面北半部（南東より）

2. SK-217（東より）

2. 落込みA遺物出土状況（土器）

2. 同上（部分接写）②

2. 落込みA遺物出土状況（礎）

2. 落込みB遺物出土状況（土器①）

2. 落込みB遺物出土状況（土器③）

第1章 調査に至る経緯

鍋田川遺跡は昭和33年9月の砂防堰堤工事の際に発見された遺跡で、その時期に採集された古墳時代を中心とした土器のほかには滑石製の孔円盤、鹿角製品、卜骨などが見受けられたことから当初は古墳時代の祭祀遺跡と認識されてきた。以後、平成元年での初めての本格的な調査の実施、さらに平成3年、平成5年に実施された大阪府教育委員会の発掘調査の成果などから、現在では縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられている。

今回の調査は関西電力株式会社大阪北支店により架空送電線鉄塔の増強工事の事業計画がなされたことによる。この事業計画は生活水準の向上、都市機能の高度化および産業の発展などにより電力需要が年々増加の傾向を示し、将来において電力供給不足の状態が懸念されることから大阪府東部地域などに電力供給している東大阪変電所の電力容量を増やすこととなり、そのため奈良県生駒市北田原に所在する新生駒変電所から東大阪変電所に至る一部送電線（東大阪新生駒線）の鉄塔を大型化するため既存の鉄塔を建替えるという内容であった。

今回の発掘調査はその事業における東大阪新生駒線 No.22号と呼称される鉄塔を対象とした調査で、事務手続きを経て本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含む包含層を確認し遺跡の広がりが確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の公共的性格などにより計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

結果、関西電力株式会社大阪北支店より本市教育委員会に発掘調査の依頼がなされたことにより、本市教育委員会が発掘調査を実施することとなった。



第1図 調査地位置図

第2章 遺跡の位置と環境

中垣内遺跡は大阪府大東市中垣内一帯にかけて所在し、南北約850m、東西約1kmの範囲を持つ遺跡である。これまで十数次にわたって調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生時代の集落遺跡として有名である。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地からその西方に広がる沖積地にかけて立地している。

以下、大東市域の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年の東大阪変電所建設時における出土のため、その詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、自然河川、自然流路、包含層等からの出土ではあるが主に宮谷川、鍋田川周辺の遺跡から中～晩期を中心とした土器の出土が確認されている。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な土器の出土も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分高いものと考えられる。

〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えると重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地理的状況からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に



第2図 大東市位置図

堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鎌など多量の鉄製武器、武具類が出土していることから当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

(古代)

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡、元粉遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衛的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径1m程の木を削り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

(中世)

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチョの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

(近世)

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定されている遺構が検出されており、備前播鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土日唐津窯系皿、堺播鉢、石白などの陶磁器類がまとまって出土している。

(引用・参考文献)

- 大阪府史編纂専門委員会 1991年『大阪府史』別巻 大阪府
- 大東市教育委員会 1973年『大東市史』
- 大東市教育委員会 1987年『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集
- 大東市教育委員会 1989年『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第3集
- 大東市教育委員会 1990年『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集
- 大東市教育委員会 1997年『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
- 大東市教育委員会 1997年『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集
- 大東市教育委員会 1998年『メノロ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集
- 大東市教育委員会 1999年『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集
- 大東市教育委員会 2000年『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集
- 大東市教育委員会 2002年『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書
- 大東市教育委員会 2004年『元粉遺跡1』大東市埋蔵文化財調査報告第19集
- 大東市教育委員会 2004年『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集
- 大東市北新町遺跡調査会 1986年『北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1991年『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1997年『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』
- 大阪府教育委員会 1993・1994年『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四四編
- 中健健一 1995年『大東市・北条西遺跡(93・1次調査)』『まんだ』第五十六号
- 黒出淳 1988年『大東市“宮谷古墳群”の調査』『まんだ』第三十五号



第3図 周辺遺跡分布図(S=1/10000)

第3章 調査の方法

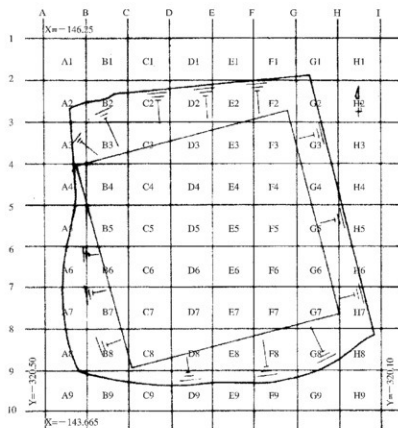
掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。

調査区の区割り設定については、調査区付近において調査区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第VI系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ5mごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に5m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点としてアルファベットを順次付し、また東西座標軸については北端を起点として算用数字を順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている。また、水準についてはT.P.（東京湾平均海面値）を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については遺構面ごとに付与しており、各遺構面を示す数字を遺構番号の頭に冠している。

写真撮影については6×7の中型カメラによるモノクロ撮影、35mm小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行った。



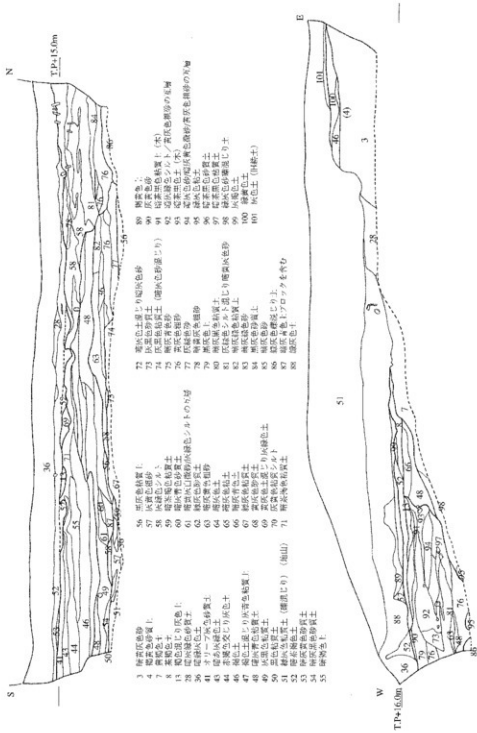
第4図 調査区区割図

第4章 調査成果

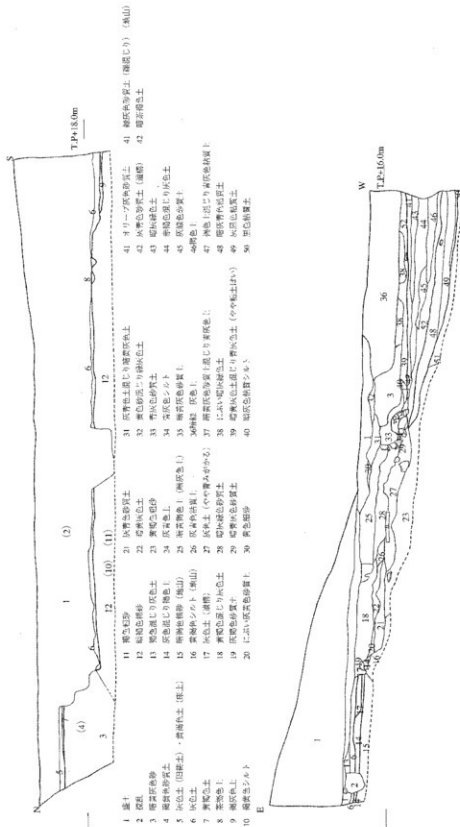
第1節 基本層序

今回の調査では層位的に3面の遺構面を確認した。基本的な層序については以下の通りである。

- 第Ⅰ層 盛土。調査区一帯の地形はほぼ南西に向けて傾斜している状況であり、また盛土以前の耕作地がその影響のため段状に形成されていたことから基本的に南西に向けて厚く堆積する状況であった。北東部で層厚約0.9 m、南東部で層厚約3.4 mを測った。南西部では層厚約5.8 m程度あったものと思われるが盛土した以降に削平を受けていたことから現況で層厚約1.3 mを測るものであった。
- 第Ⅱ層 旧耕地。水路部分を除きほぼ調査区全域に認められたもので、先にも述べたが南西に向って段状に耕作地が形成されていたことから、それに伴い堆積するものである。層厚は約0.15 mを測った。
- 第Ⅲ層 緑灰色土。調査区中央より西側にかけて認められた。層厚は約0.1～0.3 mを測った。第1遺構面のベース層になる。
- 第Ⅳ層 褐灰色土。調査区中央より東側を中心に認められた。層厚は約0.1～0.2 mを測った。第1遺構面のベース層になる。
- 第Ⅴ層 暗茶褐色土が主体をなす。南北座標軸のFラインより東側にかけて認められた。南西に向けて厚く堆積する状況で、層厚は約0.1～1.0 mを測った。
- 第Ⅵ層 暗灰青色粘質土。南北座標軸のEラインより東側にかけて認められた。南西に向けて厚く堆積する状況で、層厚は約0.1～0.5 mを測った。第2遺構面上面遺構のベース層になる。
- 第Ⅶ層 暗灰黒色粘質土が主体をなす。南北座標軸のEラインより東側にかけて認められた。南西に向けて厚く堆積する状況で、層厚は約0.1～0.5 mを測った。
- 第Ⅷ層 黄褐色系のシルト、砂が主体をなす。調査区の西側で認められた。層厚は確認し得なかった。考古学という地山層であり、第2遺構面のベース層になる。
- 第Ⅸ層 緑灰色粘質土が主体をなす。調査区の東側で認められた。層厚は確認し得なかった。考古学という地山層であり、第2遺構面のベース層になる。



第5図 調査区面壁-北壁断面図



- 1 底土
- 2 腐植
- 3 腐葉質砂
- 4 腐葉質砂質土
- 5 砂土 (団粒土)・腐葉質土 (団粒土)
- 6 砂土
- 7 腐葉質
- 8 腐葉質土
- 9 腐葉質土
- 10 腐葉質シルト
- 11 腐葉質砂
- 12 腐葉質砂
- 13 腐葉質土
- 14 腐葉質土 (団粒土)
- 15 腐葉質砂 (腐葉質)
- 16 腐葉質シルト (腐葉質)
- 17 腐葉質土 (団粒土)
- 18 腐葉質土 (団粒土)
- 19 腐葉質砂質土
- 20 腐葉質シルト
- 21 腐葉質砂質土
- 22 腐葉質砂
- 23 腐葉質砂
- 24 腐葉質
- 25 腐葉質土 (団粒土)
- 26 腐葉質シルト (団粒土)
- 27 腐葉質土 (団粒土)
- 28 腐葉質土 (団粒土)
- 29 腐葉質砂質土
- 30 腐葉質シルト
- 31 腐葉質土 (団粒土)
- 32 腐葉質土 (団粒土)
- 33 腐葉質砂質土
- 34 腐葉質シルト
- 35 腐葉質土 (団粒土)
- 36 腐葉質土 (団粒土)
- 37 腐葉質土 (団粒土)
- 38 腐葉質土 (団粒土)
- 39 腐葉質土 (団粒土)
- 40 腐葉質土 (団粒土)
- 41 腐葉質土 (団粒土)
- 42 腐葉質土 (団粒土)

第6図 調査区東壁・面壁断面図

第2節 第1遺構面

基本層序第Ⅲ・Ⅳ層をベース面として溝、土坑、ピット、不明遺構、掘溝などを検出している。標高は北東部で T.P. + 17.5 m、南西部で T.P. + 15.0 m を測る。

1. 溝

SD-102

D3～4区にかけて検出した。SD-103・104に続くもので、東側に石垣を施す近～現代の水路である。規模は幅約0.5 m、深さ約0.3 mを測る。埋土は3層で暗緑灰色土、暗茶灰色土、暗灰褐色土である。遺物は石臼が出土している。

SD-105

F4区で検出した。確認トレンチに切られた。規模は幅約0.3 m、深さ約0.03 mを測る。埋土は1層で灰色土である。遺物は出土していない。

SD-106

F4区で検出した。攪乱に切られる。規模は幅約0.45 m、深さ約0.01 mを測る。埋土は1層で灰色土である。遺物は土師器片が出土している。

SD-107

E4～5区、F5区にかけて検出した。規模は幅約0.9 m、深さ約0.14 mを測る。埋土は1層で灰緑色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦などが出土している。

SD-109

C6区、D6区にかけて検出した。規模は幅約0.5 m、深さ約0.3 mを測る。埋土は1層で暗灰緑色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-110

B5区、C5区にかけて検出した。規模は幅約0.8 m、深さ約0.55 mを測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器、須恵器、陶質土器、黒色土器A類などが出土している。

SD-111

B5～6区、C5～6区にかけて検出した。SK-118に繋がる。規模は幅約0.7 m、深さ約0.15 mを測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-112

B6区、C6区にかけて検出した。SK-118に繋がる。規模は幅約0.7 m、深さ約0.23 mを測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-113

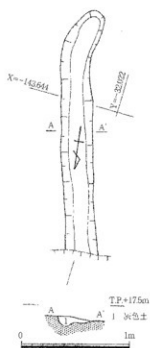
B6区、C6区にかけて検出した。SK-118に繋がる。規模は幅約0.8 m、深さ約0.09 mを測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-114

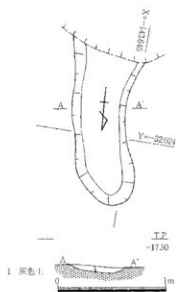
B6～7区、C6～7区にかけて検出した。規模は幅約0.6 m、深さ約0.14 mを測る。埋土は1層で灰緑色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-115

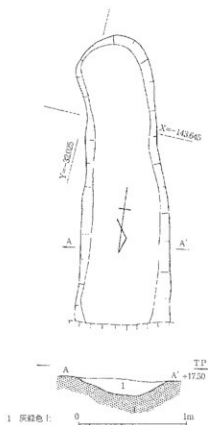
B7区、C7～8区にかけて検出した。SD-119に繋がる。規模は幅約1.2 m、深さ約0.22 m



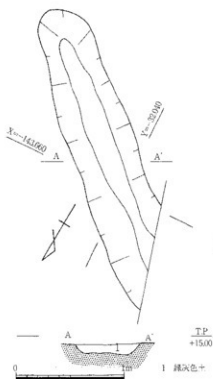
第7图 SD-105平·断面图



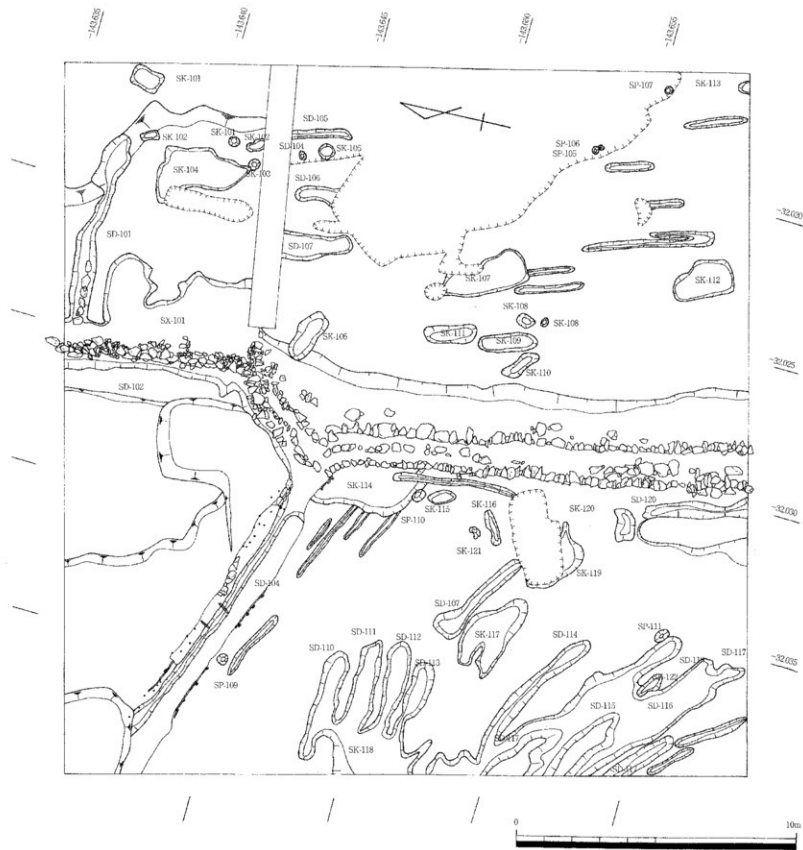
第8图 SD-106平·断面图



第9图 SD-107平·断面图



第10图 SD-117平·断面图



第7図 第1遺構面全体図

を測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、サヌカイト片などが出土している。

SD-116

B7区、C7～8区にかけて検出した。SD-115と繋がる。規模は幅約1.5m、深さ約0.27mを測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SD-117

B7～8区、C7～8区にかけて検出した。規模は幅約0.6m、深さ約0.05mを測る。埋土は1層で緑灰色土である。遺物は土師器が出土している。

SD-120

D7～8区にかけて検出した。規模は幅約0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で暗灰青色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

2. 土坑

SK-101

F3区で検出した。形態は隅丸の長方形を呈し、規模は長径約1.1m、短径約0.7m、深さ約0.04mを測る。埋土は1層で暗褐色粗砂である。遺物は出土していない。

SK-102

F3区で検出した。形態は不定形な長方形を呈し、規模は長径約0.65m、短径約0.3m、深さ約0.03mを測る。埋土は1層で暗灰色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-103

E3区、F3区にかけて検出した。SD-101に切られる。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.1m、短径約0.9m、深さ約0.2mを測る。埋土は1層で暗灰色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-104

E3区、F3～4区にかけて検出した。攪乱に切られる。形態は不定形を呈し、規模は長径約3.1m、短径約1.4m、深さ約0.1mを測る。埋土は2層で暗褐色土、暗茶色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-106

E4～5区にかけて検出した。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.0m、短径約0.8m、深さ約0.08mを測る。埋土は1層で暗褐色土である。遺物は染付磁器、瓦などが出土している。

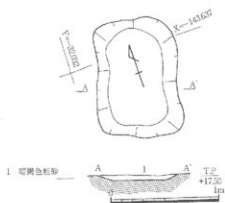
SK-107

E5～6区、F5～6区にかけて検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.9m、短径約1.2m、深さ約0.03mを測る。埋土は1層で灰緑色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

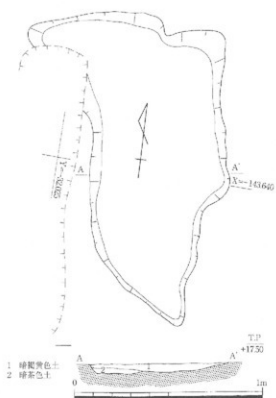
SK-109

E6区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約2.1m、短径約0.7m、深さ約0.15mを測る。埋土は1層で暗灰緑色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

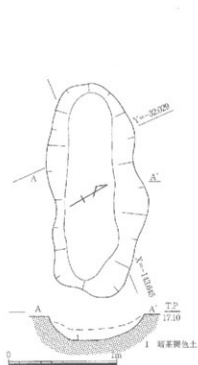
SK-110



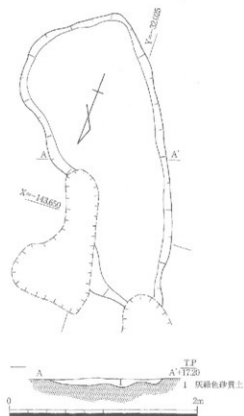
第12图 SK-101平·断面图



第13图 SK-104平·断面图



第14图 SK-106平·断面图



第15图 SK-107平·断面图

E 6区で検出した。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.4 m、短径約0.45 m、深さ約0.23 mを測る。埋土は1層で暗灰緑色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦などが出土している。

SK-111

E 5～6区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.8 m、短径約0.6 m、深さ約0.04 mを測る。埋土は1層で暗灰緑色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-112

F 7区で検出した。形態は不定形を呈し、規模は長径約2.2 m、短径約1.3 m、深さ約0.05 mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、瓦などが出土している。

SK-115

D 6区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.0 m、短径約0.5 m、深さ約0.19 mを測る。埋土は1層で暗灰青色土ブロック混暗灰黄色砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-116

D 6区で検出した。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.3 m、短径約0.3 m、深さ約0.22 mを測る。埋土は1層で暗灰茶色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、石製品などが出土している。

SK-117

C 6区で検出した。形態は不定形を呈し、規模は長径約3.2 m、短径約1.6 m、深さ約0.08 mを測る。埋土は1層で暗灰緑色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦などが出土している。

SK-118

B 5～6区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、SD-111～113などに繋がる。規模はおおよそ長径約2.8 m、短径約1.5 m、深さ約0.05 mを測る。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-119

D 7区で検出した。試掘坑に切られる。形態は不定形を呈し、規模は明らかでないが深さは約0.31 mを測る。埋土は2層で暗灰緑色砂質土、暗灰緑色粘質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-120

D 7区で検出した。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.2 m、短径約0.7 m、深さ約0.2 mを測る。埋土は1層で暗灰黄色粗砂である。遺物は土師器、須恵器、瓦器などが出土している。

SK-122

C 7～8区にかけて検出した。試掘坑に切られる。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約0.4 m、短径約0.2 m、深さ約0.14 mを測る。埋土は1層で暗黄灰色砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

3. ビット

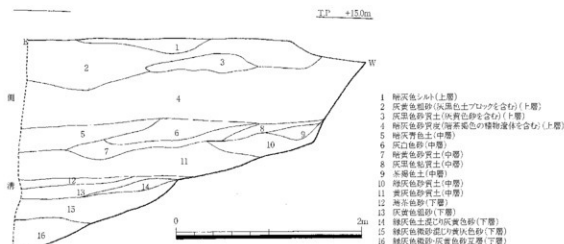
11基を検出した。建物を構成すると考えられるものは認められなかった。形態は円～楕円形のもので主体をなし、規模は径約0.2～0.4 m、深さ約0.05～0.2前後のものが主体をなす。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

第3節 第2遺構面上面遺構

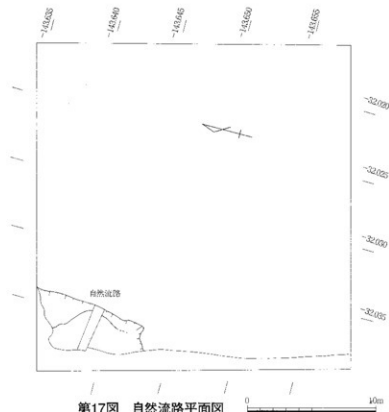
基本層序第VI層をベース面として自然流路、自然木（根株？）などを検出している。標高は自然流路の肩部でT.P. + 14.8 mを測る。

1. 自然流路

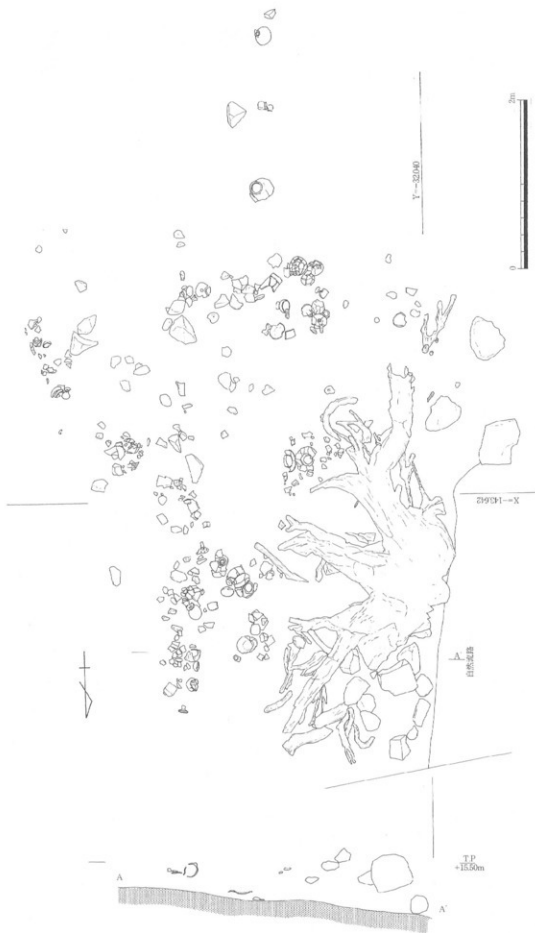
B3～5区、C3～5区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでないが、深さは最深部で2.3 mを測った。埋土は大きく上・中・下層に分けられ、上層は灰色系の粗砂、シルト、砂質土で、中層は灰色系の砂、粗砂が主体をなす。また下層では黄灰色系の砂、粗砂が主体をなす。遺物は多量に出土しており、弥生土器、土師器、須恵器、韓式系土器、瓦、木製品、石製品、獣骨などが出土している。また肩部では自然木（根株？）を切る状況であった。



第16図 自然流路断面図



第17図 自然流路平面図



第18圖 根株周辺遺物出土状況

第4節 第2遺構面

基本層序第Ⅷ・Ⅸ層をベース面として溝、土坑、落込み状遺構、ピット、鋤溝などを検出している。標高は北東部で T.P. + 17.4 m、南西部で T.P. + 12.8 m を測る。

1. 溝

SD-201

D 7区で検出した。規模は幅約 0.25 m、深さ約 0.04 m を測る。遺物は出土していない。

2. 土坑

SK-201

G 7区で検出した。形態は不定形を呈する。規模は調査区外に広がるため明らかではないが、深さは約 0.08 m を測る。埋土は 1層で暗茶褐色砂である。遺物は出土していない。

SK-202

F 7区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 0.7 m、短径約 0.45 m、深さ約 0.28 m を測る。遺物は出土していない。

SK-203

F 7区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約 2.4 m、短径約 1.2 m、深さ約 0.12 m を測る。埋土は 1層で褐灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-204

F 7区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 0.75 m、短径約 0.3 m、深さ約 0.05 m を測る。埋土は 1層で暗褐色砂質土である。遺物は出土していない。

SK-205

F 7区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 0.7 m、短径約 0.45 m、深さ約 0.07 m を測る。遺物は土師器が出土している。

SK-206

F 7区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 0.7 m、短径約 0.45 m、深さ約 0.14 m を測る。埋土は 1層で暗灰色砂質土である。土師器、須恵器などが出土している。

SK-207

F 6区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 0.8 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.07 m を測る。埋土は 1層で暗褐色砂質土である。遺物は出土していない。

SK-208

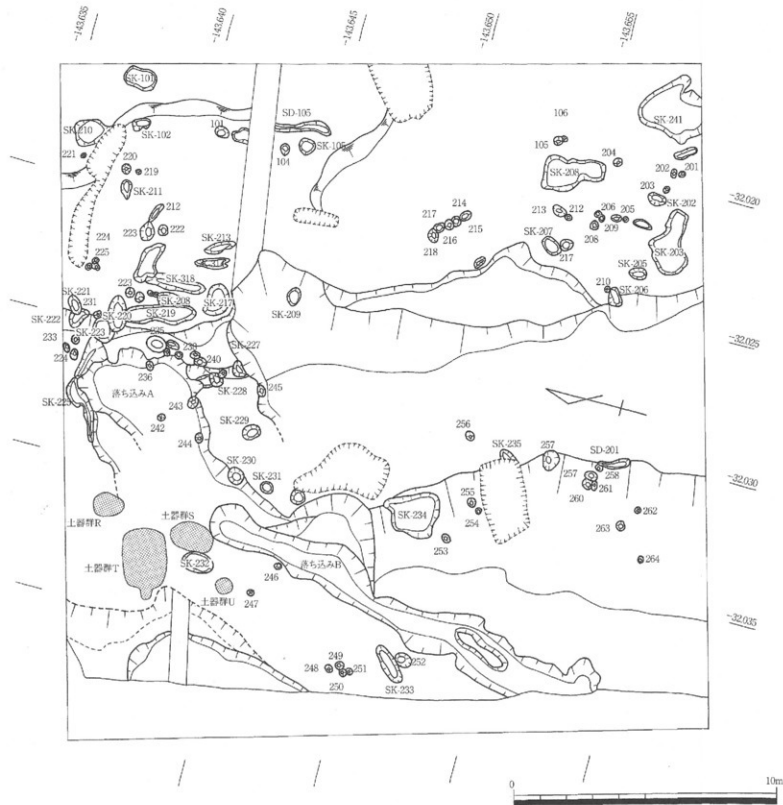
G 6～7区、F 6～7区にかけて検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約 2.2 m、短径約 1.1 m、深さ約 0.08 m を測る。埋土は 1層で暗灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-209

E 4～5区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 0.65 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.12 m を測る。埋土は 1層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

SK-210

F 3区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 1.2 m、短径約 0.9 m、深さ約 0.1 m を測る。



第19図 第2遺構面全体図

遺物は土師器が出土している。

SK-211

E3区、F3区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.7m、短径約0.45m、深さ約0.06mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は出土していない。

SK-212

E3区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.8m、短径約0.2m、深さ約0.04mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は須恵器が出土している。

SK-213

E4区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.2m、短径約0.3m、深さ約0.06mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は出土していない。

SK-214

E4区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.1m、短径約0.3m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で灰色砂質土である。遺物は出土していない。

SK-215

E3区で検出した。SK-216を切る。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.7m、短径約0.6m、深さ約0.15mを測る。埋土は1層で灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-216

E3～4区にかけて検出した。SK-215に切られる。形態は楕円形を呈し、規模は長径約2.2m、短径約0.5m、深さ約0.13mを測る。埋土は1層で暗茶灰色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-217

E4区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.2m、短径約0.8m、深さ約0.21mを測る。埋土は3層で暗灰黄色土、緑灰色混茶褐色土、暗茶褐色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-218

E3～4区にかけて検出した。形態・規模はSK-219に切られているため明らかでないが、深さは約0.34mを測る。埋土は2層で暗茶褐色土、暗灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

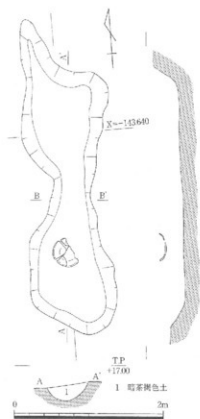
SK-219

E3～4区にかけて検出した。SK-218を切る。形態は楕円形を呈し、規模は長径約2.7m、短径約0.7m、深さ約0.05mを測る。埋土は1層で茶褐色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

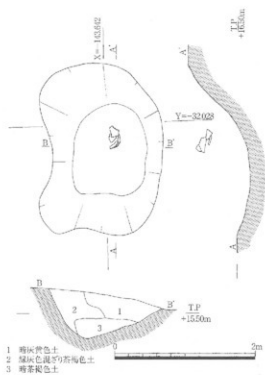
SK-220

D3区、E3区にかけて検出した。SK-219に切られる。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.3m、短径約0.6m、深さ約0.48mを測る。埋土は1層で茶黄色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

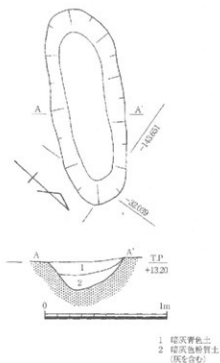
SK-221



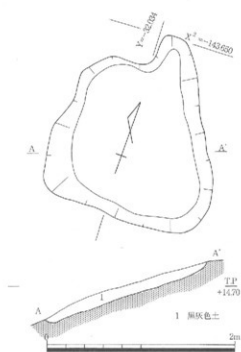
第20图 SK-216平·断·遗物出土状况图



第21图 SK-217平·断·遗物出土状况图



第22图 SK-233平·断面图



第23图 SK-234平·断面图

E 3区で検出した。SK-222を切る。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.7 m、短径約0.4 m、深さ約0.09 mを測る。埋土は1層で茶褐色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-222

D 3区、E 3区にかけて検出した。SK-221に切られる。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.8 m、短径約0.5 m、深さ約0.12 mを測る。埋土は1層で茶褐色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-223

D 3区、E 4区にかけて検出した。SK-220に切られる。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.9 m、短径約0.8 m、深さ約0.04 mを測る。埋土は1層で茶褐色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-224

D 3区で検出した。SK-223に切られる。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.6 m、短径約0.9 m、深さ約0.36 mを測る。遺物は土師器が出土している。

SK-225

D 3区で検出した。SK-220に切られる。形態は不定形を呈し、規模は長径約2.5 m、短径約0.6 m、深さ約0.2 mを測る。遺物は弥生土器、土師器などが出土している。

SK-226

D 3～4区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.7 m、短径約0.6 m、深さ約0.15 mを測る。埋土は2層で暗茶褐色土、暗灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-227

D 4区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約0.6 m、短径約0.4 m、深さ約0.15 mを測る。埋土は1層で暗茶褐色粘質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-228

D 4区で検出した。形態・規模は落込みAなどに切られているため明らかでない。遺物は土師器が出土している。

SK-229

D 4区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.65 m、短径約0.5 m、深さ約0.21 mを測る。埋土は1層で暗茶褐色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-230

D 4区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.6 m、深さ約0.28 mを測る。埋土は1層で暗灰黒色土である。遺物は弥生土器、土師器などが出土している。

SK-231

D 5区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.5 m、短径約0.5 m、深さ約0.17 mを測る。埋土は1層で暗灰黒色土である。遺物は土師器が出土している。

SK-232

C 4区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.2 m、短径約0.7 m、深さ約0.13 mを測る。遺物は土師器が出土している。

SK-233

B 6区、C 6区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約 1.6 m、短径約 0.55 m、深さ約 0.21 mを測る。埋土は 2層で暗灰青色土、暗灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

SK-234

D 5～6区にかけて検出した。形態は不定形な長方形を呈し、規模は長径約 1.7 m、短径約 1.5 m、深さ約 0.05 mを測る。遺物は出土していない。

SK-235

D 6区で検出した。形態・規模は試掘坑に切られているため明らかでないが、深さ約 0.13 mを測る。埋土は 1層で暗茶色土である。遺物は土師器が出土している。

3. 落込み状遺構

落込みA

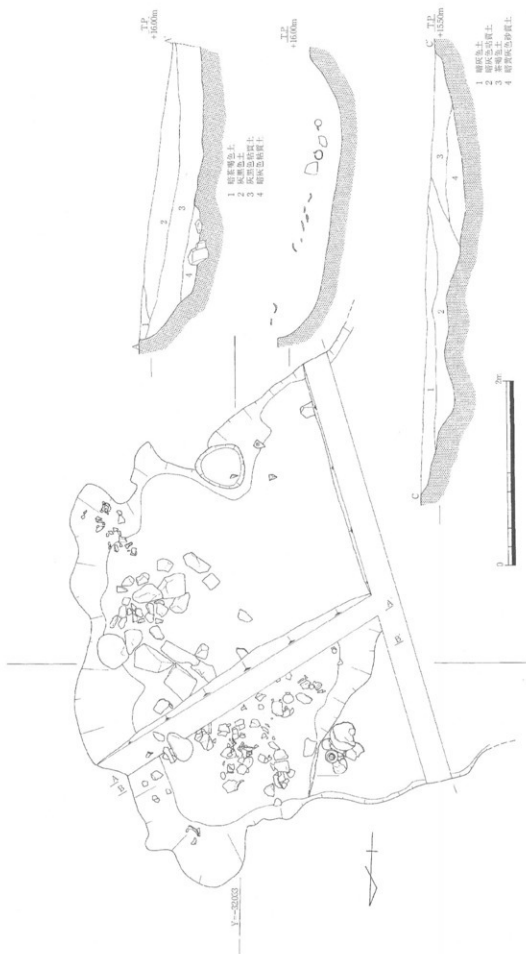
C 3～5区、D 3～5区にかけて検出した。西側に向かって落込んでいく状況をしているが、東側では土坑状の形態をなしている。規模は幅約 4.7 mを測り、深さは 0.2～0.5 mを測る。埋土は 4層で暗灰色土、暗灰色粘質土、茶褐色土、暗黄灰色粘質土である。遺物はまとまって出土しており、土師器、須恵器、韓式系土器、滑石製有孔円板などが出土している。

落込みB

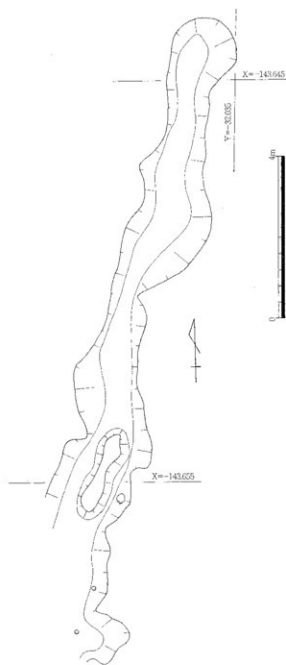
C 4～7区にかけて検出した。当初、西側に向かって落込んでいくものと思われたが、溝状を呈するものであった。規模は幅約 0.1～0.2 m、深さ約 0.2～0.4 mを測る。埋土は砂が主体を成していた。遺物はまとまって出土しており、縄文土器、弥生土器、土師器、石錘などが出土している。

4. ビット

64基を検出した。建物を構成すると考えられるものは認められなかった。形態は円～楕円形のもものが主体をなし、規模は径約 0.2～0.3 m、深さ約 0.1～0.2前後のもものが主体をなす。埋土は茶褐色土が主体をなしている。遺物は土師器、須恵器などが出土している。



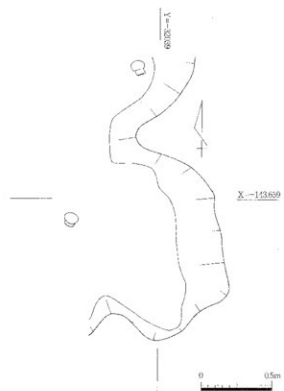
第24図 落ち込みA平・断・遺物出土状況図



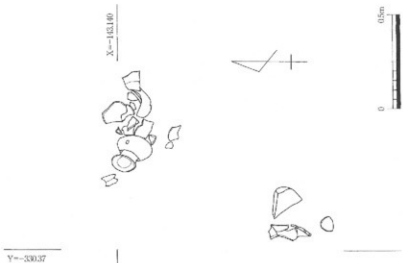
第25図 落ち込みB平面図



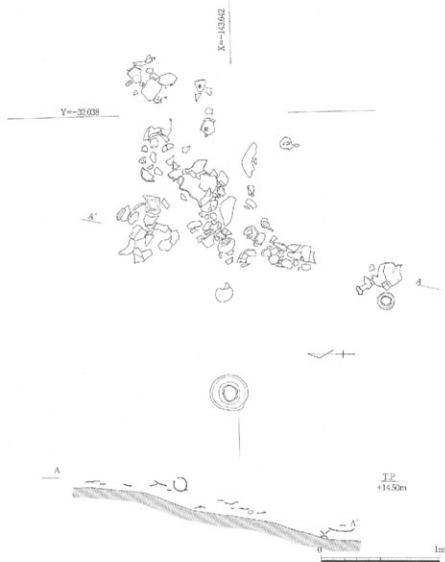
第26図 落ち込みB遺物出土状況図(1)



第27図 落ち込みB遺物出土状況図(2)



第28图 土器群R出土状況図



第29图 土器群S・T・U出土状況図

第5章 まとめ

今回の調査では3面の遺構面を確認し、それぞれにおいて遺構、また大量の遺物が出土し鍋田川遺跡の様相を知るうえで多大な成果を得ることができた。以下、各遺構面の調査成果について概括し、まとめとしたい。

〔第1遺構面〕

第1遺構面では調査区中央で南北に走る石垣と石組水路が良好な状態で残されていた。この石垣と石組水路は近～現代に比定されることから大阪産業大学が誘致される以前は段状に開発された耕作地であったことが窺える。特に西側では畑の畝も良好に残されていた状況で確認され、検出された遺構も近世以降から引き続いた耕作地の痕跡であったことを思わせる。また、石垣の東側では開発における削平のため残存状況は良好ではないが、時期的には概ね中世以降と思われる溝、土坑、鋤溝を確認できるものであり、今回の調査地においてはほぼ中世以降については耕作地であったことが考えられる。

〔第2遺構面上面遺構〕

調査区北西部分において第2遺構面とは層位的に異なるため単独的な検出状況になった自然流路であるが、調査区東側で検出した第2遺構面の遺構群との関連性が考えられるものと思われる。時期的には古墳～奈良時代を中心としたものであるが、当時においては東西に流れる鍋田川と、おそらく南北に流れるこの自然流路があり、その周辺に集落が営まれていた状況を示すものであろう。

〔第2遺構面〕

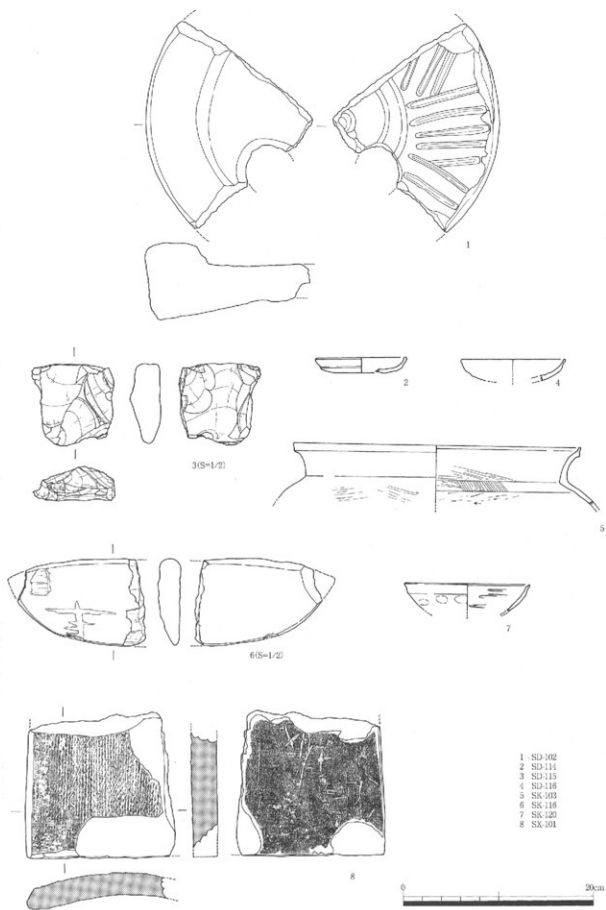
この遺構面においても明確な集落跡という様相は認められなかったが、調査区西側における包含層での膨大な遺物の出土量を鑑みるに当時の人々の活発な活動を窺い知ることができる。時期的には古墳時代前期から中期にかけてが中心であり、特に注目されるものとして遺構的なものでは樹木の周囲に多くの土器が集積し、聖樹信仰を思わせるかのような様相を示すものがあり、また遺物では穿孔された土器、不思議な文様を線刻した土器など、祭祀的様相を示すものが出土している。そして、それに関連するような玉類を製作していたと思われる砥石類も出土しており、非常に祭祀的色彩を感じさせる成果内容であった。

また、多くの韓式系土器の出土や陶質土器の出土は渡来人の影響を大きく受けているものであり、当時、河内湖東岸であったこの地の地理的環境を反映した成果の内容もこの鍋田川遺跡の特徴の一つと言えるであろう。

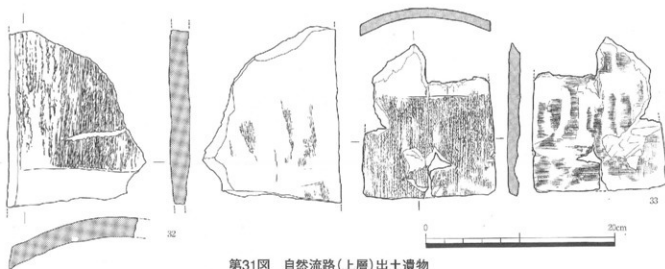
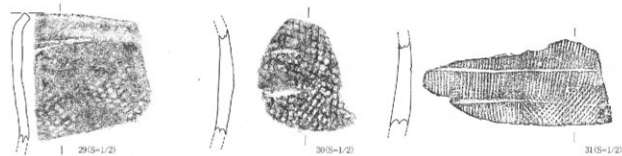
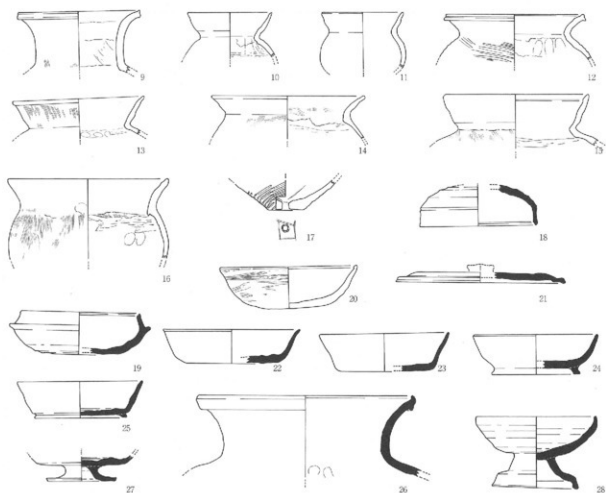
鍋田川遺跡は昭和33年9月の砂防堰堤工事の際に発見されて以来、現在に至るまで大東市教育委員会において3次にわたる調査、大阪府教育委員会においては2次にわたる調査が実施されてきた。結果、当初の出土遺物の内容から祭祀遺跡としての多大な評価を得ていたが、時間を経るなか、縄文から近世までの複合遺跡であったという一般的评价が定着していく感があった。しかし前述したように今回の調査成果では祭祀遺跡との評価をあらためて再認識させるもので、鍋田川が急峻な山地から平地に流れてた地形状況に対して、当時の人々の自然に対する畏怖の念を垣間見ることができたとされる。

今後の調査に期待するところも大きいですが、当時の人々の精神社会を復元するうえで鍋田川遺跡は重要な地位を占めるものと思われる。

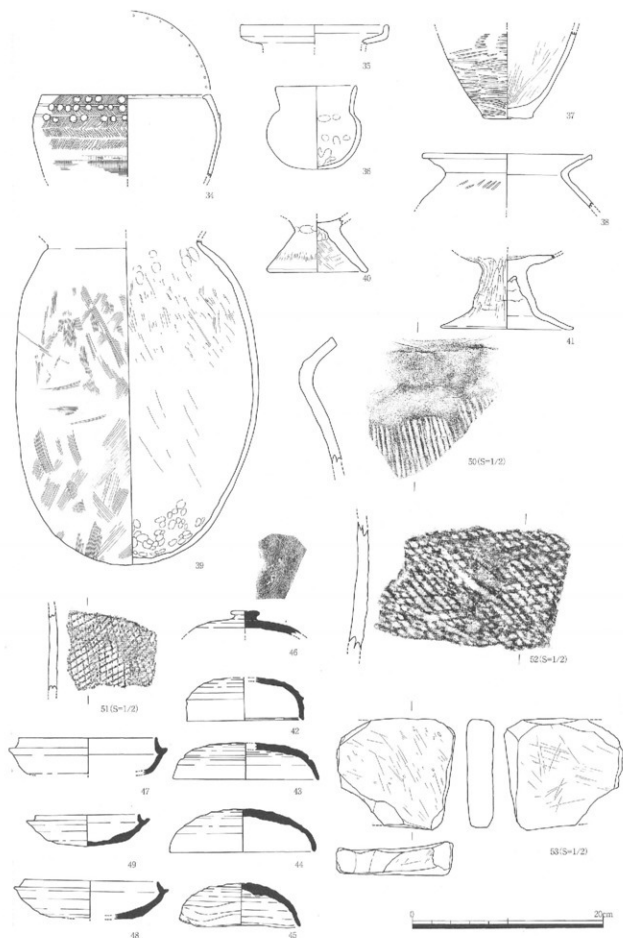
遺物実測図
遺物一覽表



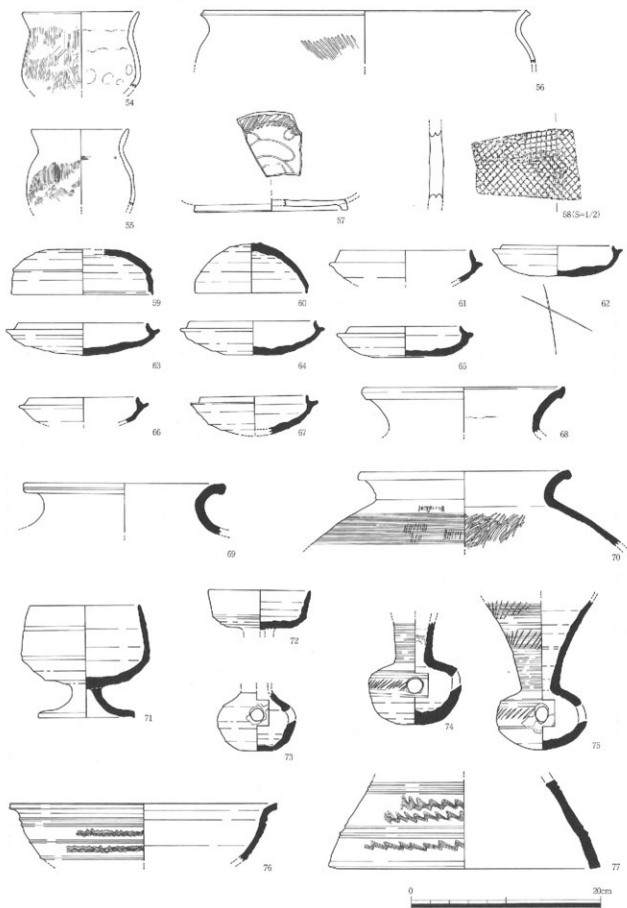
第30図 第1遺構面各遺構出土遺物



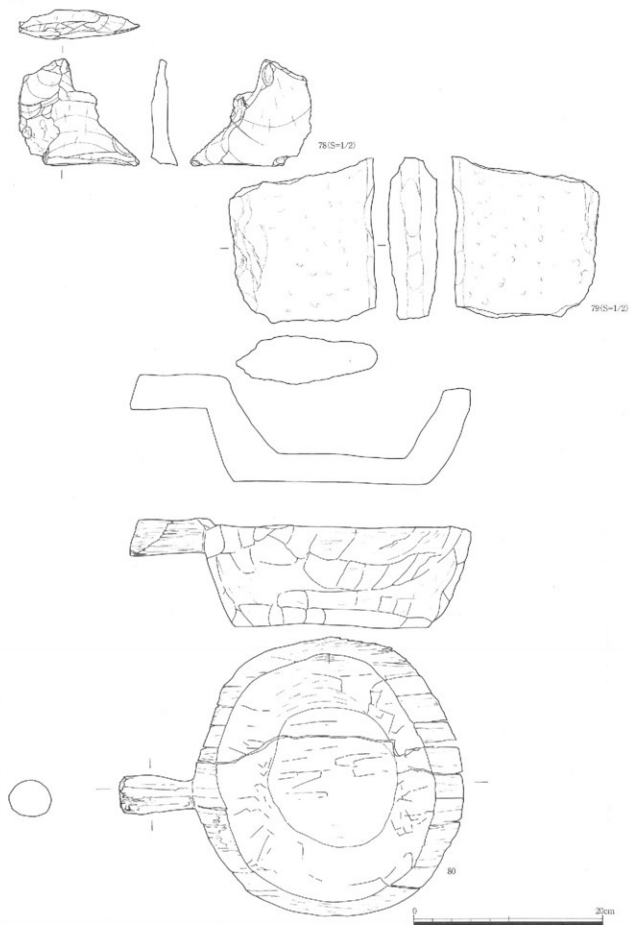
第31図 自然流路(上層)出土遺物



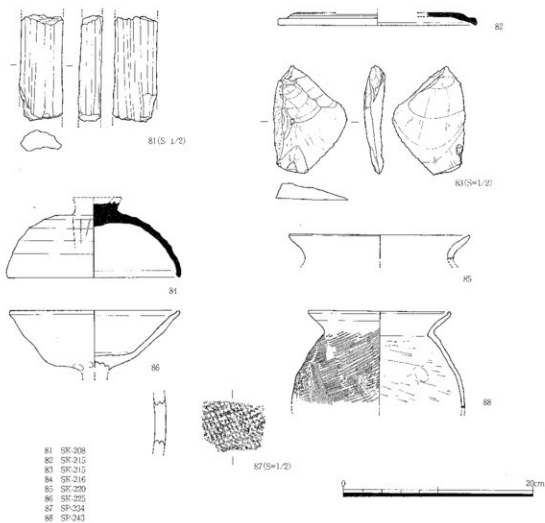
第32图 自然流路(中層)出土遺物



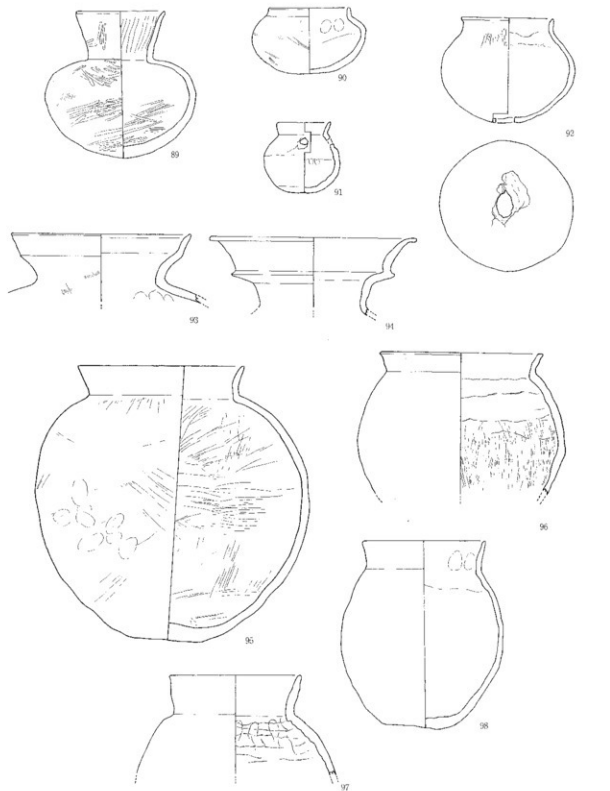
第33図 自然流路(下層)出土遺物(1)



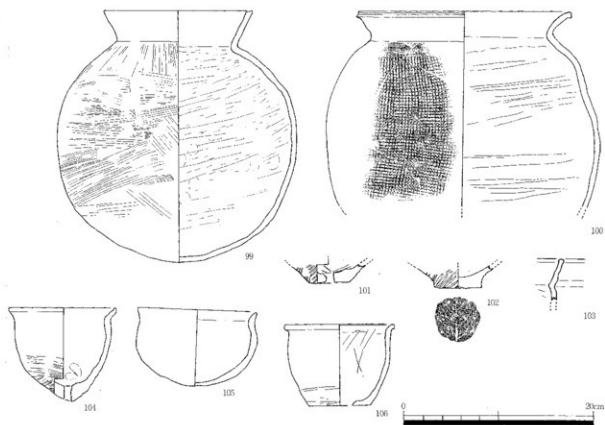
第34図 自然流路(下層)出土遺物(2)



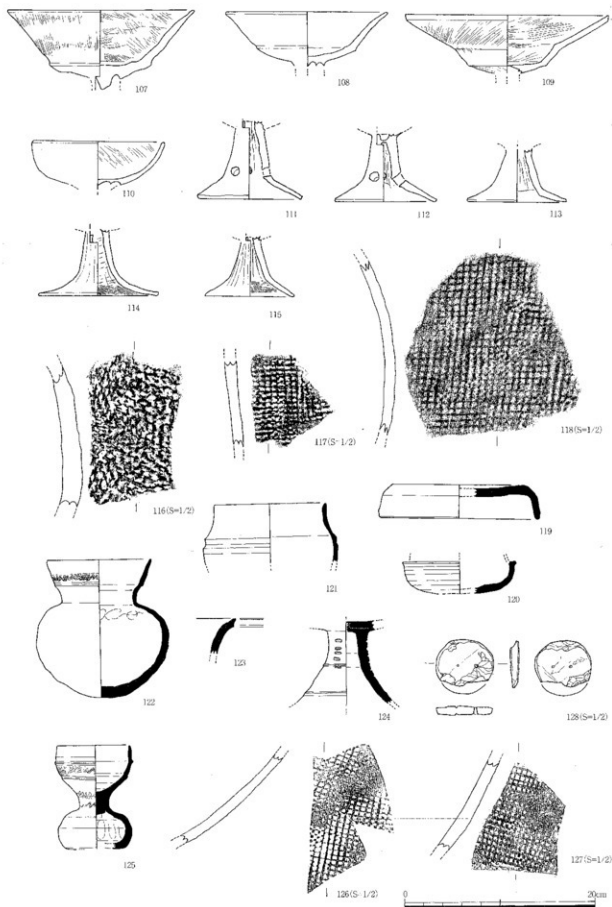
第35図 第2遺構面各遺構出土遺物



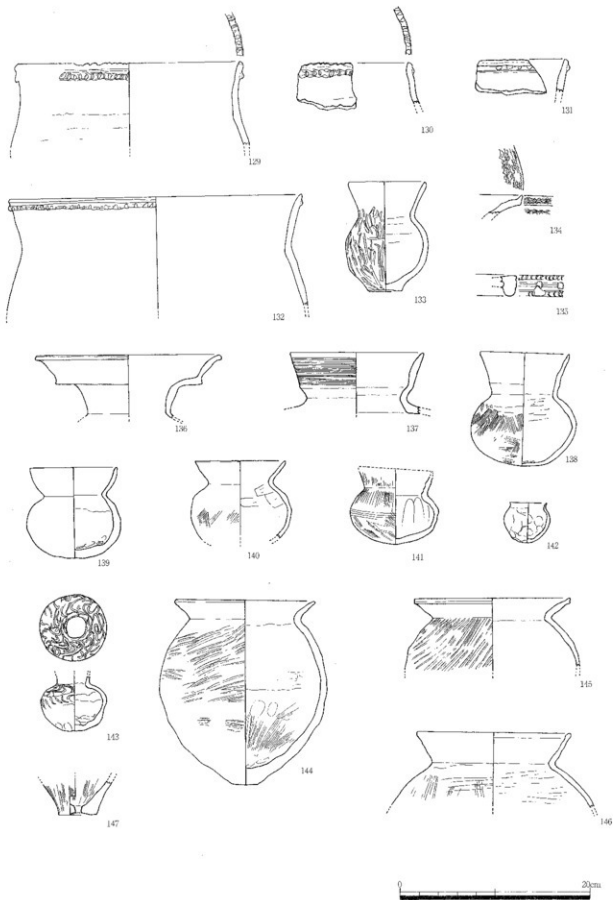
第36図 落ち込みA出土遺物(1)



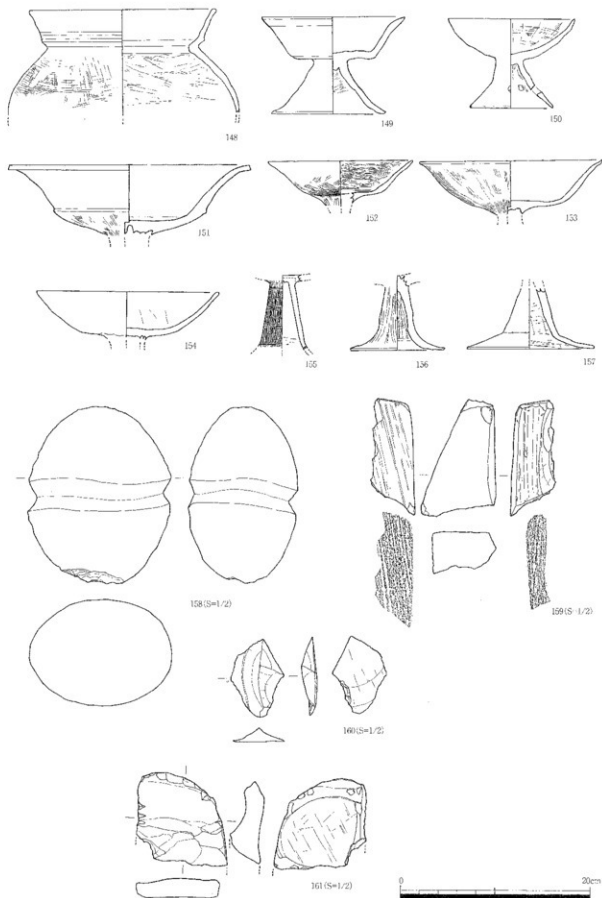
第37図 落ち込みA出土遺物(2)



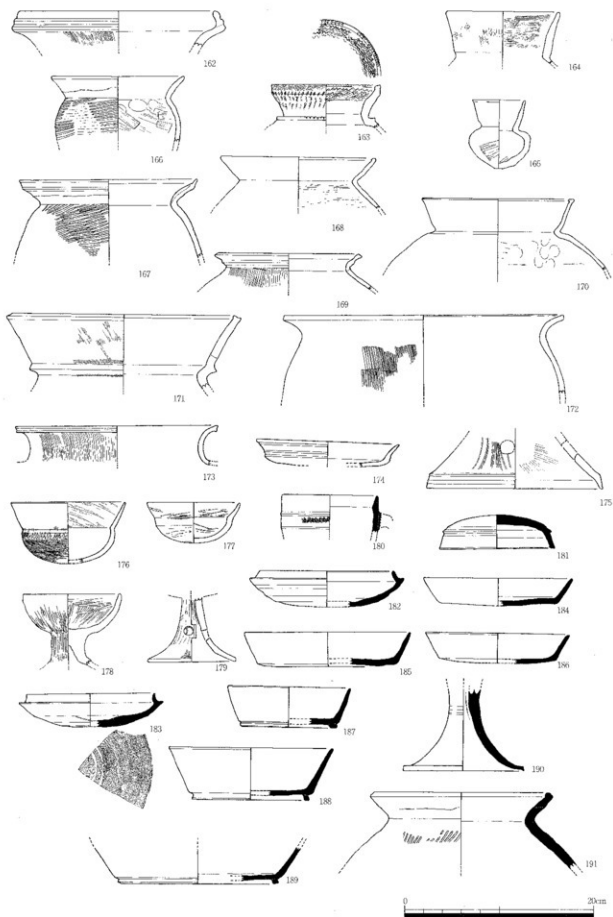
第38図 落ち込みA出土遺物(3)



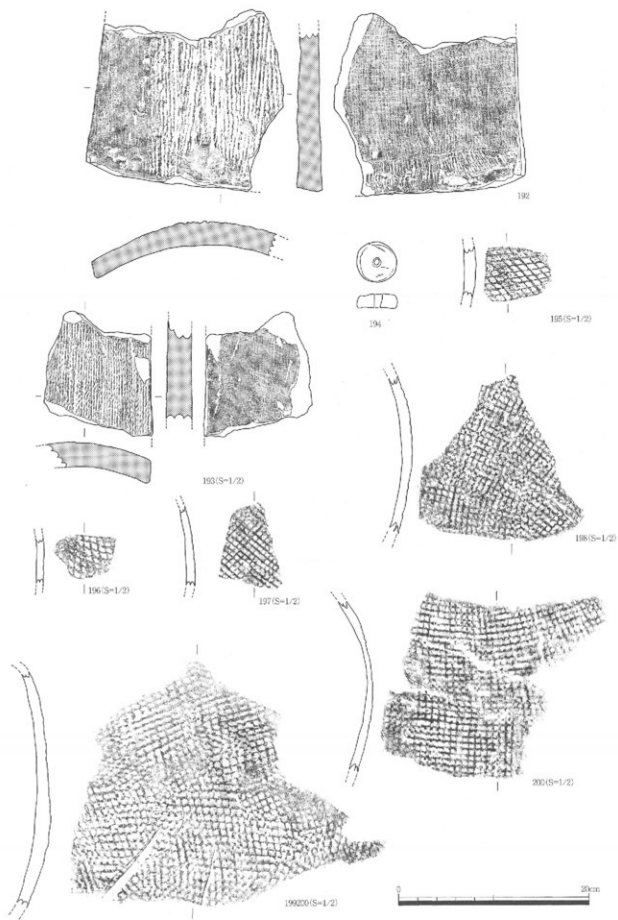
第39図 落ち込みB出土遺物(1)



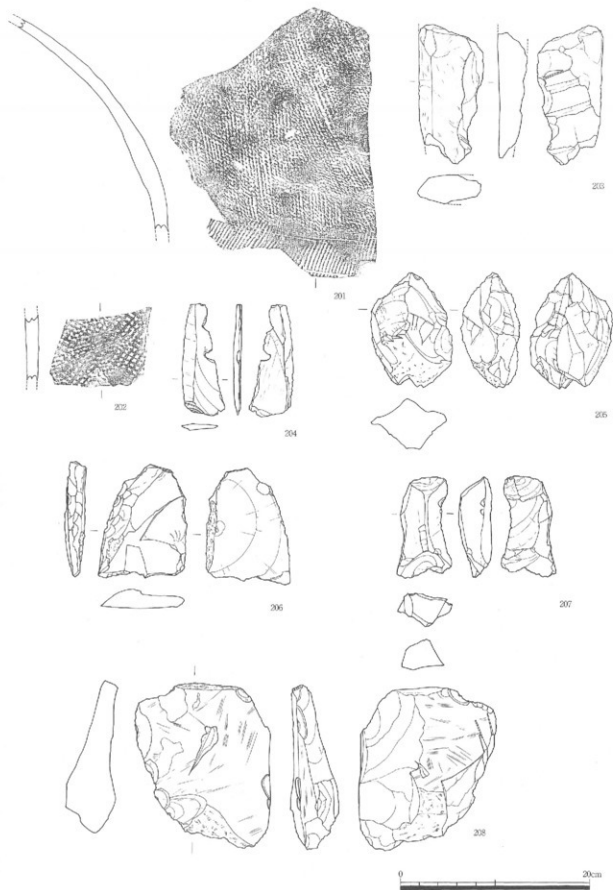
第40図 落ち込みB出土遺物(2)



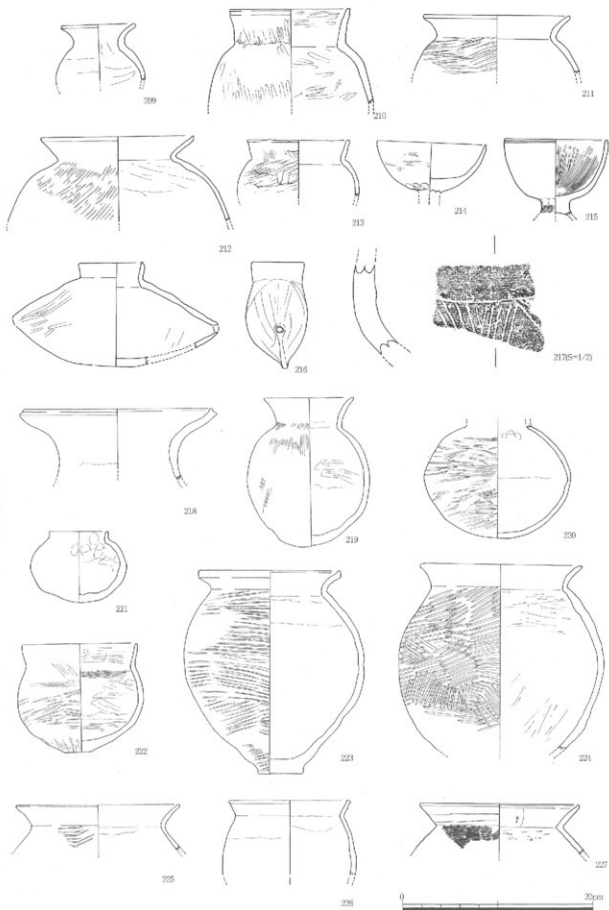
第41図 第V層出土遺物(1)



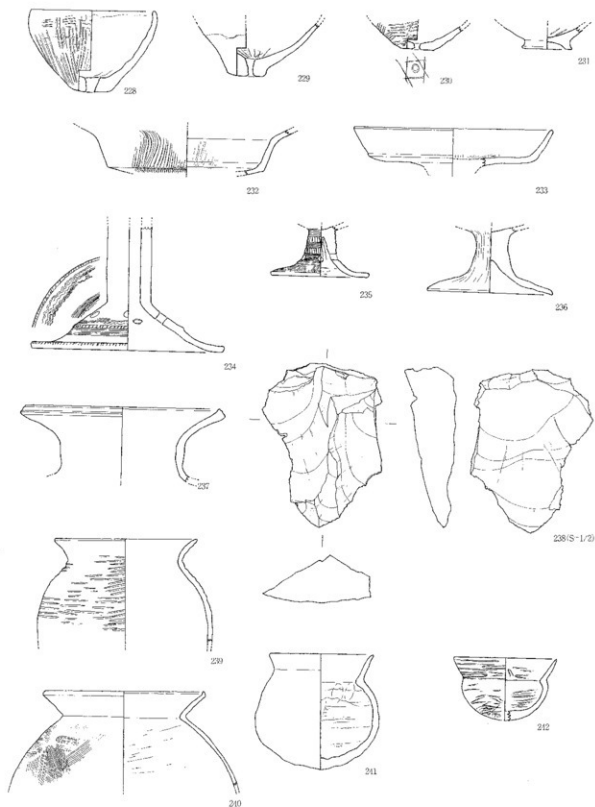
第42図 第V層出土遺物(2)



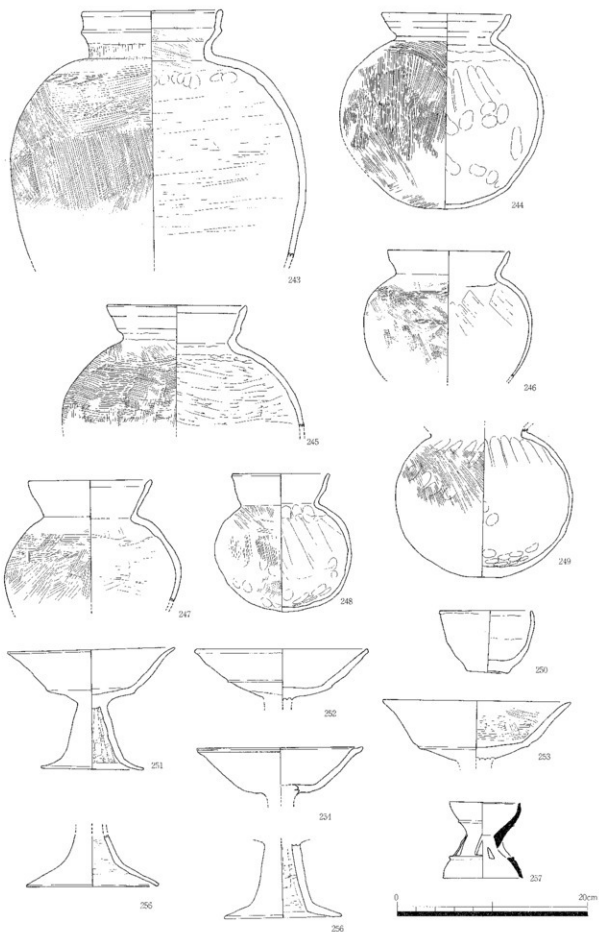
第43图 第V層出土遺物(3)



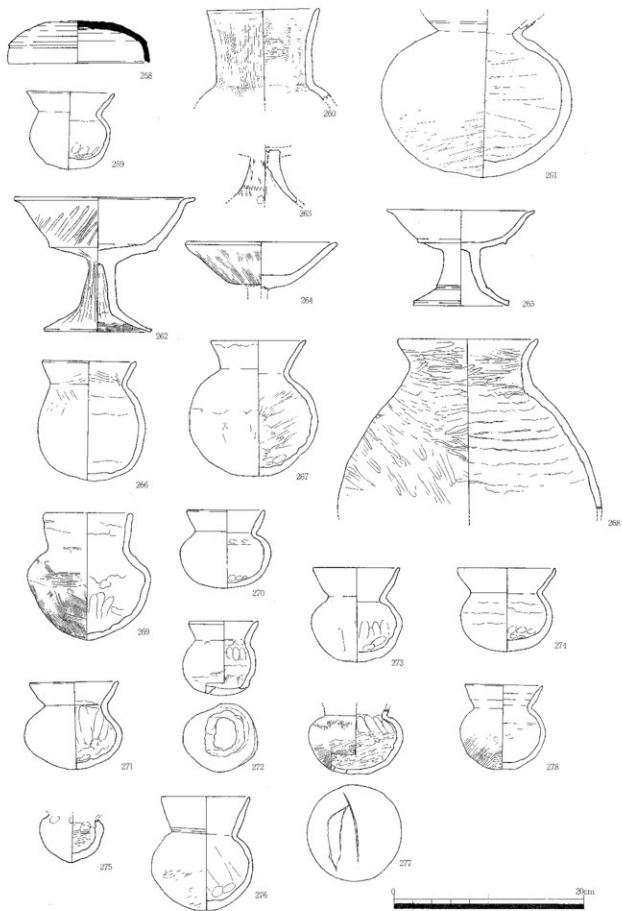
第44图 第Ⅵ层出土文物(1)



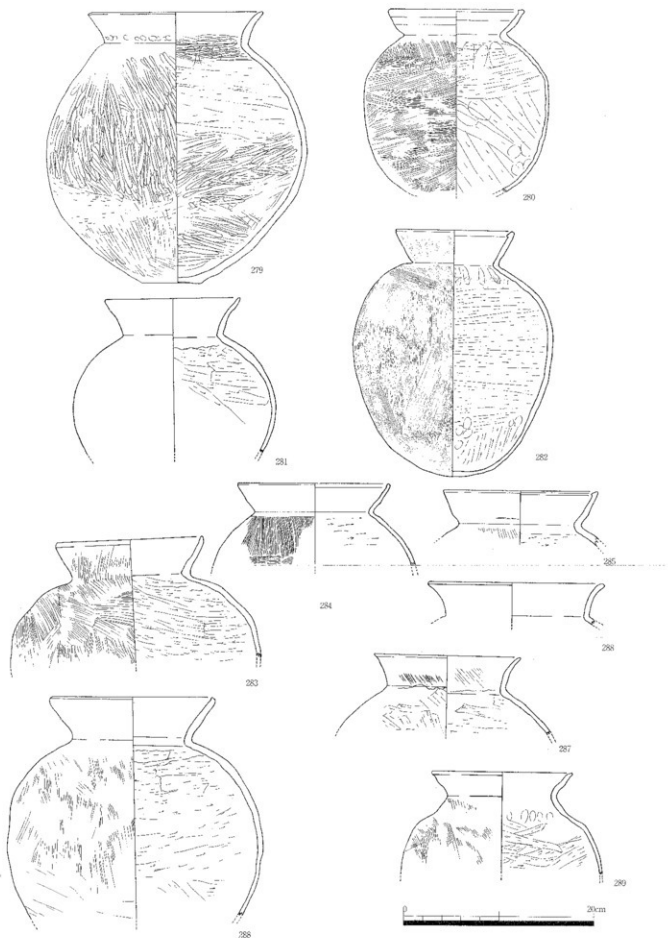
第45図 第Ⅵ層出土遺物(2)



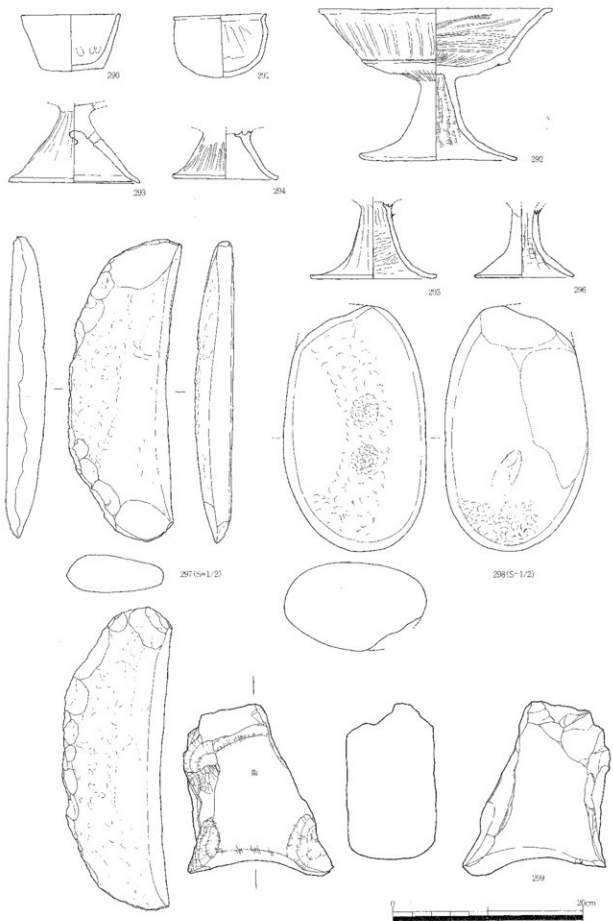
第46図 第Ⅵ層出土遺物(3)



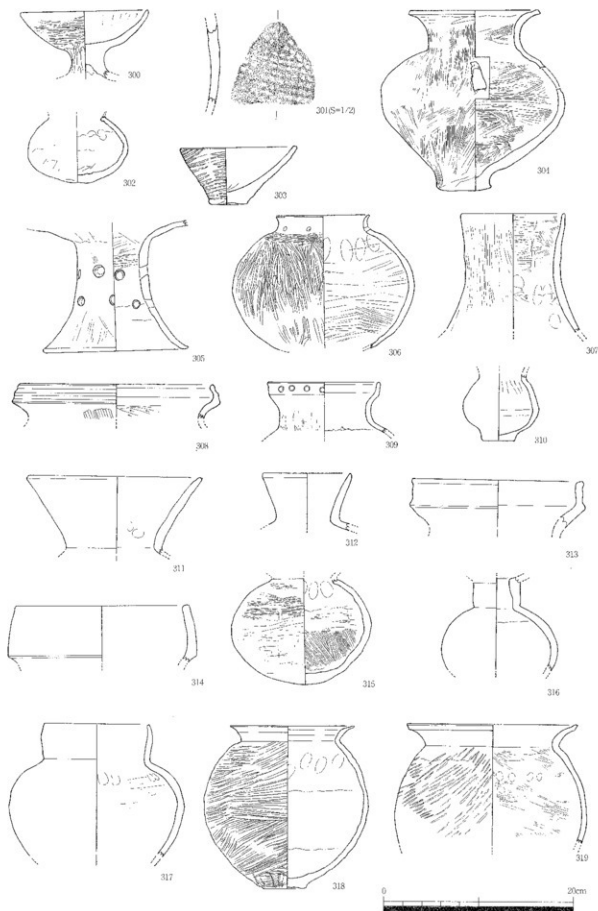
第47图 第Ⅵ层出土遗物(4)



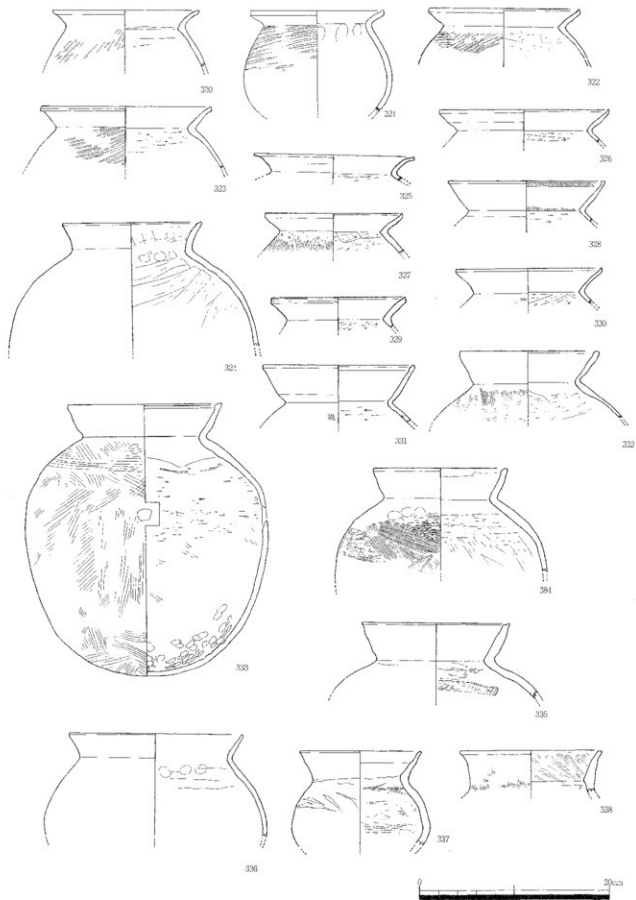
第48図 第VI層出土遺物(5)



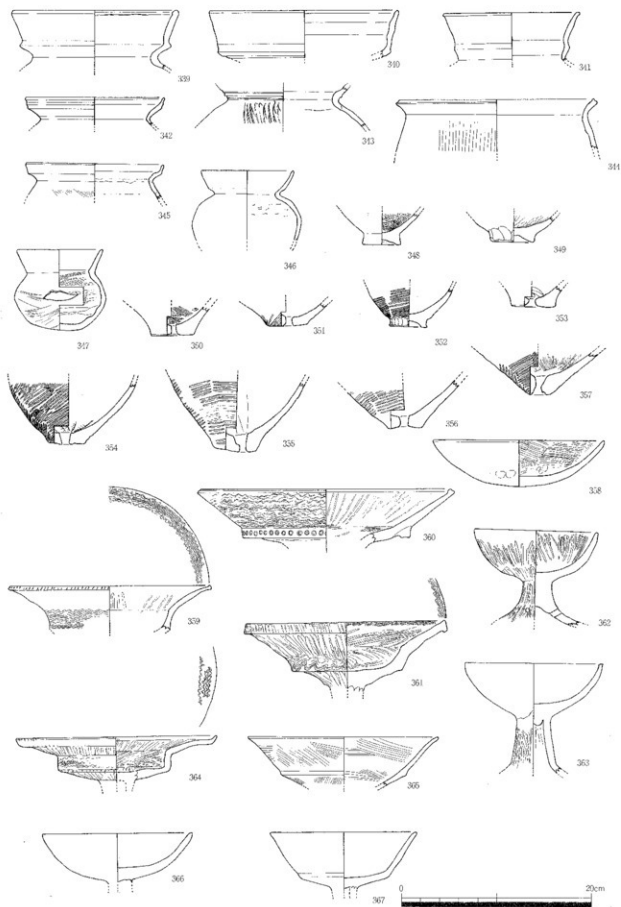
第49図 第Ⅵ層出土遺物(6)



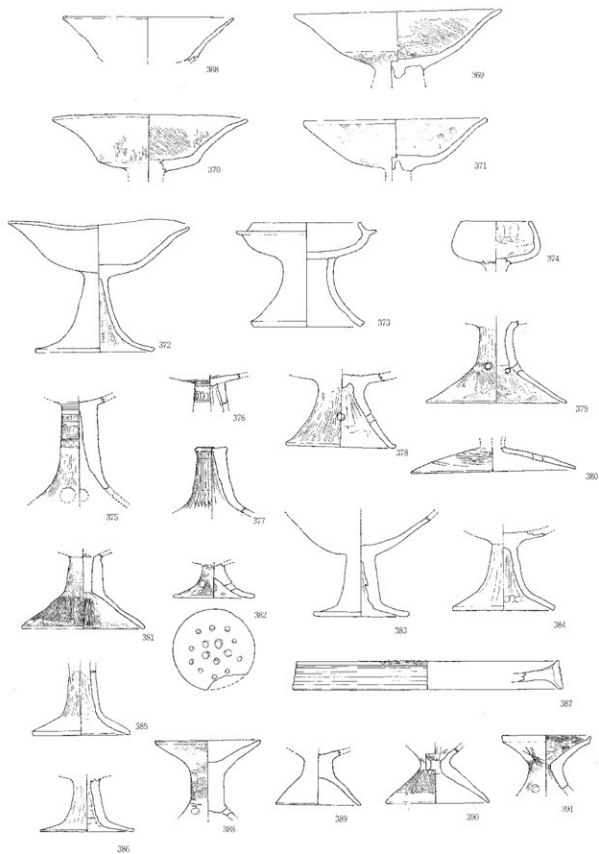
第50図 第Ⅵ層出土遺物(7)



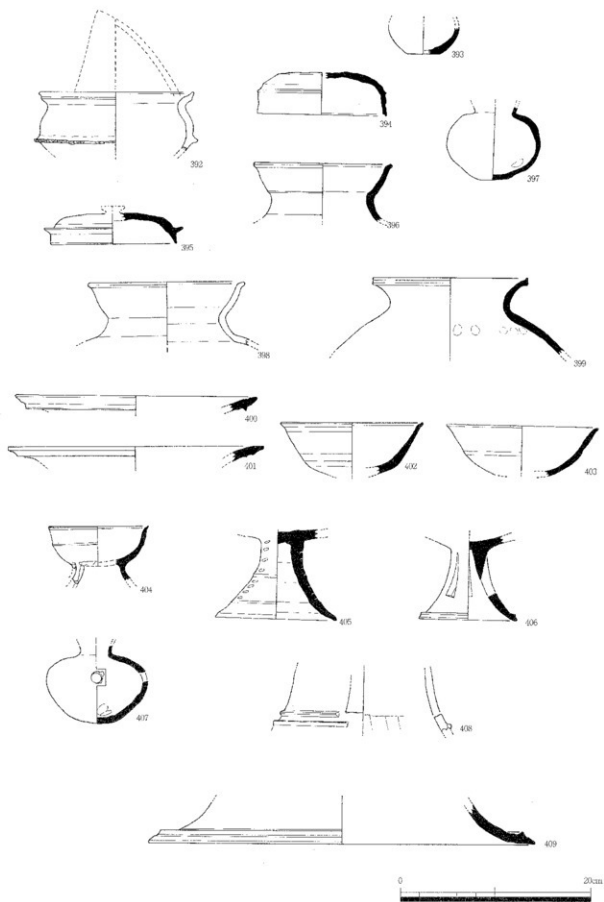
第51图 第Ⅵ層出土遺物(8)



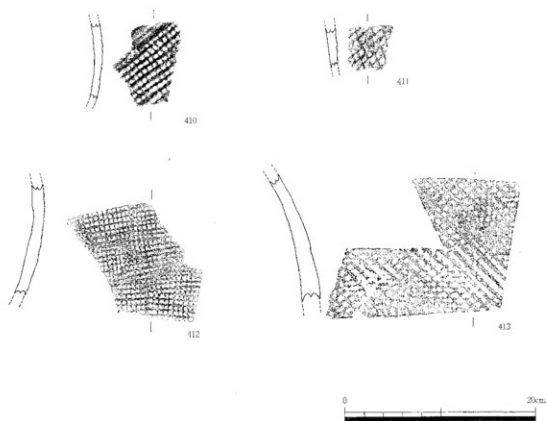
第52図 第VI層出土遺物(9)



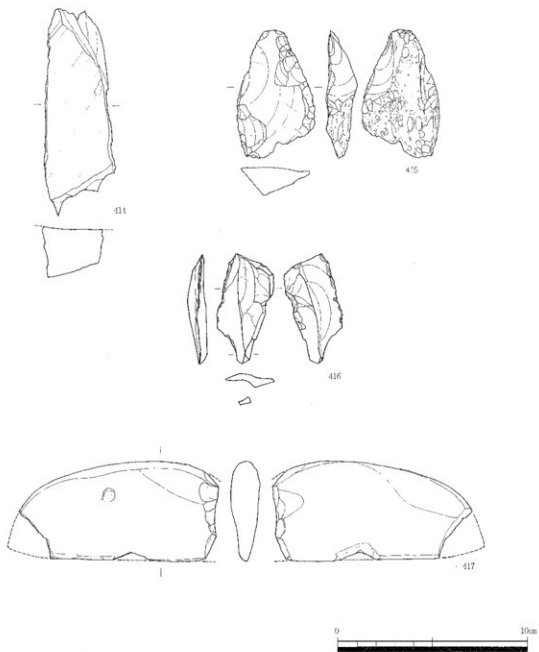
第53図 第Ⅵ層出土遺物(10)



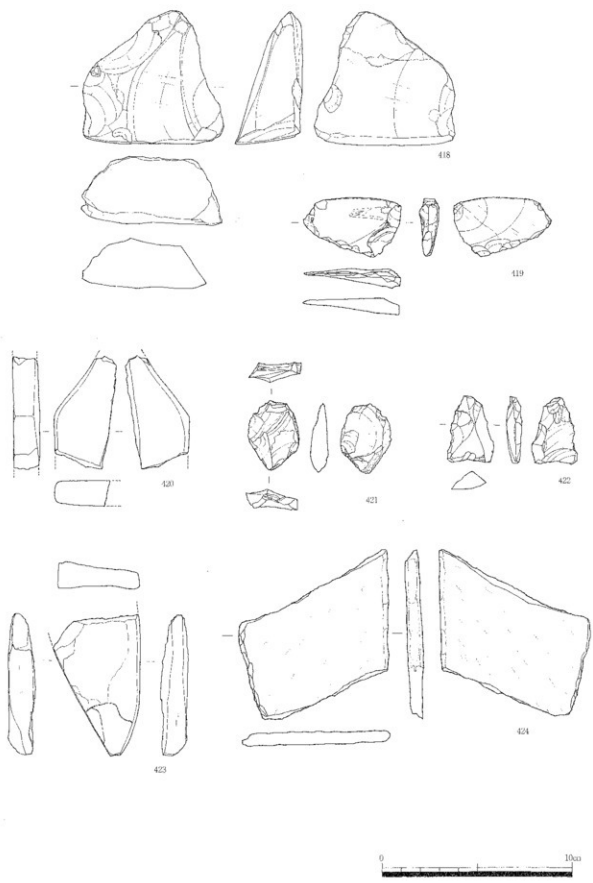
第54图 第VI层出土遗物(11)



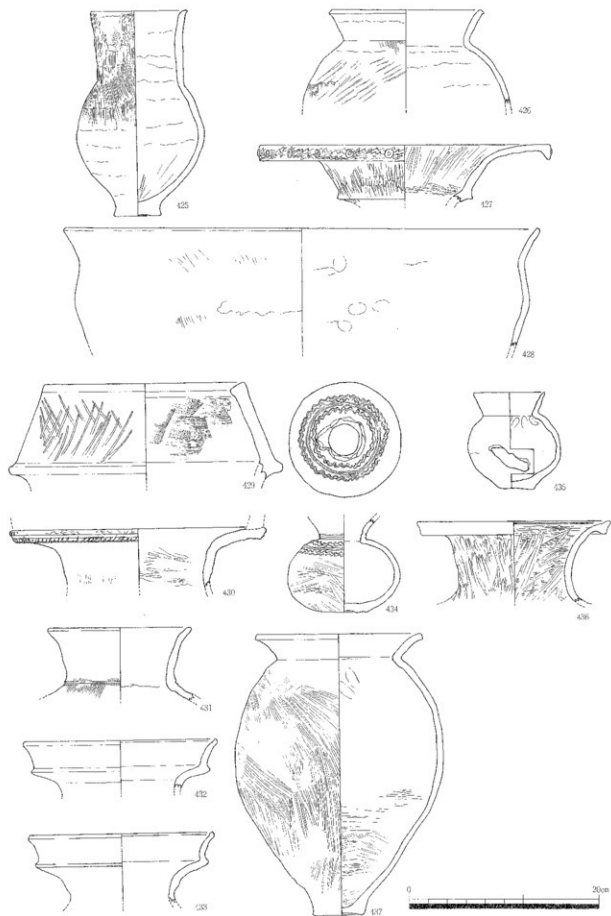
第55図 第Ⅵ層出土遺物(12)



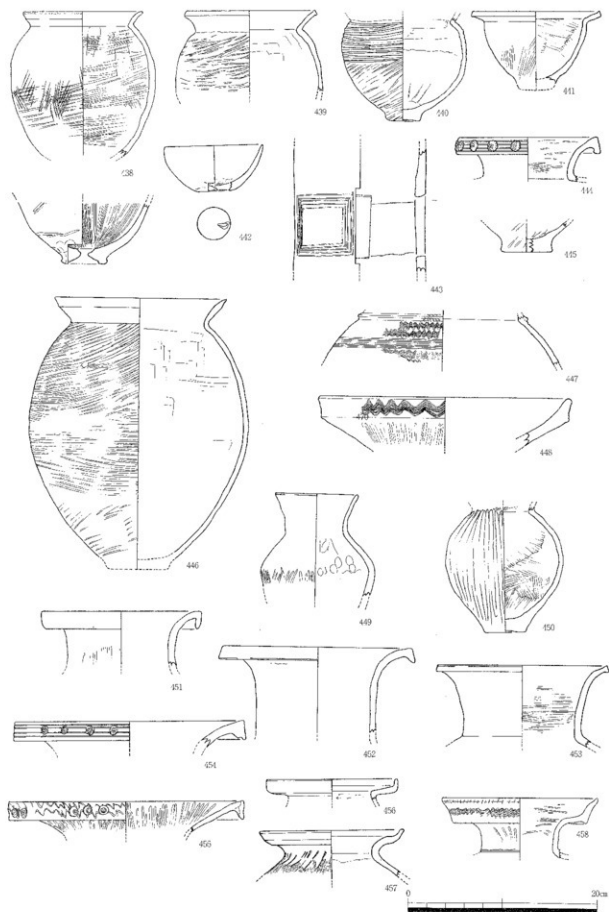
第56图 第VI层出土遗物(13)



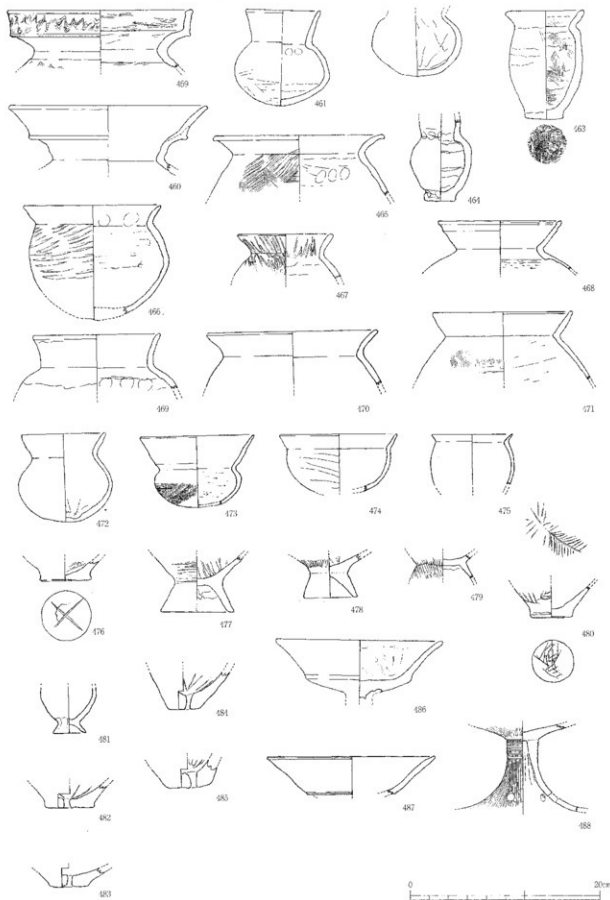
第57図 第VI層出土遺物(14)



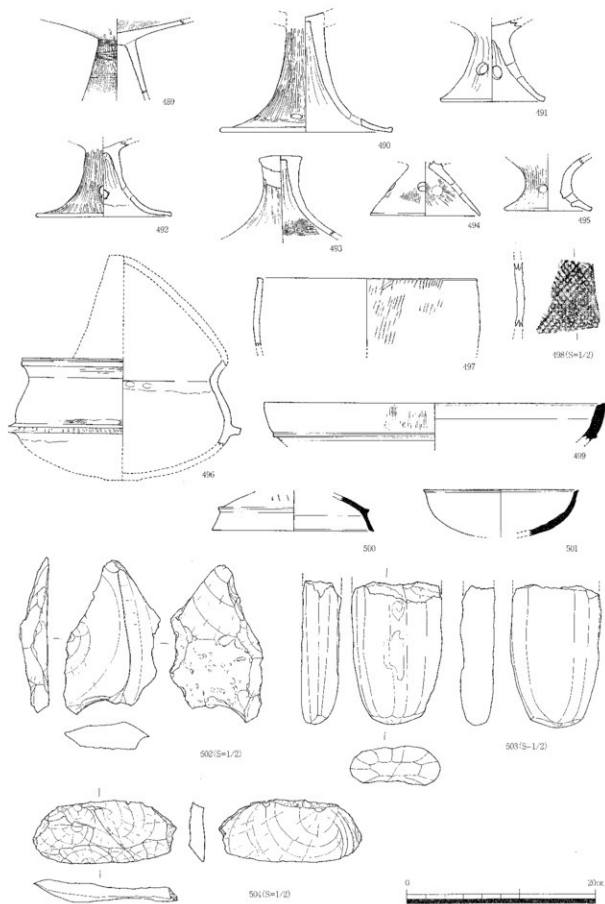
第58图 第Ⅶ层出土遗物(1)



第59图 第Ⅶ层出土遗物(2)



第60图 第Ⅶ层出土文物(3)



第61图 第Ⅵ层出土遗物(4)



第62図 第Ⅵ層出土遺物(5)

遺物一覧表

標記番号	器物	出土地点	法長 (cm)	色 質	焼成	土 質	技法の特徴	備 考	
1	石臼 (上層)	SD-102	外径(横) 石臼(縦) 孔径(横) 要 部高	31.4 4.4 6.3 30.45 8.8			花崗岩	断面検査溝は1区画5条	断面は不明、使用により 磨耗されている面あり
2	土師器 小皿	SD-114	口径(横) 器高(縦)	9.2 1.3	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	
3	石核 (?)	SD-115	直径 厚さ	4.3 1.25 1.6 39.7g			サメカイト		古い石核を使用し再利用 している、二上山産
4	土師器 小皿	SD-116	口径(横) 器高(縦)	10.6 1.6	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	
5	土器器 壺	SK-103	口径(横) 器高(縦)	30.0 6.0	外) 灰青褐色 内) 黄灰 底) 黄灰	良好	密	口縁から頸部にかけて内外面ヨコナデ、 外側底部ハケ目の痕ナデ(ハケ目はナデ により削られている)、内面頸部から底部 にかけて痕ナデ(上部はヨコナデのため、 下部はケズリのため削られている)とケズ リ、粘土層と目地あり	
6	凹石?	SK-116	最大 径幅 厚さ	6.7 4.6 1.2 39.6g			片岩		
7	瓦葺 板	SK-120	口径(横) 器高	13.0 2.8	外) 灰 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面ナデ・折込、内面ヘラミガキ、口 縁部に波線あり、口縁部ヨコナデ	大和型
8	平瓦	SK-101	長さ 幅幅 厚さ	15.4 15.6 2.8	外) 灰 内) 灰 底) 灰	良好	やや粗	凸面ヨコ方向のケズリ・凹取り痕す、内 面窪みタタキ、端部ヘラケズリ	平安時代の瓦と思われる。 凹面ケズリの下に赤 目は観察できない。造の ように窪み面を使用し たか
9	土師器 壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	12.7 6.5	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	外面ナデ・下部ハケ目(単位不明)、内 面板ナデ・粘土層あり、口縁部ヨコナ デ	
10	土師器 小型丸底壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	9.0 4.9	外) 灰青褐色 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面ナデ、内面ナデ・ヨコ方向ヘラケズ リ・底部に粘土層あり、口縁部ヨコナ デ	内面底部上半部に腐付 き
11	土師器 小型丸底壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	8.4 6.1	外) 灰青褐色 内) 灰 底) 灰	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	外面にペンタ付首
12	土師器 壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	15.0 4.9	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰	良好	密	外面タタキ目、内面ナデ・粘土層あり、口 縁部ヨコナデ・粘土層あり、首付さ すナデ、口縁部ヨコナデ	外表面に少量の腐付 き
13	土師器 壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	13.7 4.3	外) におい黄褐色 内) 黄 底) 灰	不良	密	外面7条/cmのハケ目、内面ナデ・ヘ ラケズリ・底部上部に指圧痕と粘土層あり、 口縁部ヨコナデ	
14	土師器 壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	16.2 4.6	外) 灰青褐色 内) におい黄褐色 底) 灰	やや 不良	密	外面ナデ・12cm(??)のハケ目、内面ナ デ(わずかに板ナデ)・ヘラケズリ、粘 土層あり、口縁部ヨコナデ	
15	土師器 壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	15.0 5.4	外) におい黄褐色 内) 黄褐色 底) オリーブ黒	やや 不良	密	外面頸部ナデ・底部上半7条/cmのハ ケ目と粘土層あり、内面ナデ・ヘラケズ リ、口縁部ヨコナデ	
16	土師器 壺	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	17.2 8.5	外) 灰青褐色 内) 灰 底) 灰	やや 不良	密	外面頸部ナデ方向窪みハケ目、内面内 部ヨコ方向ヘラケズリ・底部1部ナメ 面ハケ目と粘土層あり、口縁部ヨコナ デ	外表面上半部に腐付 き
17	土師器 有孔鉢	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	3.6 8.5	外) 灰白 内) 灰青褐色 底) 黄灰	良好	やや粗	外面タタキ・底部ナデで縁面飾り、内面 板ナデ(ナデ削られて不規則)	穿孔あり
18	須恵器 杯蓋	自然流路 (上層)	口径(横) 器高(縦)	12.6 4.3	外) 灰 内) 灰 底) 赤灰	やや 不良	密	外面上半部板ヘラケズリ・下半ナデ、内 面ナデ、口縁部ヨコナデ	
19	須恵器 杯蓋	自然流路 (上層)	口径(横) 口径(直径) 器高(縦)	12.5 15.0 4.4	外) 灰 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面ナデ・屈折ヘラケズリ、内面ナデ、 口縁部ヨコナデ	
20	瓦葺土 器?	自然流路 (上層)	口径(横) 器高	14.6 4.5	外) 灰オリーブ 内) 灰 底) におい黄褐色	やや 不良	密	外面ヨコ方向ヘラミガキ(やや磨耗して いる)、内面ヨコナデ・ナデ	外表面に少量の腐付 き

押出器の 種類	部材	出止形状	法厚 (cm)	色 調	焼成	耐 火	技法の特徴	備 考
21	瓶芯部 杯蓋	自然流路 (上層)	口径 (横) 180 法厚 (縦) 19	外) 灰 内) 灰 底) 灰	窯敷	密	外周凹板ナデ・ナデ、内周ナデ、口縁部 ヨコナデ	
22	瓶芯部 杯身	自然流路 (下層)	口径 (横) 140 法厚 (縦) 3.6	外) 灰 内) 灰 底) 灰	窯敷	密	内外凹ナデ、口縁部ヨコナデ	
23	瓶芯部 杯身	自然流路 (上層)	口径 (横) 135 法厚 (縦) 3.9	外) 灰 内) 灰 底) 灰	窯敷	密	外周ナデ・底部ヘラケズリ、内周ナデ、 口縁部ヨコナデ	外周底部全体を器底の1/2位のところ黒染が見られる
24	瓶芯部 杯身	自然流路 (上層)	口径 (横) 136 法厚 (縦) 4.2	外) 灰白 内) 灰白 底) 灰白	窯敷	密	内外凹ナデ、口縁部ヨコナデ、内面に結 晶釉	
25	瓶芯部 杯身	自然流路 (上層)	口径 (横) 134 法厚 (縦) 4.2	外) 灰 内) 灰 底) 灰	窯敷	密	外面ナデ、内面ナデ・底部凹板ヘラケズリ、 口縁部ヨコナデ	外周口縁部に灰付素 り、口縁部ヨコナデ
26	瓶芯部 蓋	自然流路 (上層)	口径 (横) 225 法厚 (縦) 8.5	外) 灰 内) 灰 底) 赤灰	やや軟	密	口縁部ヨコナデ、内外凹板ナデ、内面 に指押痕	
27	瓶芯部 高杯	自然流路 (下層)	口径 (横) 76 法厚 (縦) 2.7	外) 灰 内) 灰 底) 灰	窯敷	密	外面凹板ナデ・底部凹板ヘラケズリ、内 周凹板底面と脚部凹板ヘラケズリ	外面に灰付素
28	瓶芯部 高杯	自然流路 (上層)	口径 (横) 126 法厚 (縦) 7.6	外) 灰 内) 灰 底) 灰オリーブ	窯敷	密	内外凹板ナデ、底部凹板ヘラケズリ	
29	脚式系上層 小片	自然流路 (上層)	最大 断面厚 6.7 0.55	灰黄 内) 灰 底) オリーブ黒	やや 不良	密	外面地目タタキ、内面ナデ	
30	脚式系下層 小片	自然流路 (上層)	最大 断面厚 6.8 0.8	灰黄 内) 黒 底) 灰	やや 不良	密	外面地目タタキ、内面ナデ	内面に灰付素
31	脚式系下層 葉	自然流路 (下層)	法厚 4.5	外) 灰 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面陶器タタキ・線彫痕、内面ナデ	軟質
32	平瓦	自然流路 (上層)	幅 長さ 厚み 143 189 20	外) 灰 内) 灰 底) 灰				
33	平瓦	自然流路 (上層)	幅 長さ 厚み 282 320 2.6	外) 灰 内) 灰 底) 灰				
34	土師器 鉢	自然流路 (中層)	口径 (横) 170 法厚 (縦) 8.7	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	やや 不良	密	外面上中に列点文と円形浮文筋、下中 部に華文文様、内面口縁部ヨコナデで割 突文筋、底部ナデ	
35	土師器 盃	自然流路 (中層)	口径 (横) 154 法厚 (縦) 2.1	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	やや粗	内外凹ヨコナデ	外面に灰付素
36	土師器 小瓶丸底甕	自然流路 (中層)	口径 法厚 88 90	外) 灰オリーブ 内) 灰オリーブ 底) 灰	良好	密	内外凹ナデ、内面指押痕、口縁部ヨコ ナデ、内面底部しほり痕あり	
37	土師器 葉	自然流路 (中層)	法厚 (横) 法厚 (縦) 91.7	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面タタキ目、内面ナデ、底部ヨコナデ、 内面にしほり痕あり	
38	土師器 葉	自然流路 (中層)	口径 (横) 法厚 (縦) 178 5.7	外) 灰 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面ナデとタタキ目、内面ナデ、口縁部 ヨコナデ	
39	土師器 葉	自然流路 (中層)	口径 (横) 法厚 (縦) 346	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面ハケ目、内面ヘラケズリ・底部上中 と下中に指押痕	
40	土師器 高杯	自然流路 (中層)	口径 (横・外) 法厚 (縦・内) 108 109 5.8	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	やや 不良	密	外面ナデ・ヨコナデ、上部に指押痕、下 部にタタキ目あり、内面杯底部縁小い ハケ目・底部斜めハケ目とヨコナデ目と ヨコナデ・脚上部に結晶釉	
41	土師器 高杯	自然流路 (中層)	口径 (横) 法厚 (縦) 140 7.8	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面タテ方向ヘラケズリ・横いタテ方向 のヘラケ目、ヨコナデ、内面ナデ・目 コナデ・結晶釉あり・杯底底面縁小い ハケ目	杯底の残っている部分と 内面の脚部の 部に灰付 素
42	瓶芯部 杯蓋	自然流路 (中層)	口径 (横) 法厚 (縦) 124 4.45	外) 灰 内) 灰 底) 灰	窯敷	密	外面上下凹板ヘラケズリ・下中ナデ・後 縁あり、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	

採石場番号	産地	出土地点	法量 (cm)	色 調	状況	治 上	採法の特徴	備 考		
43	須恵郡 杯蓋	自然流路 (中層)	口径(縦) 器高(横)	15.6 3.8	外) 灰 内) 灰青 灰	堅緻	密	ギン面上半回転ヘラケズリ・下半ナダ、 内面ナダ		
44	須恵郡 杯蓋	自然流路 (中層)	口径(縦) 器高(横)	15.2 4.5	外) 灰 内) 灰白 灰	堅緻	流 長石	外面上半回転ヘラケズリ・下半ナダとヨ コナダ、内面ナダ・ヨコナダ		
45	須恵郡 杯蓋	自然流路 (中層)	口径 器高	12.6 4.7	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	外面上半回転ヘラケズリ・下半ナダ、内 面ナダ	口縁直む	
46	須恵郡 蓋	自然流路 (中層)	つまみ径 器高(横)	3.0 2.5	外) 灰 内) 灰 灰	良好	密	内外面回転ナダ、内面ナダ、カマ記号あ り		
47	須恵郡 杯身	自然流路 (中層)	口径(縦) 器高(横)	14.7 3.9	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	内外面ナダ、外面彫形ヘラケズリ、口縁 部ヨコナダ		
48	須恵郡 杯身	自然流路 (中層)	口径(縦) 口深(受部) 器高(横)	14.0 16.4 10.4	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	内外面ナダ、口縁部ヨコナダ		
49	須恵郡 杯身	自然流路 (中層)	口径(縦) 器高(横)	10.8 3.3	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	外面ナダ・回転ヘラケズリ、内面ナダ、 口縁部ヨコナダ		
50	韓式系土器 小片	自然流路 (中層)	兼長 短大厚	7.3 0.7	外) 輝 内) 輝 灰青	良好	密	外面格子目タタキ、内面ナダ		
51	韓式系土器 小片	自然流路 (中層)				良好	密	外面格子目タタキ、内面ナダ		
52	韓式系土器 小片	自然流路 (中層)	兼長 短大厚	9.4 0.7	外) 灰青 内) 灰 灰	不良	密	外面格子目タタキ、内面ナダ		
53	磁石	自然流路 (中層)	兼長 短大厚	5.9 5.9 14 7.1	外) 灰 内) 灰 灰		凝灰岩	両面に縦溝あり	緑加焼	
54	土師器 小型甕	自然流路 (下層)	口径(縦) 器高(横)	12.9 8.2	外) 灰青 内) 灰青 灰	良好	やや強	外面ヨコナダ、ハケ目(タテ・斜め)、 内面ヨコナダ・縦ナダ・体部上部粘上縁 部・体部下縁指押え	外面にベンガラ付着	
55	土師器 小型丸甕	自然流路 (下層)	口径(縦) 器高(横)	10.2 7.6	外) 灰青 内) 灰青 灰	良好	密	内外面ヨコナダ・ナダ、外面体部に10 cmのハケ目あり	胴部内側に集積着 金/cmのハケ目あり	
56	土師器 甕	自然流路 (下層)	口径(縦) 器高(横)	33.6 5.6	外) 灰青 内) 灰青 灰	良好	密	内外面ヨコナダ、外面体部タタキ(タタ キの抜ナダ)		
57	土師器 杯	自然流路 (下層)	高さ径(縦) 器高(横)	16.0 12.0	外) 灰青 内) 灰青 灰	良好	密	外面ヨコナダ・ナダ、貼り付け高台、内 面ヨコナダ・横文		
58	韓式系土器 小片	自然流路 (下層)	兼長 短大厚	3.8 0.7	外) 灰白 内) 灰白 灰		やや軟質	密	外面格子目タタキ、内面ナダ	須恵式
59	須恵郡 杯蓋	自然流路 (下層)	口径(縦) 器高(横)	13.0 4.7	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	外面上半回転ヘラケズリ・下半ナダ、内 面ナダ	内面に鉄分付着、外面に 灰付着	
60	須恵郡 蓋	自然流路 (下層)	口径 器高	12.6 5.3	外) 灰白 内) 灰 灰	堅緻	密	内外面回転ナダ、上面回転ヘラケズリ		
61	須恵郡 杯身	自然流路 (下層)	口径(縦) 器高(横)	12.8 3.5	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	口縁部ヨコナダ、内外面回転ナダ		
62	須恵郡 杯身	自然流路 (下層)	口径 口深(受部) 器高(横)	11.8 13.7 3.2	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	内外面ナダ、口縁部ヨコナダ、ヘラ記号あ り		
63	須恵郡 杯身	自然流路 (下層)	口径(縦) 器高(横)	13.8 3.3	外) 灰 内) 灰 灰	堅緻	密	外面ナダ・回転ヘラケズリ、内面ナダ、 口縁部ヨコナダ		
64	須恵郡 杯身	自然流路 (下層)	口径(縦) 口深(受部) 器高(横)	13.2 15.2 3.5	外) 灰 内) 灰 灰	やや軟	密	外面ナダ・回転ヘラケズリ、内面回転ナ ダ、口縁部ヨコナダ		

採石番号	産種	出土地点	法量 (cm)	色 調	塊成	輪 上	技法の特徴	備 考
65	須恵器 杯身	自然流跡 (下層)	口径 口径(受部) 器高	117 144 32	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外面上半ナテ・下半回転ヘラケズリ、内面ナテ、口縁部ココナテ
66	須恵器 杯身	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	114 27	外 灰青 内 暗灰青 底 暗灰	やや 不貞	密	内外面ナテ、口縁部ココナテ
67	須恵器 杯身	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	110 40	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外面ナテ・回転ヘラケズリ、内面ナテ、口縁部ココナテ
68	須恵器 壺	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	211 49	外 暗灰 内 暗 底 灰	やや 不貞	密	内外面ココナテ・ナテ、内面に粘土積痕
69	須恵器 壺	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	212 54	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外面ココナテ・ナテ
70	須恵器 壺	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	220 805	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	口縁部ココナテ、肩部ナテ、外四体部テ方向のタタキの後かキ目ですりつけている、内面体部に片割成文様
71	須恵器 合付鉢	自然流跡 (下層)	口径 脚高	116 118	外 灰 内 灰黄褐 底 (中心部) に赤い層	やや 不貞	密	口縁部と台底部ココナテ、内外面ナテ、外面ヘラ掻き成文様支子、鉢部下半回転ヘラケズリ
72	須恵器 高杯	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	108 44	外 灰 内 灰黄褐 底 灰	堅緻	密	内外面ナテ、外面杯部下半回転ヘラケズリ
73	須恵器 飯	自然流跡 (下層)	口径 器高(残)	— 64	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外面上半ナテ・下半回転ヘラケズリ、内口孔は外面から内面に穿っている
74	須恵器 飯	自然流跡 (下層)	口径 器高(残)	— 109	外 オリーブ灰 内 オリーブ灰 底 灰	堅緻	密	外面肩部かキ目・体部上半ヘラ掻き北縁文(3本)と斜線文施す・体部下半回転ヘラケズリ、内面ナテ。
75	須恵器 飯	自然流跡 (下層)	口径 器高(残)	— 158	外 黄灰 内 オリーブ 底 赤灰	堅緻	やや粗	外面上半かキ目・下半ナテ・縁部文を施す、内面ナテ
76	須恵器 鉢台	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	278 61	外 灰 内 灰 底 灰赤	堅緻	密	内外面回転ナテ、外面にクシ掻き波状文を施す
77	須恵器 鉢台	自然流跡 (下層)	口径(復) 器高(残)	265 94	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外面ナテ・沈凝と沈凝の間に12本の波状文(2帯と1帯)それぞれあり、内面ナテ・ココナテ
78	銅片	自然流跡 (下層)	長 幅 厚 重	5.6 6.30 1.5 31.5g			サヌカイト	
79	砥石	自然流跡 (下層)	長 幅 厚 重	7.6 7.6 2.6 225.6g			砂質	
80	木製品	自然流跡 (下層)						
81	磁石	SK-208	塊長 塊厚 重	5.5 2.2 1.1 24.0g			片岩	玉座?
82	須恵器 杯蓋	SK-215	口径(復) 器高(残)	206 18	外 灰白 内 灰白 底 灰白	堅緻	密	内外面ナテ・ココナテ
83	銅片	SK-215	長 幅 厚 重	5.6 3.7 0.8 20.7g			サヌカイト	二上山産
84	須恵器 杯蓋	SK-216	口径(復) 器高(残)	81 81	外 灰白 内 灰白 底 灰口	良好	密	外面ナテ・回転ヘラケズリ、内面ナテ、外面にヘラ記号あり口縁部ココナテ
85	土師器 壺	SK-220	口径(復) 器高(残)	18.8 30	外 灰白 内 灰白 底 黄灰	堅緻	密	内外面ココナテ
86	土師器 高杯	SK-225	口径(復) 器高(残)	17.8 6.3	外 橙 内 橙 底 灰	良好	やや粗	内外面ココナテ・ナテ、外面杯下部に指押さへ

検出 番号	品名	出土地点	法量 (cm)	色 質	状態	治 法	採法の特徴	備 考
87	棒式系上器 小片	SP-234	線高(残) 2.6	外) に近い黄緑 内) 灰黄緑 断) 灰黄緑	良好	やや粗	外器筒子口タキ、内面ナデ	軟質
88	古式土師器 壺	SP-243	口径(復) 線高(残) 15.0 10.1	外) 黄緑 内) 黄緑 断) 黄緑	良好	密	外器タタキ目とハケ目、内面ヘラケズリ、 指押え、口縁部ヨコナデ	
89	法式上器 小型丸底壺	落ち込みA	口径 線高 9.4 15.5	外) 灰 内) 灰 断) 灰	やや 不良	密	外面ハケ目とタタキ目、内面ナデとヘラ ミゴキ、口縁部ヨコナデ	外面口縁から腹部にかけて キズあり
90	土師器 短頸壺	落ち込みA	口径 線高 8.2 7.0	外) 灰黄緑 内) 灰 断) 灰	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	外面腹部全体に黒塗りあり
91	土師器 (おび)	落ち込みA	口径 線高 5.5 7.4	外) 黄緑 内) 黄緑 断) 灰	良好	密	外面ナデとヘラケズリ、内面ナデ、口縁 部ヨコナデ	腹部に穿孔あり (外→内 へ)
92	土師器 壺	落ち込みA	口径 線高 9.4 11.2	外) 黄緑 内) 黄緑 断) 灰キリーブ	やや 不良	密	外面板ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	外面は特に底部・内面に 牛毛に染まっている、底部 穿孔
93	棒式土師 壺	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 18.8 5.9	外) 黄赤 内) に近い黄 断) 灰	やや 不良	密	内外面ヨコナデ、内面腹下部指押え	二重口縁
94	赤土上器 壺	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 21.8 8.2	外) に近い黄緑 内) に近い黄 断) 灰	やや 不良	密	内外器ヨコナデ・ナデ	腹上(2段)口縁
95	古式土師器 壺	落ち込みA	口径 線高 17.1 29.2	外) に近い黄緑 内) オリーブ茶 断) に近い黄緑	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	
96	土師器 壺	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 17.0 15.0	外) に近い黄緑 内) に近い黄 断) 灰	良好	密	外面ナデ、内面ナデ、タテ方向のヘラケ ズリ、筋十線あり、口縁部ヨコナデ	外面腹部と平部に黒付着
97	古式土師器 壺	落ち込みA	口径 線高 13.9 10.4	外) に近い黄緑 内) 黄 断) 灰白	やや 不良	密	内外器ヨコナデ・ナデ、内面に指押え・ 蛇土線あり	外面腹部上半部に黒付着
98	土師器 壺	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 12.7 19.8	外) に近い黄緑 内) 黄 断) 灰	良好	密	外面板ナデ、内面ナデ、口縁部指押え とヨコナデ、底器ナデ	
99	土師器 丸底壺	落ち込みA	口径(復) 線高(復) 15.6 26.6	外) 黄赤 内) に近い黄 断) 灰	良好	粗	外面腹部上半部タテ方向のハケ目と噴い タキ目、敷ナデ、内面腹部ヘラケズリ・下 ナデ方向の板ナデ、口縁部ヨコナデ	外面腹部に黒付着
100	棒式系上器 壺	落ち込みA	口径 線高 22.2 20.7	外) に近い黄緑 内) 灰 断) 灰	良好	密	外面筋子タタキ、内面ナデ、口縁部ヨコ ナデ	外器口縁部に黒付着
101	土師器 有孔鉢	落ち込みA	口径 線高(残) 4.3 1.8	外) に近い黄 内) に近い黄 断) 灰黄赤	良好	やや粗	外面タタキ・底器ナデ、内面板ナデ(板 射状)	穿孔あり
102	土師器 壺	落ち込みA	口径 線高(残) 5.0 2.4	外) に近い黄 内) 灰黄 断) 灰黄	良好	やや粗	外面タタキ、内面両面不明	底面に木の葉の跡あり
103	土師器 鉢	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 4.4	外) 黄 内) に近い黄 断) 灰	良好	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ、外面腹部ハケ目 (わずかに観察できる)、内面腹部ケズリ	
104	土師器 小型壺	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 11.3 9.9	外) 灰黄赤 内) 灰黄赤 断) 灰黄赤	良好	粗	外面タタキ目(とところどころ塗布)、内 面ナデ・指押え、口縁部ヨコナデ	穿孔あり
105	土師器 丸底壺	落ち込みA	口径 線高 12.3 8.05	外) 灰黄 内) 灰 断) 灰	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	内面は全体に黒付着
106	棒式系土師小 皿鉢	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 11.6 8.5	外) に近い黄緑 内) 灰黄 断) 灰黄	良好	やや粗	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	底部穿孔あり
107	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 線高(残) 21.4 6.2	外) 黄 内) 黄 断) 灰黄赤	良好	密	外面筋め方向ハケ目・ナデ・ヘラケズリ、 内面ヨコ方向ハケ目・ナデ、口縁部ヨコ ナデ	
108	土師器 高小	落ち込みA	口径 線高(残) 17.0 6.0	外) 灰黄赤 内) 灰 断) 灰	不良	やや粗	内外面ヨコナデ・ナデ	

種別番号	部名	出上地点	寸法 (mm)	色 沢	焼成	胎 土	技法の特徴	備 考	
109	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	196(外) 8.3(内)	外) におい度 弱 灰白	やや 不良	密	外面(口縁部)にコナテ、不器ナテ・タテハケ、内面(口縁部)にコナテ・外唇ハケ目・粘土粒痕あり	
110	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	138(外) 4.6(内)	外) 色 得 緑灰	不良	粗	口縁部コナテ、外面ナテ、内面ハケ目	
111	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	106(外) 8.1(内)	外) におい度 弱 オリーブ色	良好	密	外面ナテ、内面しぼり目・瓶ナテ・ナテ、粘土粒痕あり、脚端部コナテ	脚部に円形の遺しを3ヶ所穿つ
112	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	108(外) 7.35(内)	外) におい度 弱 灰	小良	密	外面ナテ、内面しぼり目・ココ方向ヘラケズリ・粘土粒痕あり	底部に円形の遺しを3ヶ所穿つ
113	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	104(外) 5.7(内)	外) 赤 褐色 灰白	やや 不良	密	外面ナテ、内面しぼり目・ナテ・粘土粒痕、脚端部コナテ	
114	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	124(外) 7.4(内)	外) 灰黄 色 黒褐色	やや 小良	密	外面ヘラナテ、内面ヘラケズリ・ハケ目、脚端部コナテ	
115	土師器 高杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	93(外) 6.4(内)	外) 色 得 灰白	良好	密	外面ナテ方向ヘラミガキ、内面しぼり目・ココ方向ヘラケズリ・ココ方向ハケ目、脚端部内外面コナテ	
116	埴土系土師 小片	落ち込みA	長さ 幅大厚	77(外) 1.0(内)	外) 灰黄 色 灰	小良	やや粗	外面格子目タキ、内面ナテ	
117	埴土系土師 小片	落ち込みA	長さ 幅大厚	47(外) 0.65(内)	外) におい度 弱 灰	やや 不良	密	外面格子目タキ、内面ナテ	
118	埴土系土師 小片	落ち込みA	長さ 幅大厚	9.5(外) 0.55(内)	外) におい度 弱 灰黄 褐色	良好	密	外面格子目タキ、内面ナテ	
119	須恵器 蓋	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	168(外) 3.3(内)	外) 黒 灰 灰	堅硬	密	内外面ナテ(外面上唇ナテはヘラ切りを施している)、外面上部指押さえ、内面凹輪ナテ	
120	須恵器 杯	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	118(外) 3.3(内)	外) 灰 灰 灰	堅硬	密	外面上唇と内面凹輪ナテ、外面下平ヘラケズリ	
121	須恵器 不明	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	115(外) 14.2(内)	外) 灰 灰 灰	堅硬	密	内外面凹輪ナテ	内底に白色付着物あり
122	須恵器 丸底蓋	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	108(外) 14.7(内)	外) 黄 灰 灰	堅硬	密	外面ナテと格子ナテ、内面指押さえとナテ、口縁部に流状文・口縁部コナテ	
123	須恵器 蓋	落ち込みA	器高(現)	39	外) 灰 内) 粗灰	堅硬	密	内外面凹輪ナテ	
124	須恵器 高杯	落ち込みA	器高(現)	87	外) 灰 内) 灰 灰	堅硬	密	外面凹輪ナテ・ヘラ状工具による刺突文、内面ナテ、凹輪ナテ	刺突文は器部の3ヶ所に施されている
125	須恵器 高杯?	落ち込みA	口径(復) 器高(現)	74(外) 11.0(内)	外) 灰 灰 灰	堅硬	密	内外面コナテ・ナテ、外唇に流状文(1・2ヶ所)施す、内面下半指押さえ	
126	須恵器 杯	落ち込みA	器高(現)	45	外) 灰 内) 灰 灰	堅硬	密	外面格子目タキ、内面コナテ、ナテ	
127	須恵器 蓋	落ち込みA	器高(現)	50	外) 灰 内) 粗灰	堅硬	密	外面格子目タキ、内面ナテ	
128	下関系 有孔円盤	落ち込みA	直径(復) 厚	30 0.45					
129	縄文土師 器鉢	落ち込みB	口径(復) 器高(現)	234(外) 9.0(内)	外) におい度 弱 灰黄 褐色	良好	粗	外面格子目付交差、突部部にD字型刻み文施す・粘土粒痕あり、内外面ナテ	
130	縄文土師 深鉢	落ち込みB	口径 器高(現)	一 4.3	外) 灰黄 色 灰黄	良好	粗	外面格子目付交差、突部部にD字型刻み文施す・粘土粒痕あり、内外面ナテ	

図面 番号	部材	出土地点	法量 (cm)	尺 寸	焼成	材 質	技法の特徴	備 考
131	綱文土器 深鉢	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 36	外) 神原東 内) 飯沼 断) 神原東	やや 不良	粗	外面に貼り付け突起、内外面ナデ	
132	縄文土器 深鉢	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 284 117	外) 鹿嶋 内) 鹿嶋 断) 鹿嶋	良好	砥	内外面ココナデ・ナデ、外面に貼り付け突起・突起部に底みナデ(〇字)施す	外周に少量のベンガラ付着
133	土器器 小型壺	落ち込みB	口径 器高 34 115	外) におい貴 内) 相沢南 断) 鹿嶋	良好	密	外面ヘラミガキ、底部ココナデ、内面ナデ・筋十線あり、口縁部ココナデ	
134	弥生土器 壺	落ち込みB	器高(残) 20	外) 鹿沢南 内) 鹿沢南 断) 鹿嶋	良好	やや粗	内外面ナデ・筋十線による波状文(4条・5条位)施す	
135	弥生土器 壺	落ち込みB	器高(残) 22	外) 鹿沢南 内) 鹿沢南 断) 鹿嶋	良好	やや粗	内外面ナデ、外周口縁部に彫文と内形文あり	外面にほみれにわずかに朱が染み(全体に染みまわっていたものと推される)
136	弥生土器 壺	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 189 67	外) におい貴 内) におい貴 断) におい貴	良好	密	内外面ココナデ・ナデ	二重口縁
137	土器器 壺	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 110 65	外) におい貴 内) 鹿 断) 深白	良好	やや粗	内外面ナデ、ココナデ・ナデ、内面ココナデ・ケズリ、口縁部彫文(外周口縁部にはケ目があったと思われるが不明)	
138	土器器 小型先底壺	落ち込みB	口径 器高 129 120	外) におい貴 内) におい貴 断) におい貴	良好	密	外面ナデとハケ目、内面ヘラズリ、口縁部ココナデ	底部全体と一部口縁に黒付着
139	土器器 小型先底壺	落ち込みB	口径 器高 92 96	外) におい貴 内) 鹿南 断) 鹿南	良好	密	内外面ナデ、口縁部ココナデ、内面彫文施す	外面体部と胴部に黒付着
140	土器器 小型先底壺	落ち込みB	口径 器高(残) 92 82	外) 鹿 内) 鹿 断) 鹿	良好	密	外面ナデ・ハケ目、内面ナデ・ヘラズリ、口縁部ココナデ	
141	土器器 小型先底壺	落ち込みB	口径 器高(残) 78	外) 鹿南 内) におい貴 断) 鹿南	やや 不良	密	外面ナデ・ハケ目・ココと斜めハケ・胴部ココナデ、内面胴部ココナデ・指ナデ、粘土細灰あり	体部全面的に黒付着、作りが堅く、底部分、外周体部に5-6つのケズレあり
142	土器器 ミニチュア二重壺	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 38 42	外) におい貴 内) におい貴 断) 鹿沢	良好	密	内外面ココナデ・ナデ・筋十線あり、内面胴部施す	内面に粘土細灰
143	土器器 ミニチュア先底壺	落ち込みB	口径 器高(残) 58	外) 鹿南 内) 鹿南 断) 鹿南	良好	密	内外面ココナデ・ナデ、外面上部に文様・底部押さえ、内面筋十線あり	
144	弥生土器 壺	落ち込みB	口径 器高 148 194	外) 鹿南 内) 鹿南 断) 鹿南	良好	密	外面タタキ目、内面板ナデと押さえ、口縁部ココナデ	外面胴部中央と底面・内面胴部上から底面にかけて黒付着
145	土器器 壺	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 164 72	外) 灰ナリーフ 内) 灰ナリーフ 断) 灰ナリーフ	良好	密	外面タタキ目、内面ナデ・筋十線あり、口縁部ココナデ	外面口縁部に黒付着
146	土器器 壺	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 159 79	外) におい貴 内) 鹿南 断) ミリアー南	良好	密	外面ナデ・5条/cmのハケ目、内面ナデ・ヘラズリ、口縁部ココナデ	
147	土器器 有孔鉢	落ち込みB	口径 器高(残) 40 36	外) におい貴 内) におい貴 断) 鹿南	良好	やや粗	内外面ハケ目(外底面黒く)、外底面ナデ	穿孔あり
148	土器器 壺	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 196 110	外) におい貴 内) におい貴 断) におい貴	良好	密	外面ナデ・タテとヨコ方両ハケ目、内面ナデ・ココと斜め方角のヘラズリ、口縁部ココナデ	
149	土器器 高杯	落ち込みB	口径(復) 器高 150 102	外) 鹿南 内) 鹿南 断) 鹿南	良好	密	外面ナデ、内面ナデとヘラズリ、口縁部ココナデ	内面全体に黒付着
150	土器器 高杯	落ち込みB	口径(復) 器高 134 94	外) におい貴 内) におい貴 断) 鹿南	やや 不良	密	外面ナデ、内面板ナデとナデ、口縁部ココナデ	3ヶ所施しあり
151	土器器 高杯	落ち込みB	口径(復) 器高(残) 254 74	外) におい貴 内) 鹿 断) におい貴	良好	密	内外面ココナデ・ナデ、外面下部ハケ目	
152	土器器 高杯	落ち込みB	口径 器高(残) 149 45	外) におい貴 内) 鹿南 断) 鹿沢	やや 不良	粗	外面ナデ・8条/cmハケ目・ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、口縁部ココナデ	外面口縁部に黒付着

持回番号	部種	出土地点	法量 (cm)	色 質	焼成	胎 土	技法の特徴	備 考	
153	土師器 高杯	落ち込みB	口径 器高 (残)	19.0 5.5	外) におい黄橙 内) におい黄橙 底) 黒	やや 不良	密	外面ハケ目 (8条/cm)・上からナデ調整、 内面ナデ (板ナデ)、口縁部ヨコナデ	
154	土師器 高杯	落ち込みB	口径 (破) 器高 (残)	4.6 10.6	外) 灰黄 内) におい黄橙 底) 暗灰	やや 不良	密	外面ナデ・結土織履、内面板ナデ (かす かに黄筋)、口縁部ヨコナデ	外面口縁部に灰付着
155	土師器 高杯	落ち込みB	器高 (残)	6.8	外) 赤橙 内) 赤橙 底) 灰	良好 (黄質)	密	外面ハケ目 (ヨコ方向のみ若干縦も入 る)・上部ミズギ、内面杯底ミズギ (灰 粒状)・脚部ナデと下部ミズギ	
156	土師器 高杯	落ち込みB	口径 (破) 器高 (残)	9.8 7.8	外) におい黄 内) 灰黄 底) オリーブ黒	良好	密	外面ナデ方向ヘラナデ・ヨコナデ、内面 しぼり目・ナデ・ヨコナデ	
157	土師器 高杯	落ち込みB	底径 器高 (残)	12.0 6.4	外) におい橙 内) におい黄橙 底) オリーブ黒	やや 不良	密	外面ナデ・粘土織履、内面ハケズリ・ ナデ・板ナデ・脚部ヨコナデ	
158	石鏃	落ち込みB	長 幅 厚さ	9.2 7.5 5.6 54.1			砂岩		製石に転用した可能性あり
159	石核	落ち込みB	延長 残幅 残厚 重	6.1 2.2 3.8 56.7			サマカイト		二上山産
160	削片	落ち込みB	長 幅 厚さ	4.1 2.8 0.75 5.0			サマカイト		二上山産
161	削片	落ち込みD	残長 幅 厚さ 重	4.8 4.8 1.8 35.7			黄質黄灰質	痕跡あり	
162	弥生土師 器	第V層	口径 (破) 器高 (残)	20.0 3.8	外) 灰黄 内) 灰黄 底) 灰黄	良好	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ (外面強いヨコナ デ)、外周部部分ミナ (滑らかかっ ている)、内面内面ナデ	西部面/内溝?
163	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	11.4 4.5	外) におい黄橙 内) におい黄橙 底) 黄灰	良好	やや粗	内外面ヨコナデ・ナデ、外面口縁部に4 条の波状文と凸字形刻み目文と刻点文 刻す・灰付付着。内面口縁部に5・7 条の波状文・口縁部刻み目文付着	
164	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	11.5 5.1	外) 灰黄 内) におい橙 底) 灰黄	良好	密	外面ナデ・8条/cmのハケ目わずかに残 る、内面8条/cmヨコハケ目、口縁部 ヨコナデ	
165	灰青器 小型丸底甕	第V層	口径 器高	5.5 7.2	外) 橙 内) 橙 底) 黒	良好	密	外面板ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	
166	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	12.8 7.0	外) 灰黄 内) におい黄橙 底) 黄灰	良好	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ、外周部タタキ (7条/単位)、内周部板ナデで上部に 指押さえ	内外面に灰付着
167	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	18.6 8.4	外) 灰黄 内) におい黄橙 底) 灰	良好	密	口縁部内外面ヨコナデ、外周部タタキ、 内周部板ナデ (指押さえの痕跡残る)	
168	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	16.2 5.3	外) 灰オリーブ 内) におい黄橙 底) 灰黄	やや 不良	密	口縁部ヨコナデ、内外面板ナデ (内面下 方の右少量とよ)	
169	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	14.5 3.7	外) 灰白 内) 灰白 底) 灰白	良好	密	口縁部内外面ヨコナデ、外面部ハケ目 (8条/単位)、内周部板ナデ・指押さえ・ 板ナデの痕跡残る	
170	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	15.8 7.1	外) 灰白 内) 灰白 底) 暗灰	やや 不良	密	外面ナデ、内面指押さえ・粘土織履、口 縁部ヨコナデ	
171	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	13.4 7.7	外) 暗灰黄 内) 暗灰黄 底) 灰	良好	やや粗	外面ハケ目後ヨコナデ、内面ヨコナデ・深 部指押さえとナデ、粘土織履直あり	外面に灰付着しているが 断面にも観察できる、丸 指系?
172	土師器 釜	第V層	口径 (破) 器高 (残)	29.4 8.4	外) におい黄 内) 灰白 底) 灰	やや 黄質	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ (磨滅のため不明 瞭)、外周部板ナデ、内周部板ナデ ナデ (磨滅のため不明瞭)	
173	埴式片土師 器	第V層	口径 (破) 器高 (残)	21.2 4.2	外) におい黄橙 内) におい黄橙 底) 黒	良好	やや粗	内外面ヨコナデ、外面ナデ方向のハケ (ヨ コナデにより消されている)	
174	土師器 作	第V層	口径 (破) 器高 (残)	14.6 2.6	外) におい黄橙 内) におい黄橙 底) 灰	良好	やや粗	内外面ナデ (調整不明瞭)	

部号 番号	機種	出寸地点	法量 (cm)	色調	完成	船主	抜法の特徴	備考
175	十脚器 高杯	第V層	底径(復) 器高(残) 18.4 5.4	外) 灰 内) にふい黄 漆(黄)	良好	やや強	外面ミガキ、内面ハケ目、脚底部内面 ヨコナデ	穿孔あり
176	上脚器 小皿丸底	第V層	口径(復) 器高 126 6.25	外) 灰 内) 灰白 漆(白)	良好	密	外面上半ヨコナデ・下半ハケ目、内面 上半ハケ目後ヨコナデ(ナデ消している) 下半ナデ	
177	十脚器 小皿丸底	第V層	口径(復) 器高 8.8 4.25	外) 漆 内) にふい黄 漆(黄)	良好	密	内外面ヨコナデ・ミガキ、底脚磨滅の ため不明、外面トキズリ	外面は火を受けたのか赤 変、深のようなもの付着
178	古式上脚器 高杯	第V層	口径(復) 器高(残) 10.4 7.5	外) 加納漆 内) 漆(黄) 漆(黄)にふい黄	良好	密	外面ヨコ方向ヘラミガキとタテ方向縦か いへつミガキ、内面ヨコとタテのヘラミ ガキ・しほり目、口縁部ヨコナデ	縦筋なつくり
179	十脚器 高杯	第V層	底径(復) 器高(残) 9.2 6.8	外) 漆 内) 漆 漆(黄)にふい黄	良好	やや強	外面ハケ目(少し残る)・ミガキ(消 失)しているようである。底部ヨコナデ、 内面しほり目・ナデ・脚底不明部分あり	穿孔は3ヶ所
180	須恵器 瓶下付筒	第V層	口径(復) 器高(残) 10.0 3.9	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	内外面回転ナデ、外面把手取り付け付 ナデ、タテ書きによる説状文(4条/平座) 施す	
181	須恵器 壺	第V層	口径(復) 器高 12.0 3.5	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	内外面回転ナデ・ナデ	
182	須恵器 杯	第V層	口径(復) 器高(残) 14.0 16.3 3.8	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	外面上半と内面回転ナデ、外下半回転 ナデスリ	
183	須恵器 杯	第V層	口径(復) 器高(残) 13.3 15.2 3.9	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	外面回転ナデ・回転ナデスリ、内面回転 ナデ、カマ記号あり	
184	須恵器 皿	第V層	口径(復) 器高 15.6 2.95	外) 灰白 内) 灰白 漆(灰)	やや 軟質	密	内外面回転ナデ・ナデ	
185	須恵器 杯	第V層	口径(復) 器高 17.4 3.6	外) 灰白 内) 灰白 漆(灰)	良好	密	内外面回転ナデ(外面底部は除く)、外 面底部ナデ・瓶下取り合わせた痕跡あり	
186	須恵器 杯	第V層	口径(復) 器高 15.0 3.15	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	内外面回転ナデ・ナデ、外面底部に粘土 跡き目痕あり	
187	須恵器 杯	第V層	口径(復) 器高(残) 12.8 10.0 4.3	外) オリーブ灰 内) 灰 漆(灰)に灰 白(灰)	良好	密	内外面回転ナデ・ナデ、外面高台貼り付 けのヨコナデ	
188	須恵器 杯	第V層	口径(復) 器高(残) 17.2 12.3 5.3	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	外面回転ナデ・高台貼り付けのヨコナデ ・内面回転ナデ	
189	須恵器 杯	第V層	底径(復) 器高(残) 16.8 3.8	外) 灰白 内) 灰白 漆(灰)	良好	密	底部ヘラ切り、内外面磨滅ナデ、貼り付 け高台部分後ナデ	
190	須恵器 高杯	第V層	底径(復) 器高(残) 12.6 8.7	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	外面と内面下半回転ナデ、内面上半し ほり底	
191	須恵器 壺	第V層	口径(復) 器高(残) 18.0 8.0	外) 灰 内) 灰 漆(灰)	良好	密	外面回転ナデとタタキ、内面回転ナデ ・ナデ、粘土跡き目痕あり	
192	平瓦	第V層	焼長 焼幅 厚 19.2 19.6 2.6	外) 黄灰 内) 灰 漆(灰)	良好 (復元)	密	凸部表面直、凹面隅目タタキ、焼部ヘラ 切り後未調整	全体的に焼成作りである 、ヘラ切り部分は乾燥 時下側にあったのか削け ている
193	平瓦	第V層	焼長 焼幅 厚 13.2 11.2 2.6	外) 灰白・灰 内) 灰白 漆(灰)	やや 軟質	やや粗	凸部表面直(ナデ消している部分あり) ・布とこぼし・面取り施す、凹隅目タタキ、 焼部ヘラ切り	全体に磨滅している
194	十脚器 初編草	第V層	底径(復) 器高(残) 4.2 1.3	外) 灰オリーブ 内) 灰オリーブ 漆(灰)	良好	密		外・断面にベンガラ付着
195	樽式系上脚器 小片	第V層	器高(残) 2.9	外) 灰白 内) にふい黄 漆(黄)	良好	やや粗	外面格子目タタキ、内面ナデ	灰質、外白に灰付着
196	樽式系上脚器 小片	第V層	器高(残) 2.4	外) 漆 内) 漆 漆(灰)	良好	密	外面格子目タタキ、内面ナデ	灰質

押出番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼成	胎 土	技法の特徴	説 考	
197	韓式系土器 小片	第V層	縦長 最大厚 5.0 0.45	外) 淡赤褐色 内) 黄褐色 灰青	やや 不良	密	外周縁目タタキ、内面ナデ		
198	韓式系土器 小片	第V層	縦長 最大厚 8.7 0.6	外) 暗灰青 内) 濃い黄褐色 濃い黄褐色	良好	密	外周縁目タタキ、内面ナデ		
199	韓式系土器 小片	第V層	縦長 最大厚 15.5 0.8	外) に濃い黄褐色 内) 黄褐色 灰	良好	密	外周縁目タタキ、内面ナデ		
200	韓式系土器 小片	第V層	縦長 最大厚 10.1 0.45	外) に濃い黄褐色 内) 灰黄褐色 灰黄褐色	良好	密	外周縁目タタキ、内面ナデ		
201	韓式系土器 葉	第V層	器高 (残)	14.0	外) 灰 内) 淡灰 黄褐色	良好	密	外周縁目タタキ・タタキ (ナデにより残 えている部分あり)・流線造す、内面花 得さえ装ナデ	執貫
202	韓式系土器 葉	第V層	器高 (残)	3.6	外) サリーブ類 内) 灰 灰赤	良好	密	外周縁目タタキ、内面ナデ	須忠宣
203	瓦石	第V層	残長 残幅 残厚 点	6.7 3.4 1.2 45.4g			粘板岩	裏面に溝 (?) 3あり、 指痕は縦横にはしている	
204	割片	第V層	残長 残幅 残厚 点	5.9 2.3 0.4 4.3g			粘板岩	胎土は不純物が多くして粘 性しよとして変化した (B) ものと推定される。割片は人ど からものだけ認められる	
205	石核	第V層	長 幅 厚 点	3.5 2.8 2.8 63.8g				玉作の原石	
206	刮器	第V層	残長 幅 厚 重	6.0 1.4 1.0 31.1g			サヌカイト	二上山産	
207	石核	第V層	残長 残幅 残厚 点	5.1 2.8 1.6 27.4g			サヌカイト	二上山産	
208	砥石	第V層	残長 残幅 残厚 重	8.7 7.2 2.6 141.0g			泥岩	両面に磨痕あり	
209	土師器 小壺形	器身層 (土師器C)	口径 (原)	7.6	外) に濃い黄褐色 内) に濃い黄褐色 濃い黄褐色	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ、粘土ひも 状	
210	土師器 壺	器身層 (土師器C)	口径 (原) 器高 (残)	12.8 9.9	外) に濃い黄褐色 内) に濃い黄褐色 濃い黄褐色	良好	密	外周ヨコナデ・タテ (斜め) 方向両面ヘ ラムシガキ、内面口縁部ヨコナデとヨコ (斜 め) 方向ヘラムシガキ・頸部から底部斜め 方向ヘラムシガキ	
211	土師器 壺	器身層 (土師器C)	口径 (原) 器高 (残)	15.4 6.0	外) に濃い黄褐色 内) 灰黄褐色 灰	良好	密	外周タタキ目、内面ナデ、口縁部ヨコナ デ	
212	土師器 壺	器身層 (土師器C)	口径 (原) 器高 (残)	7.6 11.3	外) 灰黄褐色 内) 褐色 灰黄褐色	良好	密	内面ナデ、内面ナデ・板ナデ・ヘルクスリ、 口縁部ヨコナデ	
213	土師器 小型壺	器身層 (土師器C)	口径 (原) 器高 (残)	9.8 6.0	外) 淡黄褐色 内) 灰黄褐色 黄褐色	良好	密	外周口縁部と頸部タタキ・底部タタキ目・外・内面ともに少量の灰 分付着	
214	土師器 高杯	器身層 (土師器C)	口径 (原) 器高 (残)	11.2 5.3	外) に濃い黄褐色 内) に濃い黄褐色 黄褐色	良好	密	外周板ナデ・背広痕あり、内面ナデ、口 縁部ヨコナデ	
215	土師器 高杯	器身層 (土師器C)	口径 (原) 器高 (残)	10.7 8.1	外) に濃い黄褐色 内) 淡黄褐色 灰	やや 軟質	やや粗	外周部硬さ不明・脚部指押さえてミガ キ、内周部ミガキとナデ (口縁部不明 確)・頸部ナデ	
216	土師器 支線型土器	器身層 (土師器C)			外) 粗 内) に濃い黄褐色 黄褐色	良好	密	外周ナデとヘラムシガキ、内面ナデ	底部縁部に穿孔あり
217	土師器 特殊器台?	器身層 (土師器C)	器高 (残)	5.0	外) 明赤褐色 内) 褐色 灰	良好	やや粗	外周タガがはずれた跡・ヘツ括るによる 痕跡あり、内面ナデ (調整不明確)	器胎の可能性あり
218	土師器 壺	器身層 (土師器D)	口径 (原) 器高 (残)	20.5 6.4	外) に濃い黄褐色 内) に濃い黄褐色 灰	やや 不良	密	内外面ヨコナデ・ナデ、外周に粘土板状 あり	

神延 番号	器名	出土地点	法量 (cm)	色 装	込成	胎 上	技法の特徴	備 考	
219	土師器 壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高 92 154	外) 灰黄 内) 灰黄 底) 灰	やや 不良	密	外面ナデとハケ目、内面ナデと板ナデ、 口縁部ヨコナデ	底部に車道あり、やや乳 粒なつくり	
220	土師器 小型丸底壺	常呂郡 (土師群D)	器高(残)	118	外) 黄 内) 黄 底) 黄	良好	密	外面ヘラミガキ、内面ナデ、粘土粒感あ り	外面に痕分らしきもの付 着
221	土師器 小型丸底壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高 62 75	外) 赤い黄 内) 黄 底) 灰	やや 不良	密	内外面指押さえてナデ、口縁部指押さ え	外面指押さえてナデ、口縁部指押さ え	
222	土師器 小型丸底壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高 120 115	外) 赤い黄 内) 赤い黄 底) 灰	良好	密	外面ナデ、タタキ目、ヘラケズリ、内面 ナデとハケ目、口縁部ヨコナデ	外面ナデ、タタキ目、ヘラケズリ、内面 ナデとハケ目、口縁部ヨコナデ	
223	土師器 壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高 150 217	外) 赤い黄 内) 赤い 底) 灰	良好	密	外面タタキ目、内面板状工具によるナデ、 口縁部ヨコナデ	外面ナデと内面に黄 粉着	
224	赤土土器 壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高(残)	170 199	外) 赤い黄 内) 黄 底) 灰	良好	密	外面タタキ目、内面板ナデ(少量の石が とんでいる)、口縁部ヨコナデ	外面タタキ目、内面板ナデ(少量の石が とんでいる)、口縁部ヨコナデ
225	土師器 壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高(残)	170 48	外) 黄 内) 黄 底) 灰	良好	密	外面タタキ、内面ナデ・粘土粒感、口縁 部ヨコナデ	外面タタキ、内面ナデ・粘土粒感、口縁 部ヨコナデ
226	土師器 壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高(残)	121 80	外) 灰黄 内) 灰黄 底) 灰	良好	やや粗	内外面ヨコナデ・ナデ(内面板ナデ)、 粘土粒感	内外面ヨコナデ・ナデ(内面板ナデ)、 粘土粒感
227	土師器 壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高(残)	160 52	外) 灰 内) 灰 底) 灰	良好	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ(ナデ上げ)、外 面体部タタキ、内面体部ケズリ、粘土粒 感あり	口縁部内外面ヨコナデ(ナデ上げ)、外 面体部タタキ、内面体部ケズリ、粘土粒 感あり
228	土師器 小型壺	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高 87	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	密	外面タタキ目、内面ナデ、口縁部ヨコナ デ	外面タタキ目、内面ナデ、口縁部ヨコナ デ	
229	土師器 有孔鉢	常呂郡 (土師群D)	底径 器高(残)	40 57	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	やや粗	外面指押さえてナデ・底部未調整、内面 ナデ・下部板ナデ、粘土粒目混あり	有孔あり
230	土師器 有孔鉢	常呂郡 (土師群D)	底径 器高(残)	36 28	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	やや粗	外面面に線刻あり、外面タタキ・底部ナ デ、内面ナデと指押さえて	有孔あり
231	土師器 有孔鉢	常呂郡 (土師群D)	底径 器高(残)	52 24	外) 赤い黄 内) 赤い黄 底) 灰	良好	やや粗	外面ナデと指ナデ・内部指ナデと指押さ え、内面板ナデ(放射状に入る)	外面ナデと指ナデ・内部指ナデと指押さ え、内面板ナデ(放射状に入る)
232	弥生土器 高杯	常呂郡 (土師群D)	器高(残)	48	外) 灰黄 内) 灰 底) 灰	良好	やや粗	内外面に赤色顔料塗布(ほとんど消れて いる)、内外面ミガキ(ほとんど消え ている)	内外面に赤色顔料塗布(ほとんど消れて いる)、内外面ミガキ(ほとんど消え ている)
233	土師器 高杯	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高(残)	206 40	外) 赤い黄 内) 赤い黄 底) 灰	やや 不良	密	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・板 ナデ	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・板 ナデ
234	土師器 高杯	常呂郡 (土師群D)	口径(復) 器高(残)	198 132	外) 赤い黄 内) 赤い黄 底) 灰	良好	密	内外面ナデ、ヨコナデ、外面に板状文・ 割目文・9条のケシ掻き文・9条の板 状文施す	脚部に5ヶ孔を穿つ(外 →内) 非常に丁寧なつくり
235	土師器 高杯	常呂郡 (土師群D)	底径 器高(残)	102 53	外) 赤い黄 内) 赤い黄 底) 灰	良好	密	外面13条のヘラ指す波線と横刻文を施 す・粘土粒が方向へらミガキとナデ、 内面体部板ナデへらミガキが残る、ナデ、し じり目・脚底部少量の石がとぶ	内面に透かし4ヶ所穿つ ・粘土粒が方向へらミガキとナデ、 内面体部板ナデへらミガキが残る、ナデ、し じり目・脚底部少量の石がとぶ
236	土師器 高杯	常呂郡 (土師群D)	底径 器高(残)	130 70	外) 黄 内) 黄 底) 灰	良好	粗	外面ヘラナデ、内面ナデ、脚底部ヨコナ デ	外面ヘラナデ、内面ナデ、脚底部ヨコナ デ
237	土師器 壺	常呂郡 (土師群B)	口径(復) 器高(残)	203 78	外) 灰オリーブ 内) 灰オリーブ 底) 灰オリーブ	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	内外面ヨコナデ・ナデ
238	陶片	常呂郡 (土師群D)	片径 厚さ 重量	86 6.0 2.5 117.5g			サセカイト	二上山跡	
239	土師器 壺	常呂郡 (土師群B)	口径(復) 器高(残)	148 107	外) 灰オリーブ 内) 黒 底) 灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ・ナデ・タタキ、内面ヨコ ナデ・ナデ	内面(残っている部分) 黒染?
240	土師器 壺	常呂郡 (土師群B)	口径(復) 器高(残)	163 98	外) 灰黄 内) 灰黄 底) 灰	良好	やや粗	外面ハケ目(ヨコ・ナデ・斜め)、内面 ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	外面体部上半に黄粉着 ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ

探頭番号	探頭	出上地点	流量 (cm)	色 澤	焼成	胎 上	技法の特徴	備 考	
211	土師器 小型丸底壺	第Ⅱ層 (十勝群F)	口径(内) 器高	111 122	外) におい黄褐色あり 内) 黄褐色	やや不良	密	外面ナデ、内面板ナデ・握押え・粘土練あり	外部上半部から底部にかけて露付着
242	土師器 小型丸底壺	第Ⅱ層 (十勝群F)	口径 器高	110 66	外) 赤褐色 内) 赤褐色 底) 赤褐色	良好	密	外面ヘラミダキ(短文風)・わずかに口縁あり、内面ミダキ(短文風)、口縁部ココナテ	一部口縁、口縁部から外部下部にかけて露付着
243	土師器 壺	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高	144 263	外) におい黄褐色あり 内) 黄褐色	良好	密	外面ハケ目(ココ・タテ・斜め)、内面縦筋のハケ目・底部ヘラズリ。底部上部に粘土練着と握押えあり、口縁部ココナテ	一部口縁、口縁部から外部下部にかけて露付着
244	土師器 壺	第Ⅱ層 (十勝群F)	口径(内) 器高	135 210	外) 浅黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	外面ハケ目、内面ナデと握押え、口縁部ココナテ	一部外面中央部と底部内側に露付着
245	土師器 壺	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高(残)	147 128	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	良好	密	外面板ナデハケ目(タテ・ヨコ・斜め)、内面外部ナデ・ヘラズリ・粘土練着、口縁部ココナテ	外面外部上半に露付着
246	土師器 壺	第Ⅱ層 (十勝群F)	口径 器高	128 133	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	良好	密	口縁部ココナテ、外面ナデ5条/cmの黄いハケ目、内面ヘラズリ	
247	土師器 壺	第Ⅱ層 (土器群F)	口径(内) 器高(残)	122 132	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色	良好	密	外面ナデ7条/cmのハケ目、内面ナデ・ヘラズリ・粘土練着あり、口縁部ココナテ	外面外部に露付着
248	土師器 丸底壺	第Ⅱ層 (土器群F)	口径(内) 器高	102 145	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色	不良	密	口縁部ココナテ、内外面握押え、外面ハケ目、内面ナデ	
249	土師器 壺	第Ⅱ層 (十勝群F)	器高(残)	15.8	外) 浅黄褐色 内) 灰黄褐色	良好	密	外面握押え後にハケ目とナデ、内面ナデと握押え	外部外部に露付着
250	土師器 壺	第Ⅱ層 (十勝群F)	口径 器高	97 68	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	やや不良	密	内外面ナデ、口縁部ココナテ	内面に露付着
251	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高	177 130	外) 黄褐色 内) 黄褐色	やや不良	密	外面ナデ、内面ナデ・器部にしほり痕とヘラズリ、口縁部ココナテ	
252	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群F)	口径(内) 器高(残)	178 5.45	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	良好	密	内外面ココナテ・ナデ、外面に輪縁・粘土練着あり	
253	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高(残)	196 65	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	良好	密	外面ナデ、内面ナデ・板ナデまたは4条/cmのハケ目、口縁部ココナテ	
254	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群F)	口径(内) 器高(残)	176 5.1	外) におい黄褐色あり 内) 浅黄褐色	やや不良	密	内外面ココナテ・ナデ	
255	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高(残)	133 5.5	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	やや不良	密	外面ナデ・板ナデ、内面ヨコ方内ヘラズリ・ナデ	
256	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高(残)	122 7.8	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	良好	密	外面ナデ、内面ヨコ方内ヘラズリ・ナデ	
257	土師器 器口	第Ⅱ層 (土器群F)	口径 器高	7.5 8.5	外) 暗灰褐色 内) 暗灰褐色	触れ	密	内外面陶胎ナデ、口縁部と器口ココナテ	器口部分に透かし
258	土師器 杯蓋	第Ⅱ層 (土器群G)	口径 器高	151 4.5	外) 灰黄褐色 内) オリーブ灰	悪露	密	外面上半部板ヘラズリ・下半部ナデ、内面鉄分付着あり	
259	土師器 小型丸底壺	第Ⅱ層 (土器群II)	口径 器高	90 82	外) におい黄褐色あり 内) 黄褐色	良好	密	外面板ナデ、内面ナデと握押え	
260	土師器 丸底壺	第Ⅱ層 (土器群II)	口径 器高(残)	118 98	外) におい黄褐色あり 内) におい黄褐色	良好	やや粗	内外面ココナテ・板ナデ	
261	土師器 丸底壺	第Ⅱ層 (土器群II)	器高(残)	16.8	外) におい黄褐色あり 内) 暗灰褐色	やや不良	やや粗	内外面板ナデ、口縁部ココナテ	底部に黒痕あり
262	土師器 高杯	第Ⅱ層 (土器群I)	口径 器高	18.9 14.53	外) 黄褐色 内) 黄褐色	良好	密	外面ナデと黄いヘラミダキ、内面器口ナデ・脚部ハケ目、底部口縁部ココナテ	

採掘番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色 調	施成	胎 土	技法の特徴	備 考
263	土製器 酒杯	草豆堀 (土器群J)	口径(残) 5.6	外) におい青緑 内) におい黄緑 灰白	良好	やや粗	外面ハケ目、裏と唇部押さえの表線残る。唇下部に斜交文と穿孔、内面と半ばりり窪・下半ナデ	穿孔は3ヶ所確認できるが4ヶ所あけていたと見られる
264	土製器 酒杯	草豆堀 (土器群J)	口径 13.8 3.0	外) におい黄 内) におい黄 灰黄緑	良好	密	外面ナデ・6条/cmのハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ	
265	土製器 酒杯	草豆堀 (土器群J)	口径 15.8 10.1	外) 灰白 内) 灰白 灰白	良好	密	内外面ナデ、口縁部と唇部ヨコナデ	
266	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群J)	口径 9.6 12.5	外) におい黄緑 内) 灰黄緑	良好	密	外面ナデと板ナデ・ヘラケズリ、内面ハケ目とナデ、口縁部ヨコナデ、粘土線あり	体部外面一部に黒斑あり
267	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群J)	口径 9.8 14.5	外) 灰黄 内) 灰黄 灰黄	やや不良	密	外面ナデ、内面板ナデと指押さえ、口縁部ヨコナデ	
268	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群J)	口径 15.0 18.6	外) 黄緑 内) におい黄緑 緑	良好	やや粗	内面に粘土線が多く残っている。外面ヨコ方内ヘラミガキと斜め方向ヘラミガキ、内面窪部ヨコ方内ヘラミガキ・体部ナデ、口縁部ヨコナデ	内外面にペンガラ付着、後期?
269	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 8.9 13.4	外) におい黄緑 内) におい黄緑 灰	良好	密	外面ナデとハケ目、内面ナデと指押さえ、口縁部ヨコナデ	
270	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 8.2 6.5 9.6 8.2	外) 黄灰 内) 黄灰 黄灰 黄灰	良好	密	外面ナデ、内面指押えとナデ、口縁部ヨコナデ	粗面なつくり
271	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 9.0 9.2	外) 灰黄 内) 灰黄 灰	良好	密	外面板ナデ、内面ナデと指押さえ、口縁部ヨコナデ	外面口縁部から底面にかけて内面口縁部と底に窪付
272	土製器 ミニチュア壺	草豆堀 (土器群M)	口径 7.4 7.6	外) におい黄 内) におい黄 灰	良好	密	内外面指押えとナデ、口縁部ヨコナデ	底部穿孔あり
273	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 9.2 9.9	外) におい黄緑 内) におい黄緑 灰	良好	密	外面板ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ、内面底部指押え	
274	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 10.4 8.8	外) 黄灰黄 内) 黄灰黄 黄	良好	密	内外面ナデと指押さえ、口縁部ヨコナデ	粗面なつくり
275	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 4.9	外) 黄 内) におい黄 灰	良好	密	外面指押えとナデ、内面指押えと板ナデ	粗面なつくり
276	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 9.2 12.0	外) におい黄 内) 灰黄緑 灰	良好	密	外面ヘラケズリ、内面指押えとナデ、口縁部ヨコナデ	外面唇部下半に窪付着
277	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径(残) 7.15	外) におい黄緑 内) におい黄緑 黄灰	良好	密	外面ハケ目、内面ヘラケズリ・減部ヨコナデ	底部に穿孔あり、打ち欠きあり
278	土製器 小型丸底壺	草豆堀 (土器群M)	口径 8.9 8.9	外) 灰黄 内) 灰黄 灰	良好	密	外面ハケ目、内面ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	体記中半部に黒斑あり
279	土製器 大型壺	草豆堀 (土器群M)	口径 18.7 28.0	外) 黄 内) 黄 黄	良好	密	口縁部ヨコナデ、減部ナデ、外面体部と底面部ヘラミガキ・下半部ヘラケズリ、内面体部強いヘラケズリ・上半部ヘラケズリと指押さえ	
280	土製器 壺	草豆堀 (土器群M)	口径(復) 14.2 19.7	外) 黄 内) 灰黄 灰	良好	密	外面ハケ目、内面ヘラケズリと指押さえ、口縁部ヨコナデ	口縁部と体部外面、底面内面に黒が付着
281	土製器 壺	草豆堀 (土器群M)	口径(復) 14.1 16.2	外) 黄灰黄 内) 黄灰黄 黄灰黄	良好	密	外面ナデ、内面ヘラケズリ・粘土線あり、口縁部ヨコナデ	
282	土製器 大型壺	草豆堀 (土器群M)	口径 24.8 32.0 46.2	外) 黄 内) 黄 黄	良好	密	口縁部ヨコナデ、減部ナデ、外面体部と体部ハケ目、内面体部上半ハケ目と指押さえ・ヘラケズリ・下半指押さえ	体部内面下半部に黒が付着
283	土製器 大型壺	草豆堀 (土器群M)	口径(復) 15.5 13.0	外) 黄 内) 灰黄 灰	やや不良	密	口縁部と底面ヨコナデ、外面体部ハケ目、内面体部ヘラケズリ	体部と半部に黒斑あり
284	土製器 壺	草豆堀 (土器群M)	口径(復) 16.2 8.7	外) 灰黄 内) 灰 灰	良好	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ、外面体部ハケ目、内面体部ケズリ後ナデ	

採回番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	泥成	造土	技法の特徴	備考	
285	土師器 壺	第Ⅴ層 (土師器M)	口径(復) 器高(残)	162 58	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) 黄灰	良好	密	口縁から底部にかけてヨコナデ、外面体部ハケ目、内面体部ナデ・ケズリ・粘土層さし肌あり、外側ハケ目は目入れにかけている	
286	土師器丸底甕	第Ⅴ層 (土師器M)	口径 器高	168 238	外) 灰青 内) 灰オリーブ 底) 灰	良好	密	外周に粘板ナデ、内周体部ヘラケズリ、口縁部と底部ヨコナデ、粘土肌あり	胴部に黒斑あり
287	土師器 壺	第Ⅴ層 (土師器M)	口径(復) 器高	148 106	外) オリーブ黒 内) 黄灰 底) 灰	良好	密	口縁部ヨコナデ・ナデ、外面体部・体部8cmのハケ目、内面体部滑澤さし・体部ヘラケズリ	
288	土師器 壺	第Ⅴ層 (土師器M)	口径(復) 器高(残)	184 44	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) にぶい黄	良好	密	内外両面ヨコナデ・ナデ	
289	土師器 壺	第Ⅴ層 (土師器M)	口径(復) 器高(残)	153 81	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) 灰黄褐色	良好	密	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・滑澤さし・粘土肌あり板ナデ・ヘラケズリ、内面板ナデ・ヘラケズリ、内外面に粘土肌あり	
290	土師器 小壺	第Ⅴ層 (土師器M)	口径 器高	104 67	外) 灰黄 内) オリーブ黒 底) オリーブ黒	良好	密	内外面ナデ、内面に拵直肌あり、口縁部ヨコナデ	体部中半部～底部にかけて黒斑あり
291	土師器 壺	第Ⅴ層 (土師器M)	口径 器高	98 66	外) 明褐色 内) にぶい黄褐色 底) 灰白	やや不良	密	外面ナデ、内面板ナデ、口縁部ヨコナデ、粘土肌あり	粘斑全つくり
292	土師器 高杯	第Ⅴ層 (土師器M)	口径 器高	218 164	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) オリーブ黒	良好	密	外面ナデとヘラミガキ、内面ナデとヘラミガキ、ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	
293	土師器 高杯	第Ⅴ層 (土師器M)	底部(復) 器高(残)	139 85	外) 灰黄 内) にぶい黄褐色 底) 灰黄	良好	密	外面ヘラナデ・ナデ、内面ナデ	4方に内側の溝かしを撃つ(外→内へ)
294	土師器 高杯	第Ⅴ層 (土師器M)	底径(復) 器高(残)	110 52	外) 暗灰黄 内) 灰黄 底) オリーブ黒	やや不良	密	外面暗いヘラミガキ、内面ナデ、胎底部ヨコナデ	
295	土師器 高杯	第Ⅴ層 (土師器M)	口径(復) 器高(残)	132 80	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) オリーブ黒	良好	密	外面へラミガキによる(ヘラナデ)・ナデ、内面にしほり目・ヘラケズリ、胎底部ヨコナデ	
296	土師器 高杯	第Ⅴ層 (土師器M)	底径(復) 器高(残)	103 40	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) 黄灰	良好	密	外面ナデ・粘土肌あり、内面ナデ・ヘラケズリ・ヘラ滑澤さし・しほり目あり、胎底部内外面ヨコナデ	
297	灰石	第Ⅴ層 (土師器M)	長 幅 厚 重	160 52 19 250.1g			砂岩		打ち割り跡の凹凸がやや残る所あり
298	灰石	第Ⅴ層 (土師器M)	長 幅 厚 重	130 7.5 5.0 695.7g			砂岩		打撃痕あり
299	台石	第Ⅴ層 (土師器M)	縦長 幅 厚 重	105 94 9.4 3524.6g			流紋岩?		流紋岩*
300	土師器 高杯	第Ⅴ層 (土師器M)	口径 器高(残)	132 72	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) にぶい黄褐色	やや不良	密	外面ヘラミガキ、内面ナデ・粘土肌あり、口縁部ヨコナデ	
301	雑土式土師器	第Ⅴ層 (土師器N)	器高(残)	43	外) 灰黄褐色 内) 灰 底) 灰黄褐色	良好	やや粗	外面粘り目タタキ、内面剛直小剛	鉄質
302	土師器 小壺丸底甕	第Ⅴ層 (土師器O)	器高(残)	70	外) にぶい黄褐色 内) 灰黄褐色 底) にぶい黄褐色	良好	密	外面板ナデ、内面ナデと滑澤さし、粘土肌あり	
303	土師器 鉢	第Ⅴ層 (土師器O)	口径(復) 底径 器高	122 42 615	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) 灰白	良好	やや粗	外面タタキ・底部糸割撃、内面口縁部板ナデ・板ナデ	外面口縁部に條付若ナデ
304	土師器 壺	第Ⅴ層 (土師器O)	口径 器高	133 92	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 底) 灰黄褐色	良好	密	内外面ハケ目、口縁部ヨコナデ	胴部に穿孔あり
305	土師器 台	第Ⅴ層 (土師器O)	口径 器高(残)	147 135	外) にぶい黄褐色 内) にぶい黄褐色 底) 灰	良好	密	外面板ナデ・ヨコナデ、内面板ナデ・ナデ・ヨコナデ、内外面に粘土肌あり	胴部中心に2段計13コの穿孔あり
306	土師器 無蓋甕	第Ⅴ層 (土師器Q)	口径(復) 器高(残)	106 140	外) 灰黄 内) 灰黄 底) 黄灰	良好	密	外面ヘラミガキ、内口縁部滑澤さしと板ナデ、口縁部ヨコナデ	外面一部口縁から胴部下部にかけて條付若、胴部に穿孔あり

押問番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼成	新 七	技法の特徴	備 考
307	十郎器 長頸壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 107 123	外) におい黄 内) 灰黄緑 断) におい藍	良好	密	内外面ヨコナデ・底ナデ(外面タテ方向、内面ヨコと斜め方向)、内面に粘土粒あり	外面口縁部から底部上下にかけて厚付き
308	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 302 37	外) におい黄緑 内) におい黄緑 断) 灰	良好	密	口縁部ナデ、内面口縁下部ケズリ・口縁部部取り揃す	本層出土最多(古墳時代の研究)610-a 期(内式並行)
309	弥生土器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 116 57	外) におい黄緑 内) におい黄緑 断) 灰	やや不良	密	外面口縁部に竹管文飾す・頸部に断かいハタ目、内面ヨコナデ・ナデ・頸部に粘土粒あり	
310	土師器 びわく壺	第Ⅴ層	器高 71	外) におい藍 内) 細灰 断) 黄灰	良好	密	内外面ナデ、内面頸部から肩部にかけして厚付きあり	
311	十郎器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 184 77	外) 黄緑 内) 黄緑 断) 灰オリーブ	やや不良	密	内外面ヨコナデ・ナデ、内面頸部揃す	
312	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 92 61	外) 灰黄 断) 灰オリーブ系	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	
313	弥生土器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 180 50	外) におい黄緑 内) におい黄緑 断) 灰	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	二重口縁、内面に厚付き
314	弥生土器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 180 62	外) 灰黄 内) 黄灰 断) 灰黄	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	二重口縁、内面口縁部に厚付き
315	土師器 小型丸底壺	第Ⅴ層	器高(残) 112	外) におい藍 内) 灰黄緑 断) 灰白	やや不良	密	外面ヘラミガキとヘラケズリ、内面指押さえと敷ナデとハタ目	
316	弥生土器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 40 98	外) 藍 内) 灰黄 断) におい藍	良好	密	内外面ナデ、内面に粘土粒あり	二重口縁
317	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 110 140	外) におい赤黒 内) 明赤黒 断) 黄灰	やや不良	やや粗	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・体部上部に指押板	全体的に壁をつくりで外面には厚付きが著しい
318	十郎器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高 130 173	外) 黄灰 内) 灰 断) 黄緑	良好	密	外面タタキ目、内面ヘラミガキと指押さえ、口縁部ヨコナデ	底部外面に黒染を有する
319	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 178 127	外) におい黄 内) 灰黄 断) 灰黄	良好	密	外面ナデ・タタキ目、内面ナデ・指押板あり、口縁部ヨコナデ、内外面に粘土粒あり	
320	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 154 58	外) におい藍 内) 灰黄緑 断) 灰	やや不良	密	外面タタキ目、内面ナデ・粘土粒あり、口縁部ヨコナデ	
321	十郎器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 140 108	外) 灰黄 内) 灰黄 断) 灰黄	良好	密	外面口縁部ヨコナデとナデ・体部タタキ目(下方は磨耗)、内面口縁部ヨコナデ・頸部指押さえ・体部ナデ	外面に少量の厚付き
322	十郎器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 158 32	外) 明赤黄 内) 黄灰黄 断) 灰黄	良好	密	口縁部ヨコナデ、外面タタキ目、内面ナデ・ヘラケズリ	
323	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 178 63	外) におい黄緑 内) におい黄緑 断) 灰	やや不良	密	外面体部タタキ目、内面体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	
324	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 145 132	外) 明赤黒 内) におい赤黒 断) 灰	不良	やや粗	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・底ナデ、内面口縁部ヨコナデとヘラナデ・頸部指押さえ・体部ヘラケズリ	粗壁なつくり
325	十郎器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 169 26	外) 灰 内) 明赤灰 断) 灰黄緑	良好	やや粗	内外面ヨコナデ、内面体部ケズリ、粘土磨き目あり	
326	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 178 35	外) 細灰 内) 灰 断) 灰	良好	密	外面ヨコナデ・ハタ目(少しだけ見える)、内面ヨコナデ・ケズリ	
327	土師器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 144 40	外) 黄灰 内) 黄灰 断) 灰	良好	密	外面ヨコナデ・頸部ハタ目(ヨコナデで消しかけている)、内面ヨコナデ・ケズリ	
328	十郎器 壺	第Ⅴ層	口径(復) 器高(残) 164 44	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	良好	やや粗	口縁部内外面ヨコナデ(ナデ上打)、外面体部ハタ目、内面口縁部ハタ目・体部ケズリ、内面ハタ目は口縁部全体に施されていると思われるがナデより濃されている	

押出番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色 調	焼成	胎 土	技法の特徴	備 考
329	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 14.0 3.3	外) 灰赤褐色 内) 灰白黄褐色 灰黄褐色	良好	密	外面ヨコナデ・腹部にハケ目(ほんの少し見える)、内面ヨコナデ・ケズリ、粘土の接合痕が明々に見られる	
330	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 15.4 3.8	外) 褐色 内) 灰白 褐色	良好	密	外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ケズリ	
331	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 17.8 6.0	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰白	良好	やや粗	口縁部と頸部ヨコナデ、外面腹部ハケ目、内面腹部ケズリ	
332	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 14.1 7.3	外) 灰黄 内) 灰白黄褐色 -	良好	密	外面ナデ・8条/cmのハケ目、内面ナデ・ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	
333	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 16.0 29.1	外) 灰白黄褐色 内) 灰白 褐色	良好	密	外面ハケ目、内面ヘラケズリ・指押さえ、口縁部ヨコナデ	
334	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 14.0 13.0	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 黄褐色	良好	密	外面体部10条/cmのハケ目・体部上部に指押さえ、内面体部ナデ・ヘラケズリ・口縁部粘土結核、口縁部ヨコナデ	
335	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 15.4 7.3	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰	やや不良	密	内外面ヨコナデ・ナデ・粘土結核	
336	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 17.9 10.8	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰黄褐色	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ、内面頸部に指押さえ・粘土結核	
337	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 12.7 10.1	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰	良好	密	外面ヨコナデ・ナデ・体部に文あり、内面ヨコナデ・板ナデ、内外面に粘土結核	
338	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 14.9 4.3	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰	やや不良	密	口縁部ヨコナデ、外面ナデとタテ方向ハケ目	外側露出部
339	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 17.15 13.0 6.2	外) 灰黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰白黄褐色	良好	密	内外面ヨコナデ、内面筋状文並列状の痕跡残る。外部右下りのケズリを打つ、底部の指押あり、上唇縁部は指押による内面肥厚と思われるが所収での観察ではできなかった	山陰系複合口縁部内である
340	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 19.8 5.0	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 にうび筋	良好	密	内外面ヨコナデ	
341	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 14.4 5.2	外) 灰白 内) 灰白 灰白	良好	密	内外面ヨコナデ、内面頸下ケズリ	
342	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 7.3 3.0	外) 褐色 内) 褐色 褐色	良好	やや粗	内外面ヨコナデ、内面体部磨滅のため不明	
343	土師器 壺	第Ⅱ層	器高(残) 4.2	外) 灰白 内) 灰白 灰白	良好	やや粗	外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ、粘土結核目あり	東海系
344	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 20.4 5.6	外) 灰白 内) 灰白 新灰	良好	密	内外面ヨコナデ、外面体部ハケ目(上部はヨコナデによりハケ目消されている)、内面体部指押さへの痕跡残る	
345	土師器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 14.5 3.9	外) 灰白黄褐色 内) 灰白 褐色	概観	やや粗	口縁部と外面体部ヨコナデ、外面体部ハケ目、内面体部磨滅不明、全体に指押さえており調整不明瞭、粘土結核目あり	
346	土師器 小型丸蓋	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 9.7 7.5	外) 灰黄 内) 灰黄 灰	良好	密	外面ナデ、内面ナデ、ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ	
347	土師器 小型丸蓋	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 8.9 8.6	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 褐色	良好	密	内外面板ナデ、口縁部ヨコナデ	外面体部に黒面あり、体部に打ち欠きあり
348	土師器 鉢	第Ⅱ層	底径(復) 器高(残) 4.0 3.3	外) 灰 内) 灰 灰	良好	やや粗	外面調整不明・底部指押さえとナデ、内面ハケ目	
349	土師器 鉢	第Ⅱ層	底径(復) 器高(残) 4.1 2.7	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 灰白黄褐色	良好	密	外面ナデ・指押さえ、内面ミガキ	
350	土師器 有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復) 器高(残) 4.5 3.1	外) 灰白黄褐色 内) 灰白黄褐色 褐色	良好	やや粗	外面タタキ、内面板ナデとナデ	穿孔あり

採回番号	器種	出土地点	수량 (cm)	色調	状態	胎土	技法の特徴	備考
331	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 41 器高(残) 24	外) におい殻 内) におい殻 底) におい殻	良好	やや硬	外面タタキ(削えかけている)。底部ナデ、内面ナデと指押さえ	穿孔あり
332	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 38 器高(残) 42	外) 黒灰 内) におい赤褐色 底) 黒灰	良好	密	外面タタキ、右部指押さえ、内面工具によるナデ・右部指ナデ	
333	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 47 器高(残) 20	外) 黒灰 内) 灰黄 底) 黒灰	良好	密	外面ナデ、内面に特殊工具による強いナデ、底部穿孔は上下方向からおこなっている。内面底部穿孔ナデ	
334	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 38 器高(残) 65	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	やや硬	外面タタキ・底部ナデ、内面ナデ・トド板ナデ	穿孔あり
335	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 46 器高(残) 75	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	やや硬	外面タタキ(一部ナデ削られている)。底部調整、内面ナデ、穿孔あり	
336	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 35 器高(残) 49	外) におい黄褐色 内) 消焼灰 底) 灰	良好	やや硬	外面タタキ・底部調整、内面ナデ	穿孔あり
337	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	底径(復原) 20 器高(残) 43	外) におい黄褐色 内) におい殻 底) 灰	良好	やや硬	外面タタキ、内面板ナデ	穿孔あり
338	土師器有孔鉢	第Ⅱ層	口径(復原) 178 器高(残) 49	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 黄	良好	密	口縁部ロコナデ、外面ナデ、内面7条/cmのハケ目、内外面に指し板あり	
339	弥生土器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 209 器高(残) 46	外) 灰黄 内) 灰黄 底) 灰黄	良好	密	内外口縁部ヨコナデで刃文を施す・杯部上半ナデ・杯部下半8条と5条の波状文を施す。内面口縁部ヨコナデと8条の波状文を施す・杯部ヘウミガキを削らずに残る	
340	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 262 器高(残) 37	外) におい殻 内) 消焼灰 底) オリーブ黒	やや不良	密	外面に波状文(27条)と竹筴文を施す・粘土曲板あり、内面上半タタキ方角ヘウミガキ・下半ヨコ方向ヘウミガキ、口縁部ロコナデ	内面埋付着
341	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 214 器高(残) 73	外) におい黄褐色 内) 黄褐色 底) 黄	良好	密	内外口縁部ヘウミガキ、外面口縁部ヨコナデ・割み目文あり、内面口縁部に5条の波状文、外面杯部に8条の波状文を施す	
342	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 128 器高(残) 95	外) におい赤褐色 内) におい赤褐色 底) 黒灰	良好	密	外面口縁部ヨコナデ、杯部ナデとヘウミガキとヘウミガキ、杯部ヘウミガキと粘土曲板、内面ヨコナデ	器部3方に孔を穿っている
343	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 158 器高(残) 112	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	杯部内外面ヨコナデ・ナデ、外面杯部ヘウミガキ・粘土曲板、内面脚部しほり目	
344	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 214 器高(残) 49	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 黄	やや不良	やや硬	内外面ヘウミガキ、外面割み目文・波状文を施す、口縁部内面に波状文を施す	
345	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 198 器高(残) 50	外) におい黄褐色 内) におい殻 底) 灰	小良	密	内外面ヨコナデ・5条/cmのハケ目、内外杯部下半指し板	
346	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 158 器高(残) 56	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	
347	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 154 器高(残) 63	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
348	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 178 器高(残) 47	外) 明赤褐色 内) 黄 底) 灰	良好	密	内外面ヨコナデ・ナデ	
349	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 217 器高(残) 64	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	外面ナデ・ヘウミガキ、内面ヘウミガキ、口縁部ヨコナデ、内外面に粘土曲板あり	
350	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 206 器高(残) 63	外) におい黄褐色 内) 黄褐色 底) 黄	良好	密	内外面ハケ目、口縁部ヨコナデ	
351	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 190 器高(残) 55	外) 黄褐色 内) 黄褐色 底) におい黄褐色	やや不良	密	外面11条/cmのハケ目、内面上半ナデと11条/cmのハケ目・下半ヘウミガキ削りあり、口縁部ヨコナデ	
352	土師器高杯	第Ⅱ層	口径(復原) 191 器高(残) 140	外) におい黄褐色 内) におい殻 底) 黄	やや不良	密	外面ナデ、内面ナデ・板ナデ、口縁部ヨコナデ	杯の外蓋から胴にかけて埋付着

機台番号	器位	出土地点	法量 (cm)	色 期	法成	込 十	技法の特徴	備 考
373	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 114 高さ 110	外) 橙 内) 灰 敷	良好	密	内外面ナテ、1線部ロコナテ	
374	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径(復) 104 高さ(残) 45	外) 灰 内) 灰 敷	良好	密	外面ロコナテ・ナテ・杯底部ヘラミガキ・内面取ナテ・杯口部に指押さえ・杯底下半ヘラミガキ・粘土結核あり	外面に指押さえ
375	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径(残) 113	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	杯底と脚部は寛永方法により接合される。外周脚部上半に凹線文と凸線文あり。下半ミガキ。内周脚部ナテ・脚部上半はぼり肌・下半ナテとハケ後ナテ	穴孔をよ所あけられている
376	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径(残) 104	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	外面平部ミガキ・脚部に凹線と凸線文あり。内面取ナテ	
378	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 112 高さ 79	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	外面ナテ方向ヘラミガキ・ロコナテ・内面ナテ・脚部上半粘土結核なしぼり目	4方に凹形の遺しを穿つ(内→内)
379	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径(復) 146 高さ(復) 87	外) 橙 内) 灰 敷	良好	密	外面脚部上半ヘラミガキ・下半ナテ・下半ナテ・下半ミガキとハケ目。内面脚部上半ナテ・下半ミガキとハケ目。内面のハケ目は金平に施されていたと思われる	内口3方に有り(内→内)
380	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径(復) 172 高さ(残) 26	外) 灰 内) 灰 敷	やや不良	密	外面部かハケ目・コゴと斜め方向部かハケミガキ・凹口ナテ	透かし、1つのみ残る
381	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径(復) 128 高さ(残) 80	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	外面ハケ目とミガキ・脚部ナテ・内周脚部上半ナテ・下半ミガキとハケ目。内面のハケ目は金平に施されていたと思われる	
382	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 81 高さ 37	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	外面ナテ方向部かハケミガキ・ナテ・内面ナテ	凹形の透かし15ヶ所穿つ
383	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 94 高さ 103	外) 明赤 内) 灰 敷	良好	密	内外面ナテ	
384	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 106 高さ(残) 89	外) 灰 内) 灰 敷	良好	密	外面ナテ・ヘラナテ・内面ヘラナテ・ナテ・粘土結核・下部に指押さえ	
385	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 100 高さ(残) 70	外) 灰 内) 灰 敷	良好	密	外面ヘラミガキ・ナテ・ロコナテ・脚部脚部ミガキ。内面はぼり目・ヘラナテ・ナテ・ロコナテ・粘土結核あり	
386	土師器 高杯	第Ⅰ層	口径 97 高さ 59	外) 灰 内) 灰 敷	やや不良	密	外面ナテ方向部ナテ(ハケ)・ナテ・内面はぼり目・ロコナテ方向ヘラナテ・脚部ナテ	
387	土師器 高台	第Ⅰ層	口径 276 高さ(残) 30	外) 灰 内) 灰 敷	やや不良	密	紅線口縁の広口部で、口縁部外周に3本の透孔を施す。1線部ロコナテ。口縁部に指押さえ・口縁部内面に指押さえ・工具を穿し付いたような痕跡(粘土層中の)みられる	
388	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 110 高さ(残) 80	外) 灰 内) 灰 敷	良好	密	外面1線部ロコナテ・上半部はぼり目・下半部はミガキ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ	脚部凹部中央に3孔を穿つ。脚部は中央で突起に透かし
389	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 90 高さ(残) 58	外) 灰 内) 灰 敷	良好	密	内外面ナテ・外面上部に強いヘラナテ・内面受け部ナテ(脚部のため脚部不明部分あり)	
390	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 108 高さ(残) 60	外) 灰 内) 灰 敷	良好	密	外面上部ナテ(下半ミガキあり)・ミガキ(下半部)。内面はぼり目・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ・下半ミガキ・ナテ	
391	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 94 高さ(残) 58	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	外面1線部ロコナテ・ミガキ・内面受け部ミガキ・脚部半調整(鋭りあり)。内外面ミガキは薄く入っている	穴孔3ヶ所あり
392	平格式土器	第Ⅰ層	口径(復) 162 高さ(残) 62	外) 灰 内) 灰 敷	良好	やや粗	内外面ロコナテ・ナテ・貼り付けた帯・突脚部にO字(?)刻みあり	
393	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 34 高さ(残) 30	外) 灰 内) 灰 敷	悪く	密	外面凹部ナテ・ナテ・底部未定・内面凹部ナテ・脚部のため脚部不明部分あり	内面に線状
394	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 137 高さ(残) 45	外) 灰 内) 灰 敷	悪く	密	内外面ナテ・ロコナテ	外面に灰付帯
395	土師器 高台	第Ⅰ層	口径(復) 146 高さ(残) 325	外) 灰 内) 灰 敷	悪く	密	内外面凹部ナテ・外面上半ナテ・下半ミガキ・下半ミガキ・ロコナテ(著し)。内面上半指押さえ後ナテ	

標号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	状況	胎土	技法の特徴	備考
396	須恵器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 146 60	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外周四転ナデ、内周四転ナデ・ナデ	
397	須恵器 壺	第Ⅱ層	器高(残) 78	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外面に滑押えとナデ、腹部ヨコナデ	
398	須恵器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 160 68	外 オリーブ灰 内 オリーブ灰 底 オリーブ灰	堅緻	密	内外周ヨコナデ・ナデ、内周腹下部に指押え	
399	須恵器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 162 81	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	青	内面にナデにより調整を施り滑している、内外周ヨコナデ・ナデ	
400	須恵器 鉢台	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 25 15	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外周四転ナデ	内面と外面の一部に降灰
401	須恵器 鉢台	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 26 16	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外周四転ナデ	外面に降灰
402	須恵器 高杯	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 150 55	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	青	内外周四転ナデ	内面に降灰
403	須恵器 高杯	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 160 53	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外周四転ナデ・内周四転ナデ	外面と内面下半に降灰、自然降
404	須恵器 高杯	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 102 58	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	作部内外周四転ナデ	内面に灰付層、脚部4本通しあり
405	須恵器 高杯	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 128 94	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	青	内外周ナデ、外面に透し状のものあり	3方に透しを穿つ(但し、孔は開いていない)
406	須恵器 高杯	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 102 90	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外周ナデ・ヨコナデ	3方に透かしを穿つ
407	須恵器 高杯	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 82	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外周ナデ、腹部ヨコナデ、内面裏部に滑押え	外周表面付近に登のようなもの付着、作部に穿孔あり
408	上野器 鉢台	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 62	外 灰 内 灰 底 灰	良好	やや粗	外周ナデ、内周板状上真によるナデ	透孔の数は不明、形は内影を呈すると思われる
409	須恵器 鉢台	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 40 44	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	内外周四転ナデ	内面と外面の一部に降灰
410	韓式系土器 小片	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 43 05	外 灰 内 灰 底 灰	良好	やや小良	外周格子目タタキ、内周ナデ	
411	韓式系土器 小片	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 25 04	外 灰 内 灰 底 灰	良好	密	外周格子目タタキ、内周ナデ	
412	韓式系土器 小片	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 50 06	外 灰 内 灰 底 灰	良好	密	外周格子目タタキ、内周ナデ	
413	須恵器 壺	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 66	外 灰 内 灰 底 灰	堅緻	密	外周方形タタキ、内周ナデ、	外周降灰
414	灰石	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 109 38 28 118.1g				積層されてかなりツルツルしている	
415	銅片	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 68 41 1.85 35.2g					二上山
416	銅片	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 58 29 0.8 9.6g					二上山 (?) 葉
417	灰石	第Ⅱ層	口径(復) 器高(残) 105 32 1.6 113.0g					二上山中かと思われる葉あり

標頭番号	器位	出土地点	注量 (cm)	色調	焼成	胎上	技法の特徴	備考
418	石椀?	第Ⅳ層	残長 残幅 重量	7.0 7.3 3.6 187.9g			砂質	
419	煎餅	第Ⅳ層	全径 厚さ	3.1 5.2 1.0 15.2g			サマコイト	二上山麓
420	磁石	第Ⅳ層	残長 残幅 重量	6.0 2.9 1.55 41.5g			砂質	平造用
421	石籠木製品	第Ⅳ層	残長 残幅 重量	3.5 2.4 0.85 6.7g			サマコイト	二上山
422	筒形石器	第Ⅳ層	残長 厚さ	3.7 0.95 9.2g			サマコイト	二上山
423	磁石	第Ⅳ層	残長 残幅 重量	7.4 4.6 1.1 49.3g			粘板岩	標痕あり
424	磁石	第Ⅳ層	残長 残幅 重量	8.9 7.9 0.7 71.1g			結晶片岩	縦面には不明瞭ながら2～3単位が見てとれる
425	赤生土器 瓦片蓋	第Ⅳ層 (土器群A)	口径 器高	10.0 21.9	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	口縁部と底部コナテ、外面板ナテ、内面ナテ、ヘラで押さえた痕(しほり込み)あり、内外面に粘土粒痕多数あり
426	土師器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	15.7 10.0	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	外面ナテ・外高/cmのハケ目の上からタキ目、内面ナテ、口縁部コナテ、内外面に粘土粒痕
427	土師器 広口甕 (口縁部)	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	30.8 6.0	外) におい黄褐色 内) 灰青褐色	良好	密	外面ナテ方向ヘラミガキ・口縁部部に波状文(倉倉)と白粉浮文あり、内面ナテ方向ヘラミガキ・ヨコ方向ヘラミガキ、口縁部コナテ
428	土師器 大甕	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	50.0 12.6	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	やや不良	密	外面板ナテ・指押さえ・粘土粒痕あり、内面ナテ・指押さえ・粘土粒痕あり、口縁部コナテ
429	土師器 甕	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	20.6 10.3	外) におい黄褐色 内) 灰青褐色	良好	やや粗	外面部状工具によるミガキ痕の施文・底部コナテ、内面ナテ・ハケ
430	赤生土器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	27.2 5.9	外) 灰青褐色 内) におい黄褐色	良好	密	外口縁部から縁部にかけてコナテ・底部ナテ方向ヘラミガキ(ほとんど施文)・口縁部部に波状文・波線・乳白点文(ひら型)、内面ナテ・ヨコ方向ヘラミガキ(ほとんど施文)
431	土師器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	15.0 7.8	外) 橙褐色 内) オリーブ黒褐色	不良	密	内外面コナテ・ナテ、外高頭部9.5/cmのハケ目、内面に粘土粒痕
432	土師器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	20.0 5.3	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	口縁部部はつまみあげておさめている、内外面コナテ
433	赤生土器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	19.4 7.2	外) 灰青褐色 内) 灰青褐色	良好	密	内外面コナテ・ナテ
434	土師器 小甕	第Ⅳ層 (土器群A)	底径 器高(残)	4.9 9.9	外) 灰青褐色 内) におい黄褐色	良好	密	頸部内外面コナテ、底部内外面ヘラミガキ、外面頭部から体部上半にヘラ指り波線文と波状文
435	土師器 小ハケ	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高	7.6 10.1	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	外面ナテ、外面板ナテ、口縁部コナテ
436	土師器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	底径(復) 器高(残)	14.6 8.7	外) 黄褐色 内) 黄褐色	良好	密	内外面ミガキとハケ目、口縁部コナテ、外面に粘土粒痕、内面腹下部指押さえ
437	赤生土器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高	17.2 29.1	外) におい黄褐色 内) 灰青褐色	良好	密	口縁部コナテ、外面腹いハケ目・底部ナテ、内面板ナテ
438	土師器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高	12.6 15.6	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	内外面ハケ目、口縁部コナテ
439	土師器 壺	第Ⅳ層 (土器群A)	口径(復) 器高(残)	13.0 8.7	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色	良好	密	外面ナテ・タキ目・粘土粒痕あり、内面ナテ・板ナテ、口縁部コナテ

探区番号	探種	出土地点	深さ (cm)	土 質	状況	出土	採出の特徴	備 考	
430	土器器 小形壺	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高 (残)	36 11.0	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) におい黄褐色	良好	密	外面タタキ、内面黒ナダ、粘土口縁	
441	土器器 鉢	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高 (残)	136 8.2	外) 灰褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	粗	外面黒いハケ目、内面黒ナダ、口縁部コ コナダ	口縁部から口縁部上半部にか いで採付者
442	土器器 瓶	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高	10.3 4.9	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	密	内外両ナダ、口縁部ココナダ、蓋部ヘラ ケズリ	底部に厚孔あり
443	土器器 壺	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高 (残)	130 1.0	外) 赤・黄 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	やや粗	外周部残っており遺物不鮮・ナダがはずれた部 ・通し、通しのない所にヘラ目による5条の 方形彫刻・目の方向ハケ (1次彫刻)、内面ナダ・ ハケ目・首縁と土質異なる、粘土口縁あり	
444	赤土土器 壺	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高 (残)	146 4.7	外) におい黄褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	密	外面口縁部にヘラ目抜き状と内面彫文施 す、内外両ミナギ、口縁部ココナダ	
445	土器器 壺	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高 (残)	4.8 3.1	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	密	外面タタキ目、内面ナダ、蓋部ココナダ、 内面ほり裏あり	内面全体に採付者
446	土器器 壺	草苜野 (土器群Ⅰ)	口径 器高 (残)	17.4 27.7	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) におい黄褐色	良好	密	外面ナダ・タタキ、内面ナダ・丁寧な模 ナダ、口縁部ココナダ	
447	赤土土器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	5.2 1.0	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	やや粗	外周部平背文とクシ筋ありによる流状文と クシ筋による意匠文を施す、内面ナダ・ 上部に窪みと土質異なる	
448	赤土土器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	26.0 5.3	外) におい赤褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	やや粗	やや粗	口縁部外面と内面ココナダ (内面は削滅 している)、外面口縁部に流状文施す (赤 褐色・黒褐色)、外周部ミナギ (消えか けている)	
449	赤土土器 壺	草苜野	口径 器高	7.6 11.3	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	密	外面ナダ・板ナダ・ヘラミナギ、内面ナダ・ 粘土口縁あり、口縁部ココナダ	
450	土器器 小形壺	草苜野	口径 器高 (残)	13.3 1.0	外) におい黄褐色 内) 黒褐色 底) 灰褐色	良好	密	外面彫刻・ハケミナギ、内面ココナダ・板 ナダ	内面全体に採付者
451	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	16.6 5.7	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	密	内外両ココナダ・ナダ、外面彫刻ハケ目	
452	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	20.0 9.1	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	やや粗	内外両ココナダ・ナダ	
453	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	18.0 8.6	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	密	外両ナダ・内面ナダハケ、口縁部ココ コナダ	
454	赤土土器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	24.2 2.8	外) におい黄褐色 内) 黄褐色 底) オリーブ黒	良好	密	内外両ココナダ・ナダ、外面に流溝・粘 土粒あり外面口縁部にヘラ目抜き状 (1 条) と内彫浮文を施す	
455	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	25.0 3.4	外) におい黄褐色 内) 黄褐色 底) 灰褐色	やや粗	密	内外両ココナダ・ヘラミナギ、外面口縁 部彫刻流状文と内彫浮文施す、内面粘土粒	
456	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	13.3 2.2	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	やや粗	内外両ココナダ、内面彫部ケズリ	外面に採付者
457	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	15.0 5.2	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	やや粗	内外両口縁部ココナダ (内面削滅してい る所あり)、外面彫刻ハケ目による施 文とハケ目、内面口縁部窪みと土質異なる ・粘土口縁あり	S字口縁流注・東海系
458	赤土土器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	16.6 6.4	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	密	外面ナダ・おむかへミナギを施す ・口縁部に彫文と流状文 (1条) 施す、 内面ヘラミナギ・ナダ、口縁部ココ コナダ	一面口縁
459	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	20.0 5.9	外) におい黄褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	良好	密	外面ココナダ・ナダ・口縁部に流状文 (7 条) あり、内面ココナダ・ヘラミナギ・ 板ナダ (少量の石かたんでている)	
460	土器器 壺	草苜野	口径 器高 (残)	20.8 7.0	外) 灰褐色 内) におい黄褐色 底) 灰褐色	やや粗	密	内外両ココナダ、内面に粘土粒あり	
461	土器器 小形壺	草苜野	口径 器高	7.8 10.1	外) 灰褐色 内) 灰褐色 底) 灰褐色	良好	密	口縁部ココナダ、外面ナダ・ヘラケズリ、 内面ナダ・押縁・粘土粒あり	底部中央部に黒土あり

種別 番号	屋根	出上地点	法量 (cm)	色 票	焼成	出 上	技法の特徴	備 考	
462	土師器 小型丸底皿	築造層	側径 器高 (残)	96(外) 65(内)	赤灰 陶灰 陶灰	良好	密	外面ナデ、内面灰ナデ、粘土積層あり	内外面とも全体に黒変あり
463	土師器 小口鉢	築造層	口径 器高	78(外) 11.7(内)	赤灰 灰黄 赤	やや 不良	やや粗	外面ナデ、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ	表面に木の葉文、植体交 つくり
464	土師器 小口鉢	築造層	底径 器高 (残)	29(外) 2.9(内)	黄緑 陶灰 黄緑	やや 不良	粗	内外面ナデ、外面滑澤さえ、内面粘土積	形が非常に奇む
465	土師器 盆	築造層	口径 (底) 器高 (残)	18.0(外) 6.2(内)	赤灰 赤	良好	密	外面タタキときき/cmのハケ目、内面ナ デ、胎部に指押さえ、口縁部ヨコナ デ	
466	土師器 小口鉢	築造層	口径 (底) 器高 (残)	14.7(外) 12.2(内)	灰黄 陶灰	やや 不良	粗	外面タタキ目 (ほとんど磨耗)、内面灰 ナデ、胎部に指押さえあり、口縁部ヨコナ デ	
467	土師器 壺	築造層	口径 器高	10.2(外) 5.0(内)	灰黄 赤	良好	密	口縁部ヨコナデ、内外面ヘラミガキ、内 面ナデ、粘土積層あり	
468	土師器 盆	築造層	口径 (底) 器高 (残)	12.9(外) 5.0(内)	赤灰 陶灰	良好	密	外面ヨコナデナデ、内面ヨコナデナデ タタキ	
469	土師器 盆	築造層	口径 (底) 器高 (残)	13.6(外) 6.0(内)	陶灰黄 陶灰黄 陶灰黄	良好	やや粗	内外面ヨコナデナデ、粘土積層、内面 胎部指押さえ	
470	土師器 壺	築造層	口径 (底) 器高 (残)	17.6(外) 8.0(内)	赤灰 赤	良好	密	内外面ヨコナデナデ	
471	土師器 壺	築造層	口径 (底) 器高 (残)	15.0(外) 7.3(内)	灰白 灰黄 灰	良好	密	外面ナデ、内面ヘラケズリ、口縁部ヨコ ナデ	
472	土師器 小型丸底皿	築造層	口径 器高	8.7(外) 9.3(内)	赤灰 赤	良好	密	内外面ナデ、全体から胎部灰ナデ、口縁 部ヨコナデ	
473	土師器 小型丸底皿	築造層	口径 (底) 器高 (残)	12.0(外) 7.5(内)	赤灰 赤	良好	やや粗	外面赤目ハケ目、内面赤目タタキ、全体 上部指押さえ、口縁部ヨコナデ	
474	土師器 小型丸底皿	築造層	口径 (底) 器高 (残)	12.4(外) 6.1(内)	赤灰 赤	良好	密	外面灰ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナ デ	
475	土師器 小型皿	築造層	口径 (底) 器高 (残)	8.4(外) 5.5(内)	赤灰 赤	良好	やや粗	口縁部ヨコナデ、外面磨滅のため調整不 明、四面ナデ	
476	土師器 葉 or 皿	築造層	底径 器高 (残)	4.95(外) 2.0(内)	赤灰 赤	良好	密	外面ナデ、内面灰ナデ	
477	土師器 高杯	築造層	口径 (底) 器高 (残)	6.6(外) 5.9(内)	灰黄 赤	良好	密	外面全体下平タタキの痕が少し見える、 胎部ナデ、内面胎部下平ヘラミガキ、脚 部粘土積層、其基部ヨコナデ	
478	土師器 小口鉢	築造層	口径 器高 (残)	5.6(外) 4.5(内)	赤灰 陶灰	良好	やや粗	外面ミガキ、内面灰ナデ、台部内外面ナ デ、粘土積層あり	
479	土師器 葉	築造層	くびれ部径 器高 (残)	5.2(外) 2.4(内)	灰白 赤	良好	密	外面ハケ目、内面ナデ、粘土積層	東海系S字口縁
480	土師器 盆 or 葉	築造層	底径 器高 (残)	4.1(外) 3.4(内)	赤灰 陶灰 黄灰	良好	密	内外面ナデ、外面底部に支あり (内外面 胎部にも支あり)、粘土積層あり	
481	土師器 小口鉢	築造層	口径 (底) 器高 (残)	3.6(外) 3.1(内)	赤灰 赤	良好	やや粗	内外面ナデ、外面胎部指押さえ	
482	土師器 有孔鉢	築造層	底径 器高 (残)	3.2(外) 3.3(内)	灰黄 赤	良好	やや粗	外面ナデ、内面灰ナデ (放射状)	
483	土師器 有孔鉢	築造層	底径 器高 (残)	4.0(外) 1.9(内)	赤灰 赤	良好	やや粗	外面ナデ (調整不明)、内面指押さえ、 葉ナデ	

神田 番号	器種	出上地点	度量 (cm)	色調	状態	胎上	技法の特徴	備考
484	土師器 有孔鉢	常置層	底径(復) 器高(残) 2.3 4.0	外) 土色 内) 土色 断面) にぶい黄褐色	良好	やや粗	外面ナデ・底部未調整、内面板ナデ(放射状)	穿孔あり
485	土師器 有孔鉢	常置層	底径(復) 器高(残) 5.0 2.8	外) 灰黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	やや粗	外面ナデ(一部磨砂不明瞭)、内面棒状上具痕あり	穿孔あり
486	土師器 高杯	常置層	口径(復) 器高(残) 17.6 6.2	外) 灰黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
487	土師器 高杯	常置層	口径(復) 器高(残) 17.2 4.1	外) にぶい黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	密	内外面ナデ、口縁部ヨコナデ	
488	土師器 高杯	常置層	器高(残) 9.1	外) 灰黄 内) 灰黄 断面) 灰	良好	やや粗	外面ミガキ・脚下部にクシによる横線文、内面外部ミガキ・底部上半しぼり痕・下半ナデ、内面のミガキは消えかけている	穿孔に6ヶ所あり
489	土師器 高杯	常置層	器高(残) 7.8	外) にぶい黄 内) にぶい黄 断面) 灰黄	良好	やや粗	外面杯部ハケ目・底部ミガキでクシによる横線状、内面杯部ミガキ・脚部ナデ	
490	土師器 高杯	常置層	底径(復) 器高(残) 18.2 13.2	外) にぶい黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	密	外側ヘラミガキ・ナデ、内面しぼり痕・ナデ、脚部ヨコナデ	内孔の数は不明だが3ヶ所あり
491	土師器 高杯	常置層	底径(復) 器高(残) 11.0 8.7	外) 灰黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	やや粗	外面ヘラナデ、内面ナデ・脚部上半しぼり目	3方に遺しを穿つ(外→内へ)
492	土師器 高杯	常置層	器高(復) 器高(残) 14.4 8.0	外) にぶい黄 内) にぶい黄 断面) 灰	良好	密	外面ヘラミガキ、内面しぼり目・ナデ・粘土粒痕あり、脚部ヨコナデ	4方に穿孔が穿っている
493	土師器 蓋	常置層	器高(残) 8.3	外) にぶい黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好 (火を受けている)	密	外面前部ナデ・板ナデ(板を押しあてた痕残り)、内面しぼり痕・ハケ目	火を受けたのか内外面に黒煙あり
494	土師器 高杯	常置層	口径(復) 器高(残) 11.8 5.8	外) 灰黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	密	内外面ナデ・ハケ目・ヨコナデ	4方に円形の遺しを穿つ(外→内)
495	土師器 高杯	常置層	底径(復) 器高(残) 9.2 5.7	外) にぶい黄 内) にぶい黄 断面) 灰黄	良好	やや粗	外面ミガキ(ほとんど消えている)、内面磨滅のため調整不明	穿孔の数は不明、穿孔あり
496	手造式土器	常置層	口径(復) 器高(残) 21.5 9.4	外) にぶい黄 内) 灰黄 断面) にぶい黄	やや不良	やや粗	内外面ナデ・粘土純直、外面口縁部ヨコナデ・底部に板ナデ部分あり・貼り付け変替・変替部に粗目目文飾す	
497	土師器 蓋	常置層	底径(復) 器高(残) 23.2 7.4	外) 灰黄 内) 灰黄 断面) 灰黄	良好	密	外面タタキ後ナデ(ナデによりタタキは消されている)、内面ナデ	
498	特式土器 小片	常置層	縦長 最大厚 4.0 0.4	外) にぶい黄 内) にぶい黄 断面) にぶい黄	良好	密	外面椅子目タタキ、内面ナデ	
499	須恵器 蓋	常置層	口径(復) 器高(残) 26.0 4.1	外) 灰 内) 灰 断面) 灰	堅硬	密	内外面磨製ナデ、外面ハケ目(ナデによりほとんど消えている)	口縁から内面に磨製、外面にも善く磨製、空の可能あり
500	須恵器 蓋	常置層	口径(復) 器高(残) 17.0 3.7	外) 灰 内) 灰 断面) 灰	堅硬	密	内外面磨製ナデ、外面上半に列点文を施す	内面のみ隆成す
501	須恵器 高杯	常置層	口径(復) 器高(残) 16.3 4.9	外) 灰 内) 灰 断面) 灰	堅硬	密	外面磨製ナデ、内面磨製ナデ・その他の部分調整不明	内面に自然孔(陶灰)
503	凹石?	常置層	縦長 厚 7.5 1.8 最大 130.1g			片割	磨製あり	
504	副器	常置層	縦長 厚 3.3 0.8 最大 25.6g			サマカイト		「上山産」

写 真 图 版



1. 第1遺構面西半部（南東より）



2. 第1遺構面東半部（北西より）



1. 自然流路断面 (南より)



2. 自然木 (根株?) 出土状況 (北東より)



1. 第VI層（北半部）遺物出土状況①



2. 第VI層（北半部）遺物出土状況②



1. 第VI層（北半部）遺物出土状況③



2. 第VI層（北半部）遺物出土状況④



1. 第VI層（北半部）遺物出土状況⑤



2. 第VI層（北半部）遺物出土状況⑥



1. 第VI層(南半部)遺物出土状況



2. 同上(部分接写)①



1. 同上 (部分接写) ②



2. 同上 (部分接写) ③



1. 同上 (部分接写) ④



2. 同上 (部分接写) ⑤



1. 第VI層遺物出土状況①



2. 第VI層遺物出土状況②



1. 第2遺構面南半部 (北より)



2. 第2遺構面北半部 (南東より)



1. SK-216 (北より)



2. SK-217 (東より)



1. 落込みA (北東より)



2. 落込みA 遺物出土状況 (土器)



1. 同上 (部分接写) ①



2. 同上 (部分接写) ②



1. 同上（部分接写）③



2. 落込みA遺物出土状況（碓）



1. 落込みB (南西より)



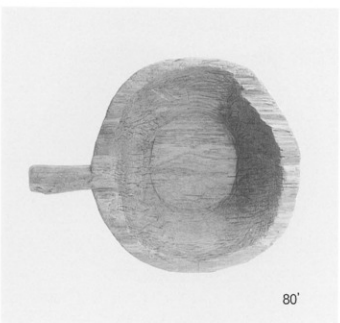
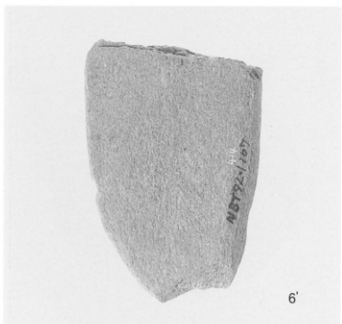
2. 落込みB内土器①出土状況

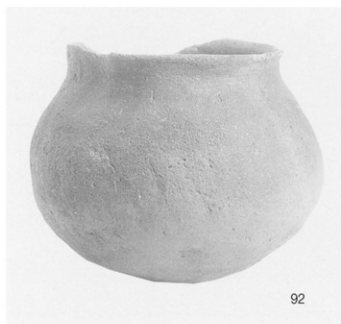
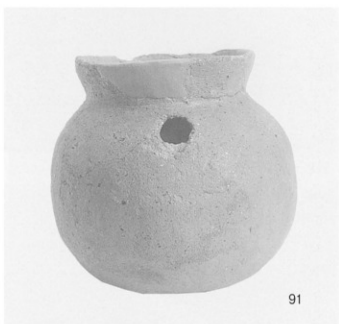


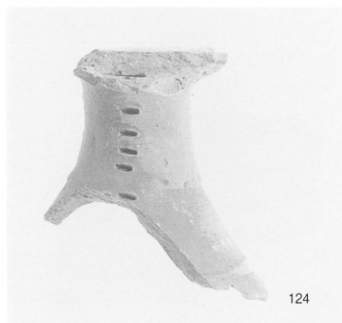
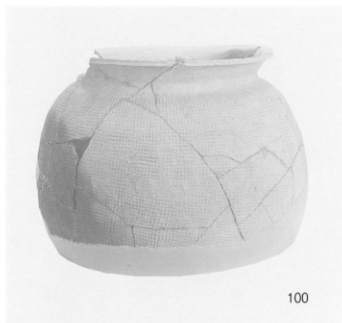
1. 落込みB内土器②出土状況

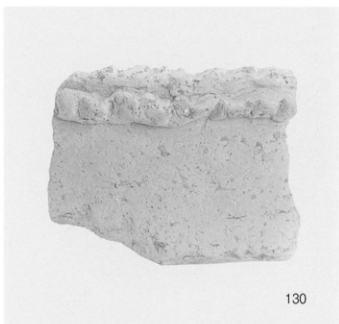


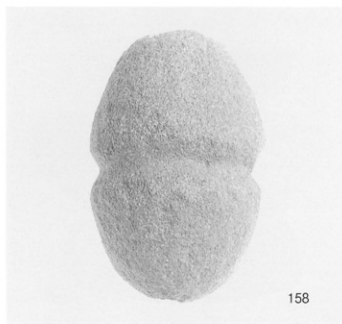
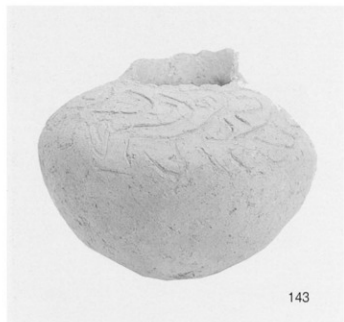
2. 落込みB内土器③出土状況













194



216



219



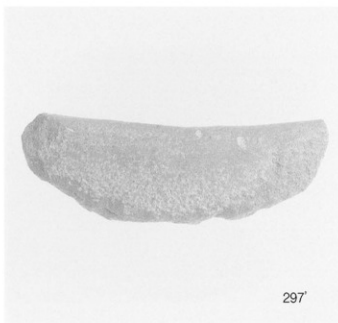
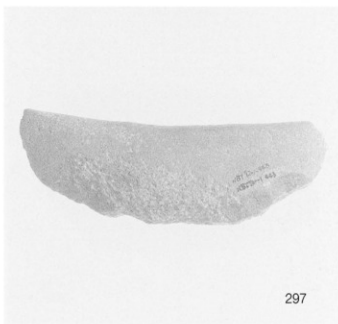
228

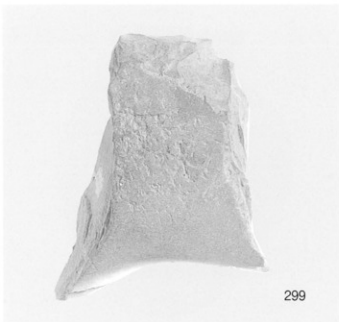


257

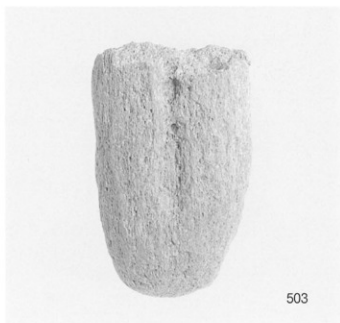
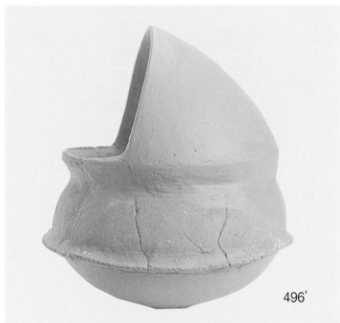
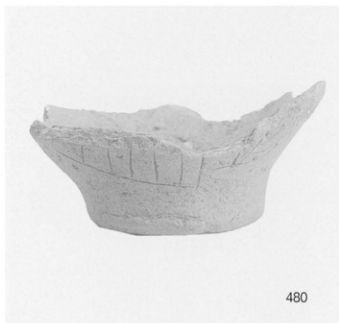
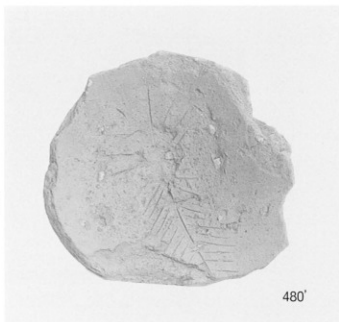


262









報 告 書 抄 録

ふりがな	なべたがわいせき							
書名	鍋田川遺跡Ⅱ							
副書名	架空送電線鉄塔〔東大阪新生駒線・鉄塔 No.22〕建替えに伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第26集							
編著者名	中達 健一							
編集機関	大東市教育委員会							
所在地	〒574・0076 大阪府大東市曙町4番6号 TEL 072・870・9105							
発行年月日	平成20年(2008)3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鍋田川遺跡	大阪府大東市中垣内	27218	6	34° 42' 26"	135° 38' 49"	1992年11月18日 ? 平1993年3月3日	676㎡	架空送電線鉄塔〔東大阪新生駒線・鉄塔 No.22〕建替え
所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鍋田川遺跡	集落	縄文時代		晩期縄文土器				
		弥生時代	溝	後期弥生土器 石製品				
		古墳～奈良時代	落込み状遺構 ピット 自然流路	土師器、須恵器 初期須恵器 韓式系土器 皮袋形土器 瓦、土製品 木製品、石製品		包含層から古墳時代前期土器の大量の出土 聖樹信仰?		
		中世	溝、土坑、鋤溝	土師器、須恵器 瓦器				
		近世以降	溝、鋤溝 石垣、石組水路	陶磁器、石臼				

印刷物番号

19-61

大東市埋蔵文化財調査報告第26集

鍋田川遺跡Ⅱ

—架空送電線鉄塔(東大阪新生胸線・鉄塔No.22)建替えに伴う発掘調査報告書—

2008年3月31日発行

編集・発行 大東市教育委員会
〒574-0076 大東市曙町4番6号
TEL.073-870-9105

印刷・製本 株式会社日興商会
〒577-0012 東大阪市長田東4丁目1番10号
TEL.06-6743-0380
